

第4節 自然科学分析

水戸城跡第88次調査(朝比奈邸跡)の自然科学分析

<目次>

はじめに

1. 試料

2. 分析方法

(1) 種実分析

(2) 鉍物分析

(3) 珪藻分析

(4) 花粉分析(石炭塊を含む)

(5) 植物珪酸体分析

(6) 樹種同定

3. 結果

(1) 種実分析

(2) 鉍物分析

(3) 珪藻分析

(4) 花粉分析(石炭塊を含む)

(5) 植物珪酸体分析

(6) 樹種同定

4. 考察

(1) 出土種実遺体

(2) 白銀粒

(3) 堆積環境

(4) 古植生と栽培植物

(5) 出土木質遺物

(6) 石炭塊

引用文献

<図表・図版一覧>

表1. 分析試料および分析項目一覧

表2. 種実同定結果

表3. 土壌試料の珪藻分析結果

表4. 土壌試料の花粉分析結果

表5. 石炭塊の花粉分析結果

表6. 土壌試料の植物珪酸体含量

表7. 樹種同定結果

図1. 土壌試料の花粉化石群集

図2. 土壌試料の植物珪酸体含量

図版1 大型植物遺体

図版2 砂分の状況

図版3 花粉化石(土壌・石炭塊)

図版4 植物珪酸体

図版5 木材(1)

図版6 木材(2)

図版7 木材(3)

図版8 木材(4)・粗朶・珪藻化石

パリノ・サーヴェイ株式会社

橋本 真紀夫 井上 智仁 松元 美由紀 矢作 健二

井上 智仁 齊藤 崇人 馬場 健司 田中 義文

はじめに

水戸城跡第88次調査(朝比奈邸跡)区は、坂下門と千波沼に挟まれた低地に立地する。今回の発掘調査からは、種実遺体や木質遺物および白銀粒などが出土し、造成跡などの遺構も検出されている。

本報告では、出土した大型植物遺体の種類を明らかにするために種実分析を、出土した白銀粒について鉍物分析を、遺構周辺の植生や栽培植物に関する情報を得るために珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を、木質遺物の種類を明らかにするために材同定をそれぞれ実施した。

1. 試料

分析試料および分析項目の一覧を表1に示す。

種実分析に用いる試料は、Ⅱ区 3BMD(試料番号1)、Ⅲ区造成遺構 E4Z 4C 層(試料番号2)より出土した種実遺体2点、Ⅲ区造成遺構(試料番号6)より採取された植物遺体混じり土壌1点の、計3点である。

鉍物分析に用いる試料は、Ⅱ区 4CBMD(試料番号3)、Ⅱ区 3BMD(試料番号4)の、計2点である。いずれの試料も外見は黒褐色を呈する砂混じりのシルトであり、試料4には礫が多く混じる。なお、2点とも調査時には白銀粒のように輝いていたとされるが、分析時の観察ではそのような状況は認められない(図版2参照)。

微化石分析に用いる試料は、鉍物分析でも対象としたⅡ区 3BMD(試料番号4)の他、Ⅲ区 1EMSの樽の底板上に認められた土壌(試料番号5)、水戸城が築城された際に湧水対策としてロームと砂利混じりの土層を交互に造成した中に見られた葉が付いたままの小枝を笹状に敷くⅢ区 E4区造成遺構の土壌(試料番号6)の、計3点である。これら3点について、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析を実施する。なお、Ⅱ区 1KHDより出土した石炭塊(試料番号19)は、黒色で強い光沢を有し、炭化が進んでおり、瀝青炭に分類される。この石炭塊については、常磐炭田の分析例(徳永・尾上,1964)で用いられている分類体系を参考にして、花

表1. 分析試料および分析項目一覧
粉分析の手法を試みる。

樹種同定に用いる試料は、出土木製品12点(No.7～18)と、Ⅲ区の造成遺構(No.6)より検出された粗朶のうち、形状の違う採取した2点の計14点である。試料の詳細は結果とともに表に示す。

2. 分析方法

(1) 種実分析

Ⅲ区造成遺構(試料番号6)は、土壌試料を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の試料

試料番号	区	遺構・層位	試料の質	分析項目						備考
				S	M	D	P	Po	W	
1	Ⅲ区	3BMD	種子(単体)	●						
2	Ⅲ区	造成遺構 E4Z 4C 層	種子(単体)	●						
3	Ⅱ区	4CBMD	鉍物(土壌)		●					調査区内で白銀粒を含む
4	Ⅱ区	3BMD	鉍物(土壌)		●	●	●	●		調査区内で白銀粒を含む
5	Ⅲ区	1EMS 樽の底板上	土壌			●	●	●		
6	Ⅲ区	造成遺構	土壌(植物遺体混じり)	●		●	●	●		葉が付いたままの小枝を笹状に敷く?
7	Ⅱ区	8BMD	箸						●	子供用
8	Ⅱ区	7BBMD	漆器椀						●	
9	Ⅱ区	8BMD	漆器椀						●	
10	Ⅰ区	一括	漆器椀						●	
11	Ⅱ区	1KHD	そろばん玉						●	
12	Ⅱ区	8BMD	樽の注口						●	
13	Ⅱ区	8BMD	日傘の軸						●	
14	Ⅱ区	8BMD	下駄						●	
15	Ⅲ区	1E4Z	下駄						●	
16	Ⅱ区	1EMS	円形版						●	
17	Ⅲ区	1KMS	円形版						●	
18	Ⅲ区	1EMS	桶底板						●	
19	Ⅱ区	1KHD	石炭塊				●			
合計点数				3	2	3	4	3	12	

1)S:種実同定, M:鉍物分析, D:珪藻分析, P:花粉分析, Po:植物珪酸体分析, W:樹種同定。

を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体の他、主に径 2mm 以上の木材や炭化材を抽出する。

大型植物遺体の同定は、現生標本や中山ほか (2010)、鈴木ほか (2018) 等を参考に実施する。マツ属複維管束亜属の葉は、一部の横断面の切片を剃刀で採取し、ガム・クロラール (抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液) で封入したプレパラートを実体顕微鏡とマイクロスコープ (KEYENCE 社製, VHX-1000) で観察し、樹種を同定する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表で示し、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。また、保存状態が良好な栽培種等を対象として、デジタルノギスを用いて長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表に併記する。大型植物遺体以外の分析残渣は、一覧表の下部に定性的な量比をプラス「+」で示す。分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約 70% のエタノール溶液で液浸保存する。

(2) 鉱物分析

「白銀色に輝く」鉱物粒の含有を確認するため、試料の主体をなす泥分を除去する。その際、試料に水を加えた泥水を超音波洗浄装置にかけ、上澄みを繰り返し流し去る。残存した砂分を実体顕微鏡下で観察、砂分中に含まれる鉱物粒や岩石片を確認する。

(3) 珪藻分析

湿重約 5g をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4~5 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数する (化石の少ない場合は、この限りではない)。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Hustedt(1930-1966)、Krammer and Lange-Bertalot(1985-1991)、Desikachary(1987)、Lange-Bertalot(2000) などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水~汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示す。

堆積環境の変遷を考察するために、珪藻化石が 100 個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成する。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、1% 以上の出現率を示す分類群についてのみ表示する (図中の●印は、総数が 100 個体以上産出した試料うち 1% 未満の種を、+ 印は総数 100 個体未満の場合の産出を示す)。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示する。

塩分に対する適応性とは、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の

塩分が含まれた方がよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いか低いかといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。

pH に対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。

流水に対する適応性とは、流れのある水域の基物(岩石・大型の藻類・水生植物など)に付着生育する種群であり、特に常時、流れのあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。

(4) 花粉分析

土壌試料については、約 10g につき水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重 2.2)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9:濃硫酸 1 の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980a)、藤木・小澤(2007)、三好ほか(2011)等を参考にする。結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し、図示する。

また、石炭塊(試料番号 19)については、以下の方法を用いる。試料の状態から、珪酸分がほとんど含まれていないと思われるので、フッ化水素酸処理は行わず、シュルツェ法とアルカリ法を用いて花粉化石を取り出す。試料 0.3g を秤量し、1g の塩素酸カリウムを加える。突沸や爆発に注意しながら 5cc の濃硝酸を少しずつ加え、室温中で一昼夜放置する。この処理は、強力な酸化剤によって有機物を分解するとともに、アルカリ溶液下での分解を容易にさせるために行う。水洗後、0.25mm の篩を通して、分解されなかった大型の植物遺体を除去する。10% の水酸化カリウムを加えて一昼夜放置し、アルカリによる有機物の分解を行う。残渣をグリセリンでゼリー封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下で、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は同定・計数結果

の一覧表として示す。

(5) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理，沈定法，重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い，植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後，プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し，その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下，短細胞珪酸体と呼ぶ）と葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下，機動細胞珪酸体と呼ぶ）およびこれらを含む珪化組織片を，近藤（2010）の分類を参考に同定し，計数する。

分析の際には，分析試料の乾燥重量，プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し，乾土 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土 1g あたりの個数に換算）を求める。

結果は，植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際，100 個 /g 未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は 10 の位で丸めている（100 単位にする）。また，各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

(6) 樹種同定

剃刀を用いて，生材の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の切片を作成する。ガムクロラルで封入，光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお木材組織の名称や特徴は，島地・伊東（1982），Wheeler 他（1998），Richter 他（2006）を参考にする。また，日本産木材の組織配列は，林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

(1) 種実分析

結果を表 2 に示す。3 点を通じて，裸子植物 1 分類群（クロマツ）の葉 1 個，被子植物 22 分類群（モモ，メヒシバ類，エノコログサ属，イネ，イネ科，ヌカスゲ類，カヤツリグサ属，スベリヒユ，ミドリハコベ近似種，ナデシコ科 A，ナデシコ科 B，アカザ属，ヒユ属，イノコズチ属？，キジムシロ類，カタバミ属，ワタ属，ニホンカボチャ近似種，アリノトウグサ，シソ属 - イヌコウジュ属，イヌコウジュ近似種，タカサブロウ）の種実 626 個の合計 627 個に同定される。この他，針葉樹の花，広葉樹の葉，木材，炭化材，植物片，虫類，岩片などが確認される。

大型植物遺体の保存状態は，比較的良好である。この中で，モモの一部には果皮が残存し，イネの一部とワタ属には炭化が見られる。栽培種として，モモ，イネ，ワタ属，ニホンカボチャ近似種が認められる。

以下に，試料別の状況を記す。

・試料番号 1(Ⅱ区 3BMD)

栽培種のニホンカボチャ近似種 91 個，イネ炭化粉 46 個と，草本のスベリヒユ 1 個，

表 2. 種実同定結果

試料番号	区	遺構・層位	試料の質	分類群	部位	状態	個数	No.	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
1	Ⅱ区	3BMD	単体	イネ	籾 (基部)	破片 炭化	12	-	2.30	-	-	残存長
							34	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							4	1	16.07	8.17	1.31	
							-	2	14.81	7.35	1.01	
							-	3	15.27	8.72	0.96	
							-	4	14.61	8.20	1.39	
							7	-	-	-	-	
							80	-	-	-	-	2mm 以上, 約 3cc
2	Ⅲ区	造成遺構 E4Z 4C 層	単体	モモ	果実・核	完形	7	1	29.39	23.16	19.81	果皮厚 0.1mm, 核頂部尖る
							-	2	29.10	22.58	19.52	
							-	3	25.87	20.10	17.35	
							-	4	26.56	22.24	18.87	
							-	5	28.32	22.01	18.86	
							-	6	25.82	20.12	16.84	
							-	7	25.32	19.14	16.09	
							1	-	-	-	-	
							1	-	26.26	22.23	-	
							3	1	27.57	21.18	19.15	
							-	2	26.56	22.00	18.73	
							-	3	26.48	20.01	17.34	
							2	-	-	-	-	
							2	-	29.52	23.12	21.82	接合し完形 1 個, 頂部尖る
							1	-	-	-	-	
							4	-	-	-	-	
							10	-	3.10	-	-	残存長
1	-	-	-	-								
6	Ⅲ区	造成遺構	土壌 50cc (84.3g)	クロマツ	葉	破片	1	-	14.88	-	-	
							1	-	-	-	-	
							1	-	25.91	-	-	落葉樹の可能性
							1	-	-	-	-	
							2	-	-	-	-	
							7	-	-	-	-	
							4.0cc	-	-	-	-	2mm 以上抽出, 樹種同定中
							0.5cc	-	-	-	-	1mm 以上, 樹種同定中
							2	-	-	-	-	
							2	-	-	-	-	
							7	-	-	-	-	
							17	-	-	-	-	
							3	-	-	-	-	
							136	-	-	-	-	
							12	-	-	-	-	
							3	-	-	-	-	果皮平滑, イヌビエ属?
							1	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							28	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							2	-	-	-	-	
							14	-	-	-	-	ウシハコベ近似
							2	-	-	-	-	
							5	-	-	-	-	小型
							36	-	-	-	-	
							6	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							5	-	-	-	-	
							70	-	-	-	-	
							44	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	
							1	-	-	-	-	隆条斜上
							2	-	-	-	-	隆条点在, 粗面
							5	-	-	-	-	
							1	-	4.50	3.14	-	残存長, 残存径, 種皮断面櫛状
							1	-	1.10	-	-	残存長
							1	-	0.98	-	-	
28	-	-	-	-								
1	-	2.35	-	-	残存長							
++	-	-	-	-	中量 (抽出対象外)							
+	-	-	-	-	少量 (抽出対象外)							
++	-	-	-	-	中量 (抽出対象外)							

1) 計測はデジタルノギスを使用。

アリノトウグサ 1 個の合計 139 個が確認される。ニホンカボチャ近似種が最も多く、完形 4 個、完形未満 7 個、破片 80 個 (約 3cc) の種子から成る。

・ 試料番号 2 (Ⅲ区造成遺構 E4Z 4C 層)

栽培種のモモ 17 個、イネ籾 10 個、草本のメヒシバ類 4 個、アカザ属 1 個の合計 32 個が認められる。モモが最も多く、半数以上 (9 個) の核表面に果皮の残存が確認される。

・ 試料番号 6 (Ⅲ区造成遺構)

試料 50cc(84.3g) より、栽培種のイネ籾 153 個、炭化籾 15 個、ワタ属炭化種子 1 個、

針葉樹のクロマツ葉 1 個，草本のメヒシバ類 4 個，エノコログサ属 9 個，イネ科 3 個，ヌカスゲ類 1 個，カヤツリグサ属 1 個，スベリヒユ 29 個，ミドリハコベ近似種 2 個，ナデシコ科 A16 個，ナデシコ科 B5 個，アカザ属 42 個，ヒユ属 120 個，イノコズチ属 ?1 個，キジムシロ類 3 個，カタバミ属 5 個，シソ属 - イヌコウジュ属 1 個，イヌコウジュ近似種 1 個，タカサブロウ 43 個の合計 456 個が見られる。この他に不明炭化物 1 個，針葉樹の雄花 1 個，広葉樹の葉 11 個，木材 4cc，炭化材 0.5cc，植物片，虫類，岩片などが確認される。

<主な種実遺体の記載>

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

果実は黒褐色，核(内果皮)は灰褐色。長さ 25.3 ~ 29.5mm，幅 19.1 ~ 23.2mm，厚さ 16.1 ~ 21.8mm のやや扁平な広楕円体で頂部は尖る。表面には縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり，粗いしわ状にみえる。縫合線に沿って半分に割れた内面には種子 1 個が入る広卵状の窪みがある。核表面に残る果皮(外果皮 + 中果皮)は，厚さ 0.1mm 程度で表面は平滑。

・ワタ属 (*Gossypium* sp.) アオイ科ワタ属

種子は炭化しており黒色，完形ならば歪な広倒卵体で頂部は鈍形，背面は丸みを帯びる。腹面はやや扁平で正中線上に縫合線の鈍稜があり，基部は種皮が伸びて臍部突起の鞘となる。柄がわずかに残存する個体もみられる。種皮表面には粗い毛(綿毛;基毛)が密生するが，殆ど磨耗欠損しており，粗面で縦長の粗い編目模様がある。出土種子は破片で残存長 4.5mm，残存径 3.1mm，種皮厚 0.2mm を測る。種皮断面は柵状で，内部に子葉が確認される。

ワタ属は，繊維，搾油を目的として世界各地の暖地で栽培される植物で，アジアワタ系統のキダチワタやシロバナワタ，南米やアフリカを起源とするカイトウメンやリクチメン，エジプトメンなどの多くの系統が存在する(星川,1995)。日本には，古代にインドから伝わり，中世末に中国から種子が輸入されて本格的な栽培が始まったとされる(星川,1987)。現時点では，種子の形態から系統を区別する情報が得られていないため，出土種子は属までの同定にとどめている。

・ニホンカボチャ近似種 (*Cucurbita* cf. *moschata* Duch.) ウリ科カボチャ属

種子は淡灰褐色，長さ 14.6 ~ 16.1mm，幅 7.4 ~ 8.7mm，厚さ 1.0 ~ 1.4mm の扁平な倒狭卵体。基部は突出し発芽孔がある。両面全周に走る縁は明瞭で，段差があり薄くなる。種皮表面は平滑。

カボチャ(属)は，栽培のために持ち込まれた渡来種で，日本で栽培しているカボチャは 16 世紀に渡来したニホンカボチャ，19 世紀に渡来したセイヨウカボチャ (*C. maxima* Duch.)，セイヨウカボチャよりさらに後れて渡来したペポカボチャ (*C. pepo* L.) の 3 種がある。ただし，山形県小山崎遺跡からは，縄文時代前期前葉の年代値 (5,578 ± 24y BP) が得られたカボチャ近似種の種子が出土しており(吉川,2015)，渡来時期には議論の余地がある。出土種子はニホンカボチャの形状に似るため，近似種を付している。

(2) 鉍物分析

以下に，試料別の状況を記す。

表3 土壌試料の珪藻分析結果

種 類	生態性			環境	Ⅱ区	Ⅲ区	Ⅲ区
	塩分	pH	流水		3BMD	1EMS	造成遺構
				指標種	試料 4	試料 5	試料 6
Nitzschia palea (Kuetz.) W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	1	1	2
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	3	1	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	7	3	2
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	1	3	2
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	4	1	1
海水生種					0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0
汽水生種					0	0	0
淡水～汽水生種					1	1	2
淡水生種					15	8	6
珪藻化石総数					16	9	8

凡例

塩分: 塩分濃度に対する適応性 pH: 水素イオン濃度に対する適応性 流水: 流水に対する適応性
 Euh: 海水生種 al-bi: 真アルカリ性種 l-bi: 真止水性種
 Euh-Meh: 海水生種 - 汽水生種 al-il: 好アルカリ性種 l-ph: 好止水性種
 Meh: 汽水生種 ind: pH不定性種 ind: 流水不定性種
 Ogh-Meh: 淡水生種 - 汽水生種 ac-il: 好酸性種 r-ph: 好流水性種
 Ogh-hil: 貧塩好塩性種 ac-bi: 真酸性種 r-bi: 真流水性種
 Ogh-ind: 貧塩不定性種 unk: pH不明種 unk: 流水不明種
 Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種
 Ogh-unk: 貧塩不明種

環境指標種

A: 外洋指標種 B: 内湾指標種 C1: 海水藻場指標種 C2: 汽水藻場指標種
 D1: 海水砂質干潟指標種 D2: 汽水砂質干潟指標種
 E1: 海水泥質干潟指標種 E2: 汽水泥質干潟指標種 F: 淡水底生種群 (以上は小杉,1988)
 G: 淡水浮遊性種群 H: 河口浮遊性種群 J: 上流性河川指標種 K: 中～下流性河川指標種
 L: 最下流性河川指標種群 M: 湖沼浮遊性種 N: 湖沼沼沢湿地指標種 O: 沼沢湿地付着生種
 P: 高層湿原指標種群 Q: 陸域指標種群 (以上は安藤,1990)
 S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上は Asai and Watanabe,1995)
 R: 陸生珪藻 (RA:A 群, RB:B 群, RI: 未区分, 伊藤・堀内,1991)

・ 試料番号 3(Ⅱ区 4CBMD)

砂分の主体を占める碎屑物は、白色～半透明を呈する石英または長石類の鉱物片であり、これに中量程度の暗灰色の火山岩片や灰色のチャート岩片、灰白色の凝灰岩片などが混在する。

「白銀色に輝く」鉱物や岩石片は認められないが、光をよく反射する粒として径 0.8～1.5mm 程度の角礫～亜角礫状を呈する無色透明の石英粒が少量見られる。

・ 試料番号 4(Ⅱ区 3BMD)

砂分の主体を占める碎屑物は、白色～半透明を呈する石英または長石類の鉱物片であり、これに中量程度の暗灰色の火山岩片や灰色のチャート岩片や砂岩片、灰白色の凝灰岩片などが混在し、極めて微量の火山ガラスも認められる。

「白銀色に輝く」鉱物や岩石片は認められないが、光をよく反射する粒として、径 0.8～1.5mm 程度の角礫～亜角礫状を呈する無色透明の石英粒が少量認められ、極めて微量の径 0.2mm 程度の角閃石の結晶も含まれる。

(3) 珪藻分析

結果を表3に示す。3点全てから、珪藻殻が産出する。しかし、いずれも産出数は非常に少ない。また、各試料から産出したものはほとんどの殻が壊れており、一部に溶解の痕跡が認められるため、保存状態は不良である。以下に、試料別の状況を記す。

・ 試料番号 4(Ⅱ区 3BMD)

珪藻化石は、16 個体が産出する。産出した種は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生

表4 土壌試料の花粉分析結果

種 類	Ⅱ区	Ⅲ区	Ⅲ区
	3BMD	1EMS	造成遺構
	4	5	6
木本花粉			
モミ属	-	8	1
ツガ属	-	-	7
マツ属複雑管束亜属	51	92	16
マツ属(不明)	126	98	45
スギ属	21	33	22
サワグルミ属	-	1	1
クルミ属	1	1	1
クマシデ属—アサダ属	2	-	1
カバノキ属	-	3	2
ハンノキ属	1	3	2
コナラ属コナラ亜属	2	3	5
コナラ属アカガシ亜属	1	1	2
クリ属	1	-	-
シイ属	-	1	2
ニレ属—ケヤキ属	1	3	3
キハダ属	-	-	1
ウルシ属	-	1	-
カエデ属	1	-	-
グミ属	-	-	1
ツツジ科	-	-	1
トネリコ属	1	-	1
草本花粉			
イネ科	36	77	121
カヤツリグサ科	2	3	9
クワ科	-	1	1
サナエタデ節—ウナギツカミ節	-	-	3
タデ属	-	-	2
ソバ属	-	-	1
アカザ科	6	18	62
スベリヒユ属	-	-	1
ナデシコ科	1	2	2
ハス属	-	-	1
カラマツソウ属	-	-	2
アブラナ科	1	-	-
バラ科	1	-	-
マメ科	-	-	2
アリノトウグサ属	3	-	1
セリ科	-	-	1
オオバコ属	-	-	1
ヨモギ属	-	2	13
キク亜科	2	1	8
タンポポ亜科	3	-	3
不明花粉			
不明花粉	6	1	9
シダ類孢子			
サンショウモ	1	-	-
ミズニラ属	-	-	1
他のシダ類孢子	30	39	42
合 計			
木本花粉	209	248	114
草本花粉	55	104	234
不明花粉	6	1	9
シダ類孢子	31	39	43
合計(不明を除く)	295	391	391
その他			
回虫卵	-	1	1
鞭虫卵	-	-	1

・試料番号4(Ⅱ区3BMD)

花粉化石群集は木本花粉が多産し、マツ属が優占する。その他ではスギ属、クマシデ属—アサダ属、コナラ属コナラ亜属などを伴う。

草本花粉ではイネ科が最も多く、カヤツリグサ科、アカザ科、アリノトウグサ属、キク亜科、タンポポ亜科などが認められる。

・試料番号5(Ⅲ区1EMS)

他の2試料と比較すると、花粉化石の保存状態がやや良い。花粉化石群集は木本花粉が多産し、マツ属が優占する。その他ではモミ属、スギ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ属などを伴う。

表5 石炭塊の花粉分析結果

種 類	Ⅱ区
	1KHD
	石炭塊
	19
被子植物花粉	
ハンノキ属?	11
ニレ属?-ケヤキ属?	1
フウ属?	2
モチノキ属?	4
三孔型	9
三溝孔型	46
縁孔型	1
不明花粉	15
合 計	89

種が伴う種群で構成される。産出した種は、淡水～汽水生種の *Nitzschia palea*, 淡水生種で陸生珪藻の *Amphora montana*, *Hantzschia amphioxys*, *Luticola mutica*, *Pinnularia subcapitata* 等である。

・試料番号5(Ⅲ区1EMS)

珪藻化石は、9個体の産出に過ぎない。産出した種は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種が伴う種群で構成される。産出した種は、試料番号4と同様である。

・試料番号6(Ⅲ区E4区造成遺構の土壌)

珪藻化石は、8個体の産出に過ぎない。産出した種は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種が伴う種群で構成される。産出した種は、他の2点と同様である。

(4) 花粉分析

土壌試料の結果を表4、図1に、石炭塊の結果を表5に示す。

土壌試料の3点からは、花粉化石が豊富に産出するが、保存状態は全体的に悪い。以下に、試料別の状況を記す。

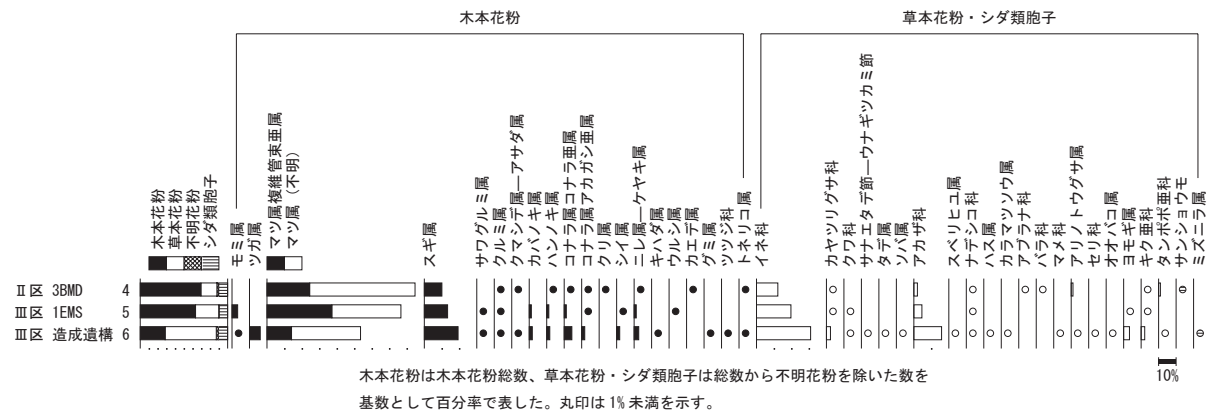


図1. 土壌試料の花粉化石群集

草本花粉ではイネ科が多く、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属などが認められる。また、寄生虫の卵である回虫卵も認められる。

・試料番号6 (III区 E4 区造成遺構の土壌)

花粉化石群集は草本花粉の割合が高い。木本花粉ではマツ属が最も多く、ツガ属、スギ属、コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ属などを伴う。

草本花粉ではイネ科が多産し、ついでアカザ科が多い。多産するイネ科は表面の保存状態が悪いために栽培種のイネ属の同定には至らないが、大きさではイネ属に近いものも含まれていた。その他ではカヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などが認められる。また、栽培の可能性のあるソバ属、水生植物のハス属、寄生虫卵の回虫卵、鞭虫卵なども、わずかではあるが確認される。

・試料番号19 (II区 1KHD 石炭塊)

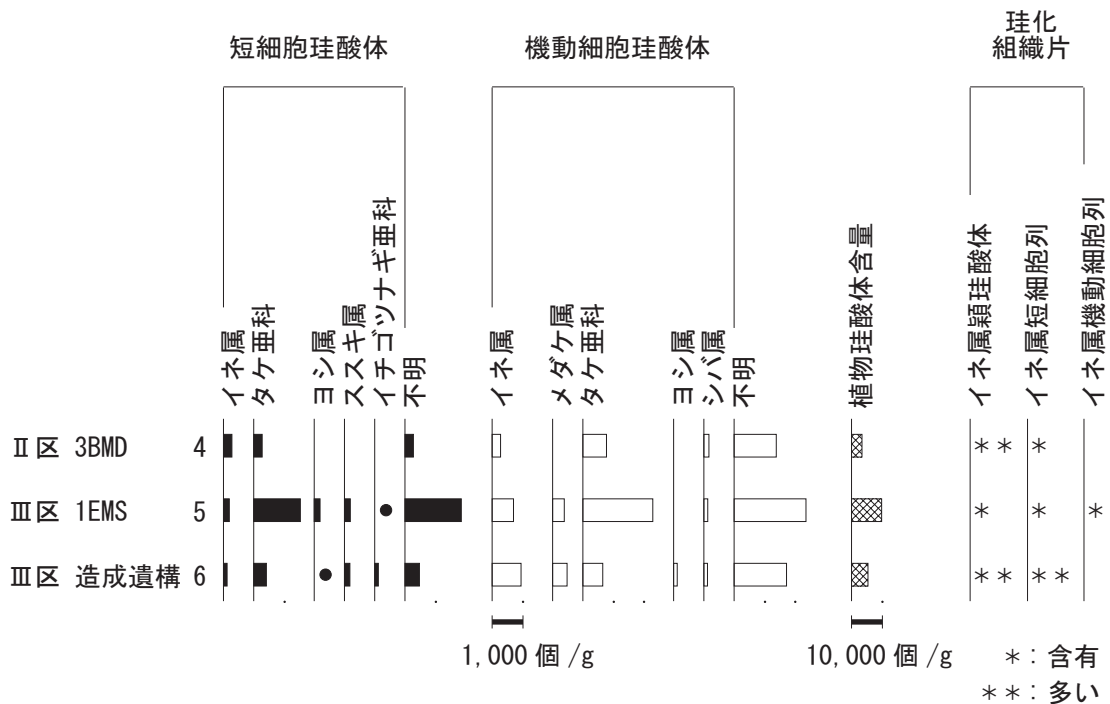
花粉化石の分類は、新第三紀以降は基本的に現生植物の分類に当てはめる。しかし、古第三紀以前は現在のものとは異なる花粉化石の形態がみられるなど、現生の植物分類体系に一致しない。このため、古第三系出土の邦産花粉化石の分類体系は一定していない。今回は、常磐炭田の分析例 (徳永・尾上, 1964) で用いられている分類体系 (和訳) を参考にする。

試料からは花粉化石が検出されるものの、花粉外膜の保存状態は非常に悪い。大部分が発芽装置 (溝や孔) の数がかろうじて判る程度で、表面形態や発芽装置の微細な形状が明瞭なものは少ない。このため、結果表中でも検出された花粉化石の大部分を形態名 (三孔

表6 土壌試料の植物珪酸体含有量

分類群	II区	III区	III区
	3BMD 4	1EMS 5	造成遺構 6
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	300	200	100
タケ亜科	300	1,500	400
ヨシ属	-	200	<100
ススキ属	-	200	200
イチゴツナギ亜科	-	<100	100
不明	300	1,900	500
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	300	700	1,000
メダケ属	-	400	500
タケ亜科	800	2,300	700
ヨシ属	-	-	100
シバ属	200	100	100
不明	1,400	2,400	1,700
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	800	4,000	1,400
イネ科葉身機動細胞珪酸体	2,600	5,900	4,100
植物珪酸体含有量	3,400	9,900	5,500
珪化組織片			
イネ属類珪酸体	**	*	**
イネ属短細胞列	*	*	**
イネ属機動細胞列	-	*	-

1) 含量は、10の位で丸めている (100単位にする)。
 2) 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後丸めている。
 3) <100: 100個/g未満。
 4) -: 未検出, *: 含有, **: 多い。



乾土 1g あたりの個数で示す。●は 100 個未満を定性的に示す。

図2. 土壌試料の花粉化石群集

型、溝孔型、縁孔型)で表している。この中で現生種に似た花粉化石は、現在の植物分類群に?をつけて表す。検出された花粉化石はいずれも被子植物であり、ハンノキ属?がやや多く、ニレ属?-ケヤキ属?, フウ属?, モチノキ属?を含む。

(5) 植物珪酸体分析

結果を表6, 図2に示す。各試料からは植物珪酸体や珪化組織片が検出される。保存状態は、いずれも概ね良好である。以下に、試料別の状況を記す。

・試料番号 4(II区 3BMD)

植物珪酸体含量は少なく、3,400 個/gである。検出された分類群の数や含量も少なく、栽培植物であるイネ属、タケ亜科、シバ属などが僅かに見られるに過ぎない。また珪化組織片として、イネ属の穎(穎)に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列も検出され、穎珪酸体が多い。

・試料番号 5(III区 1EMS)

植物珪酸体含量は 9,900 個/gで、3 試料の中で 1 番多い。検出された分類群はイネ属、メダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属など見られ、タ

表7 樹種同定結果

試料番号	試料名	用途など	同定結果
6	III区 造成遺構	粗朶	イネ科草本類
6	III区 造成遺構	粗朶	広葉樹当年枝
7	II区 8BMD	箸	タケ亜科
8	II区 7BBMD	漆器椀	ブナ属
9	II区 8BMD	漆器椀	トチノキ
10	I区 一括	漆器椀	ブナ属
11	II区 1KHD	そろばん玉	イスノキ
12	II区 8BMD	樽の注口	アワブキ属
13	II区 8BMD	日傘の軸	ケヤキ
14	II区 8BMD	下駄	キリ
15	III区 1E4Z	下駄	トネリコ属
16	II区 1EMS	円形版	スギ
17	III区 1KMS	円形版	スギ
18	III区 1EMS	桶底板	ヒノキ

ケヤキ科の産出が目立つ。また珪化組織片として、イネ属の穎珪酸体や短細胞列、機動細胞列が検出される。

・試料番号 6(Ⅲ区の造成遺構)

植物珪酸体含量は 5,500 個 /g である。検出された分類群は、試料番号 5 と同様である。この中ではタケ亜科とともにイネ属の機動細胞珪酸体の産出が目立つ。また珪化組織片として、イネ属の穎珪酸体と短細胞列が多い。

(6) 材同定

結果を表 7 に示す。Ⅲ区の造成遺構より検出された粗朶 2 種類は、広葉樹の当年枝とイネ科草本類である。木製品には、針葉樹 2 種類 (スギ, ヒノキ), 広葉樹 7 種類 (ブナ属, ケヤキ, イスノキ?, トチノキ, アワブキ属, キリ, トネリコ属), タケ亜科が認められる。以下に、検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列, 1 ~ 10 細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急である。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列, 1 ~ 15 細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2 ~ 3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は異性, 単列, 数細胞高のものから複合放射組織までである。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は 1 ~ 2 列, 孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列, 小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性, 1 ~ 6 細胞幅, 1 ~ 50 細胞高。

・イスノキ? (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.?) マンサク科イスノキ属

遺物の形状から柾目方向のみしか採取されていないが、黒い帯状が特徴的な柔組織ストランドがみられることや、道管の分布密度が高く、階段穿孔を有することから、イスノキと思われる。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形, 単独または 2 ~ 3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列, 内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性, 単列, 1 ~ 15 細胞高で階層状に配列する。

・アワブキ属 (*Meliosma*) アワブキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、細胞高は40～50細胞以上。

・キリ (*Paulownia tomentosa* (Thunb.) Steud.) ゴマノハグサ科

環孔材で、孔圏部は4～5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では管径を漸減させながら単独または2～3個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は1～4細胞幅、1～20細胞高。柔組織は翼状～連合翼状となる。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

・イネ科 (Gramineae)

小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。草本類としたものは繊維細胞が薄い。タケ亜科としたものは、繊維細胞は非常に厚く、かつ放射方向に広い。いずれも維管束は組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

4. 考察

(1) 出土種実遺体

Ⅱ区3BMD(試料番号1)では、栽培種のニホンカボチャ近似種、イネの炭化粉、草本のスベリヒユ、アリノトウグサが確認された。最も多く確認された果菜類のニホンカボチャ近似種や穀類のイネは近辺で栽培されたか、持ち込まれたかは不明であるが、当時の水戸城周辺で利用された植物質食料と示唆される。またイネ粉は全て炭化していることから、火を受けたと見なされる。遺構内に存在したイネが被熱により炭化したのか、炭化したイネが遺構内に廃棄されたのかは発掘調査成果に委ねたい。

栽培種を除いた分類群のうち、中生植物のスベリヒユとアリノトウグサは調査区周辺の草地に生育していたと考えられる。

Ⅲ区造成遺構E4Z4C層(試料番号2)では、栽培種のモモ、イネ粉、草本のメヒシバ類、アカザ属が確認された。最も多く確認されたモモは出土核の形状が類似することから、同系統に由来する可能性がある。また出土核の過半数に果皮の残存が確認された点が特筆される。果実は腐りやすいため、加工しない限り長期保存は困難である。堆積物中に残りにくい果実が出土した状況を考慮すると、短期間での埋積や埋積後の嫌氣的環境の継続などの要因が想定される。果実残存資料が埋積した時季は、結実期である初夏～初秋の可能性があるため、出土状況と人為的行為に関する詳細な検討が望まれる。

栽培種を除いた分類群のうち、中生植物のメヒシバ類とアカザ属は調査区周辺の草地に生育していたと考えられる。

(2) 白銀粒

一般に堆積物中で「白銀色に輝く」鉱物と言えば白雲母や黒雲母などの雲母類鉱物や

滑石などの鉱物片が想定される。しかし、今回分析したⅡ区 4CBMD(試料番号 3)、Ⅱ区 3BMD(試料番号 4)の 2 点共にこれらの鉱物片は含有されていなかった。試料に認められた碎屑物の中で光をよく反射する鉱物としては、上述した無色透明の石英粒が挙げられる。しかし、試料全体を輝かせるほどの含量ではない。

試料の説明でも述べたように、分析時の試料にはすでに「白銀色に輝く」状態は失われていたことから、含有物に原因があるのでは無いと考えられる。調査現場における何らかの条件下でそのような状態を呈した可能性を挙げておきたい。

(3) 堆積環境

Ⅱ区 3BMD(試料番号 4)、Ⅲ区 1EMS の樽の底板上に認められた土壌(試料番号 5)、水戸城の寛永年間の大規模改修に伴う可能性が指摘されているⅢ区造成遺構(試料番号 6)の珪藻分析結果を見ると、いずれも産出した珪藻殻が非常に少なかったため、珪藻化石の生態性や群集の生育特性による、直接的な堆積環境の推定は困難である。経験的には、堆積後に好气的環境下で大気に曝されると、短期間に分解消失することが判っている。また珪藻化石を構成するシリカ鉱物は、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度指数が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている(千木良,1995)。以上から、取り込まれた珪藻化石は、その多くが堆積後に分解が進んで消失したと思われる。ただし、いずれも産出数に多少の差異はあるものの、産状や産出した種は同様であった。このうち、淡水～汽水生種とした *Nitzschia palea* は好汚濁性種(Asai & Watanabe,1995)とされる。次に、陸生珪藻の *Amphora montana*, *Hantzschia amphioxys*, *Luticola mutica*, *Pinnularia subcapitata* は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群(小杉,1986)である。特に今回産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる(伊藤・掘内,1989,1991)。また、堆積物の分析を行った際、これらの種群が優占(70～80%以上)する結果が得られれば、その試料が堆積した場所は、水域以外の空気に曝されて乾いた環境であったことが推定できるとしている。これらを考慮すれば、いずれの場所にも汚濁が有り、乾いた状態にあったと思われる。

(4) 古植生と栽培植物

Ⅱ区 3BMD(試料番号 4)とⅢ区 1EMS の樽の底板上に認められた土壌(試料番号 5)は花粉化石群集が類似しており、木本類ではマツ属が優占する。このうち亜属まで同定できたものはすべてマツ属複維管束亜属であった。マツ属の多産は全国で知られており、関東地方での増加は近世以降の植生破壊によるマツの二次林や植林に由来するとされている(辻ほか,1986など)。マツは痩せ地でも育ち成長が早く、木材は有用で樹形も美しいことから、庭木や護岸用として、植栽される場合も多い。中世末から近世の城や庭園ではマツがよく植えられていたことから(飛田,2002)、検出されたマツ属は城内に植えられていたものに由来する可能性もある。ついで多いスギ属は、水分の豊富な山腹斜面や沢筋、扇状地の湧水部などに林分を形成するが、古くから有用材として維持管理されてきた種類でもある。よってスギ属も、周囲の植林などに由来する可能性もある。その他の木本類は、モミ属などの針葉樹、カバノキ属、ハンノキ属、クマシデ属—アサダ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ属などの落葉広葉樹が認められる。これらは現在でも周辺の山野や河畔な

どに生育している種類であることから、周辺の森林植生に由来すると思われる。

Ⅱ区 3BMD での草本類に認められたイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科などは、人里など開けた場所に草地をつくるいわゆる「雑草」であることから、城内およびその周辺に生育していたと考えられる。イネ科については、周辺に少なくともタケ亜科やシバ属などが生育していたと考えられる。また植物珪酸体や珪化組織片が検出されたイネ属については、調査地が坂下門と千波沼に挟まれた低地に立地することから、水田稲作などの農耕に由来する可能性が挙げられる。ただし、イネ属の植物体が造成工事の際に葎などの生活資材の材料として利用された可能性も否定できない。これらの可能性に関しては今後さらに、調査地の微地形や遺構の検出状況などの発掘調査所見を含めて検討する必要がある。

Ⅲ区 1EMS の樽の底板上に認められた土壌でも同様な草本類が認められ、城内およびその周辺に生育していたと考えられる。イネ科にはメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などが含まれていたと考えられる。またイネ属も産出する。ただし、イネ属の植物体は稲作地に混入する場合だけでなく、植物体が葎などの生活資材として利用される場合もある。イネ属の珪化組織片は、植物体の混入を示唆すると考えられる。そのため、イネ属の由来については今回の試料の場合も調査地の微地形や遺構の検出状況などの発掘調査所見を含めて検討する必要がある。

Ⅲ区造成遺構(試料番号6)の花粉化石群集は、前述の2地点と異なり木本類の割合が低い、検出される種類はマツ属が最も多く、ツガ属、スギ属などの針葉樹、コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ属などが認められ、前述の2地点と同様の傾向を示す。また、種実分析からもクロマツ(マツ属複雑管束亜属)の葉が同定された。クロマツは、海岸近くや崖などに生育する常緑高木である。有用材でもあることから、城周辺域の植栽樹と考えられる。草本類は、種実分析、花粉分析、植物珪酸体分析から、メヒシバ類、エノコログサ属、タケ亜科、ススキ属、シバ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科、カヤツリグサ科、スベリヒユ、ナデシコ科、アカザ属(アカザ科)、ヒユ属、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科などが認められ、他の2地点と同様の草地植生を反映していると考えられる。また、水湿地生のヨシ属、ハス属、タカサブロウ、ミズニラ属なども確認されたことから、水湿地の存在もうかがえる。ただし、ハス属は水深1m程度までの水域に生育するが、同様の深い水深を示す種類が確認されないことや、本地点が造成遺構である点も踏まえると、異なる環境に堆積した土壌を用いて造成を行った可能性もある。今後さらに、造成土の由来に関する発掘調査所見を含めて検討する必要がある。

栽培植物については、前述の種実試料のほか、土壌試料(Ⅲ区造成遺構)からイネ(粃や炭化粃)、ワタ属(炭化)が確認されている。多産するイネ科花粉にはイネ属に近い大きさのものが含まれていた。イネの花粉は、生産される花粉の1/4が粃殻内に残留することが知られている(中村,1980b)。植物珪酸体でも、イネ属の粃殻などの植物体の混入が想定されることから、多産するイネ科には混入した粃殻などに由来するものも含まれていた可能性がある。イネ属の珪化組織片として穎珪酸体と短細胞列が多かったことを考慮すれば、土壌中にイネ属の粃殻や葉部などの植物体が混入していた可能性が考えられる。したがって、イネ属の珪化組織片は瓦などと共に建築部材として利用された稲粃殻や稲藁

に由来するもの、あるいは造成時に利用された葦などに由来するものと考えられるが、現段階では明確にならない。また、ソバ属も当時の周辺で栽培されていたものに由来する可能性がある。

なお、Ⅲ区 1EMS から回虫卵が、Ⅲ区造成遺構から回虫卵、鞭虫卵が確認された。トイレ遺構などにみられる糞便堆積物には、寄生虫卵が多産する調査事例が報告されているが、今回の寄生虫卵の産状は花粉化石の産出状況と比較すると悪い。当社でこれまで全国各地で実施した花粉分析結果では、遺構内や堆積層から微量の(1ccあたり数個未満)の寄生虫卵が検出されることはそれほど珍しくない。このような場合、ある程度の人口密度のある集落の汚染の範囲内と考えられる(金原ほか,1995など)。Ⅲ区 1EMS は、樽の底板上に堆積した土壌であるものの、寄生虫卵の産状を考慮すると糞便などの混入を積極的に支持できるものではない。

(5) 出土木質遺物

造成遺構に敷かれていた粗朶類(試料番号6)は2種類が見られ、1つは広葉樹の当年枝、いま1つはイネ科草本類であった。種実や植物珪酸体で稲朶が多く含まれていることから、イネ科草本類には稲藁が混じっている可能性がある。稲藁は、本来イネ科の草本類の中では茎が太く、根株付近の葉鞘の断面が特徴的ではあるが、検出された個体は圧密を受けており、(おそらく茎や葉鞘の)表皮部分しか残っていないため、稲藁の特徴は見られない。護岸等を目的として粗朶を敷くのは粗朶工法と呼ばれ、日本の伝統的な土木技法の1つである(粗朶工法編集委員会編,1999)。

一方、出土した木製品のうち、箸はタケ亜科である。伊東・山田編(2012)の木材データベースを見ると、関東地方における江戸時代の箸はスギやヒノキなどの針葉樹材が圧倒的に多いが、タケ亜科を用いた例も都内を中心に散見される。タケは軽軟で水質に強く、適度にしなることから、箸の材料として適している。

椀はブナ属とトチノキである。椀などの挽き物はブナやトチノキ、サクラ属、ハリギリ、カエデ属、モクレン属など柔らかい木材を用いることが多いが、上品では木目が美しく、丈夫なケヤキが用いられることがある(農商務省山林局編,1912)。伊東・山田編(2012)の木材データベースを見ても、中近世の関東地方では量産品とみられるブナ属とトチノキの椀が多く検出されている。

下駄は、キリとトネリコ属である。農商務省山林局編(1912)を見ると、下駄には上品の場合はキリを用いるが、その他の樹種はスギ、サワラ、クルミ、ホオノキ、クリ、カシ、ケヤキなどやや堅い木材が選ばれる傾向にある。伊東・山田編(2012)の木材データベースを見ると、中近世の関東地方では下駄には雑多な木材が用いられており、当時は日用消耗品であった下駄が手に入れやすい木材を使って大量生産されたと考えられる。上品とされるキリの下駄は、都内を中心に散見される程度であり、希少品であったと思われる。そろばん玉はイスノキである。そろばん玉は現在でも堅く狂いにくい木が使用され、木製の玉はオノオレカンバ、イスノキ、ツゲのいずれかである。

板材はスギとヒノキ属である。これらは軽軟で加工が容易であり、木目が美しいことから、様々な用途で多用される。関東地方の江戸遺跡では、様々な用途で非常に多くの出土例がある。その他、器具材としてケヤキ、アワブキ属が出土している。ケヤキはやや重

堅で、加工しやすく、木目が美しいことから、様々な用途に使われ、関東地方の江戸遺跡でも出土例が多い。アワブキは暖地に多い種類で、それほど大きくなならないことから、特定の用途として使われることは無い。伊東・山田編(2012)の木材データベースを見ると、東北地方海岸地域より西側の暖地で器具材や杭材等として散見される程度である。

(6) 石炭塊

Ⅱ区 1KHD 石炭塊(試料番号 19)より検出された花粉化石の中で、分類群が判明したものを常磐炭田の分析例(徳永・尾上,1964)と比較すると、滝夾炭層の組成に似るが、同様な組成は北海道や九州北部の瀝青炭を含む層でも認められる(徳永,1965)。今回の結果を見る限り、出土した瀝青炭が必ずしも常磐炭田由来とは言い切れない。

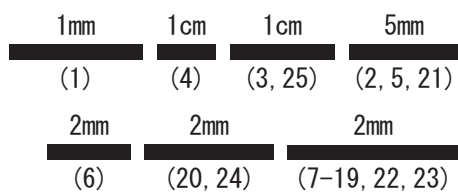
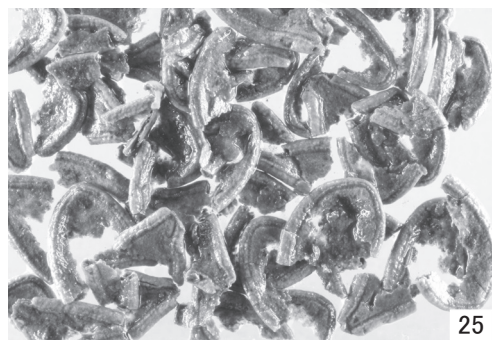
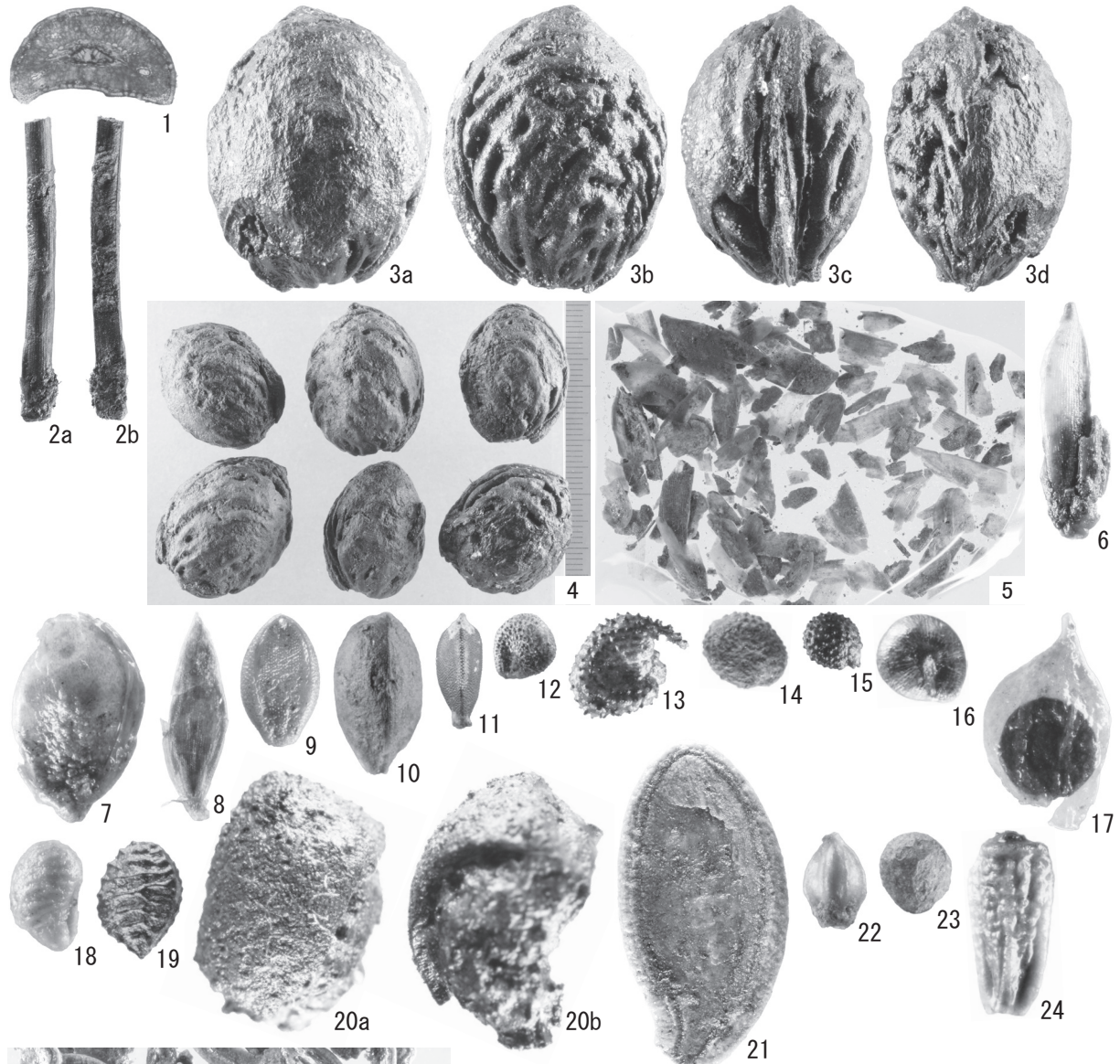
本邦産の瀝青炭は北海道や九州北部に多くの産地があり、水戸城の近くにも常磐炭田がある。日本の炭鉱における花粉分析結果は必ずしも多くない。これは、石炭層が強い構造運動を受けており、花粉化石の保存が悪いことが要因の1つである。

引用文献

- 安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理,42,73-88.
- Asai Kazumi&Watanabe Toshiharu,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,35 - 47.
- 千木良雅弘,1995,風化と崩壊. 近未来社,204p.
- Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation,1-13, Plates,401-621.
- 藤木利之・小澤智生,2007,琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画,155p.
- 林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 飛田範夫,2002,日本庭園の植栽史. 京都大学学術出版会,435p.
- 星川清親,1987,栽培植物の起源と伝播. 二宮書店,311p.
- 星川清親,1995,ワタ. 週刊朝日百科 植物の世界,75,朝日新聞社,77-79.
- Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
- Hustedt, F., 1937-1938, Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ III. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.
- Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
- Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料,31, 京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料,32, 京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料,33, 京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料,34, 京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料,35, 京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社,449p.
- 伊藤良永・堀内誠示,1989,古環境解析からみた陸生珪藻の検討 -陸生珪藻の細分-. 日本珪藻学会第10回大会講演要旨集,17.
- 伊藤良永・堀内誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 日本珪藻学誌,6,23-44.

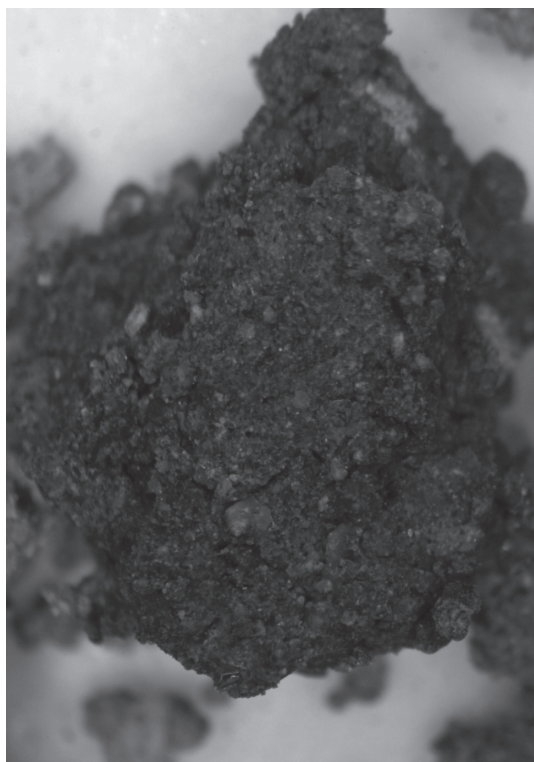
- 金原正明・金原正子・中村亮仁,1995,大宮坊跡(厠跡)における自然科学的分析. 史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ,石川県鹿島町教育委員会,51-70.
- 近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜. 北海道大学出版会,387p.
- 小杉正人,1986,陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究,1,9-44.
- 小杉正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究,27,1-20.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1985, Naviculaceae. *Bibliotheca Diatomologica*, vol. 9,p.250.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1986, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa*, 2(1) : 876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1988, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2(2): 596p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1990, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2(3): 576p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot H., 1991a, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2(4): 437p.
- Lange-Bertalot, H., Witowski, A., Metzeltin, D.,2000,ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. *Diatom Flora of Marine Coasts*, 1,925p.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑. 北海道大学出版会,824p.
- 中村 純,1980a,日本産花粉の標徴 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 中村 純,1980b,花粉分析による稲作史の研究. 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究—総括報告書—,文部省科研費特定研究「古文化財」総括班,187-204.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2010,日本植物種子図鑑(2010年改訂版). 東北大学出版会,678p.
- 農商務省山林局編,1912,木材ノ工藝的利用. 日本山林會,1312p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織. 地球社,176p.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 粗朶工法編集委員会編,1999,粗朶工法の施工事例集. 社団法人 北陸建設弘済会,60p.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2018,草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる734種 増補改訂—. ネイチャーウォッチングガイドブック,誠文堂新光社,303p.
- 徳永重元・尾上 亨,1964,常磐炭田における炭層の花粉分析研究報告 その1 石城南部地区. 地質調査所月報,15(2),15-20.
- 徳永重元,1965,本邦炭中の花粉・孢子,第2回石炭科学会議講演要旨 11. 燃料協会誌,44,792-796.
- 辻 誠一郎・南木睦彦・小杉正人,1986,文化財総合調査 茂林寺沼及び低地湿原調査報告書第2集 館林の池沼群と環境の変遷. 館林市教育委員会,110p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .
- 吉川純子,2015,植物遺体. 小山崎遺跡発掘調査報告書—総括編—,遊佐町埋蔵文化財調査報告書第10集,遊佐町教育委員会,162-165.

図版1 大型植物遺体

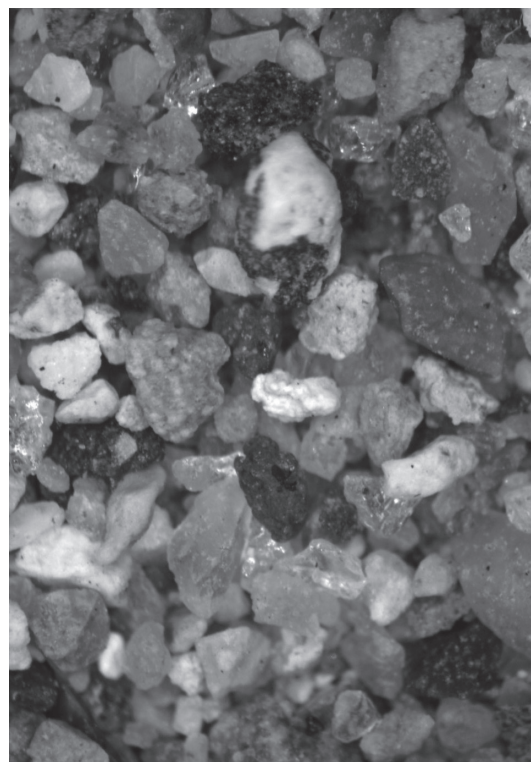


1. クロマツ 葉(横断面)(Ⅲ区 造成遺構:6)
2. クロマツ 葉(Ⅲ区 造成遺構:6)
3. モモ 果実・核(Ⅲ区 造成遺構 E4Z 4C層:2)
4. モモ 果実・核(Ⅲ区 造成遺構 E4Z 4C層:2)
5. イネ 籾(Ⅲ区 造成遺構:6)
6. イネ 籾(基部)(Ⅲ区 造成遺構:6)
7. イネ科 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
8. メヒシバ類 果実(Ⅲ区 造成遺構 E4Z 4C層:2)
9. エノコログサ属 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
10. ヌカサゲ類 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
11. カヤツリグサ属 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
12. スベリヒユ 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
13. ミドリハコベ近似種 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
14. ナデシコ科A 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
15. ナデシコ科B 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
16. アカザ属 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
17. ヒユ属 果苞・種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
18. キジムシロ類 核(Ⅲ区 造成遺構:6)
19. カタバミ属 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
20. ワタ属 種子(Ⅲ区 造成遺構:6)
21. ニホンカボチャ近似種 種子(試料番号1:Ⅱ区 3BMD)
22. アリノトウグサ 核(Ⅱ区 3BMD:1)
23. イヌコウジュ近似種 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
24. タカサプロウ 果実(Ⅲ区 造成遺構:6)
25. ニホンカボチャ近似種 種子(Ⅱ区 3BMD:1)

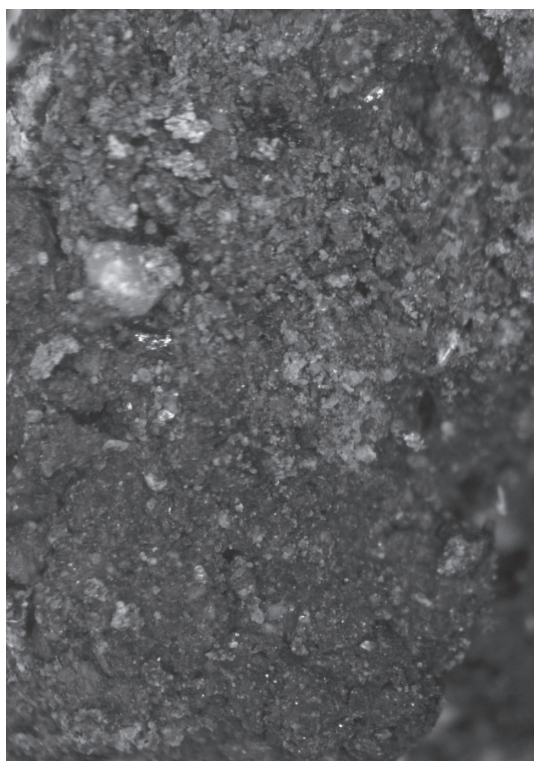
図版2 砂分の状況



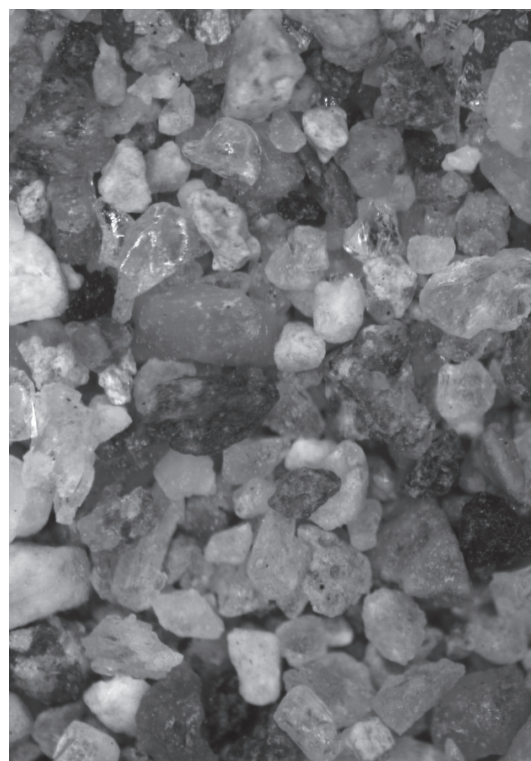
1. 土塊表面(Ⅱ区 4CBMD;3)



2. 砂分の状況(Ⅱ区 4CBMD;3)



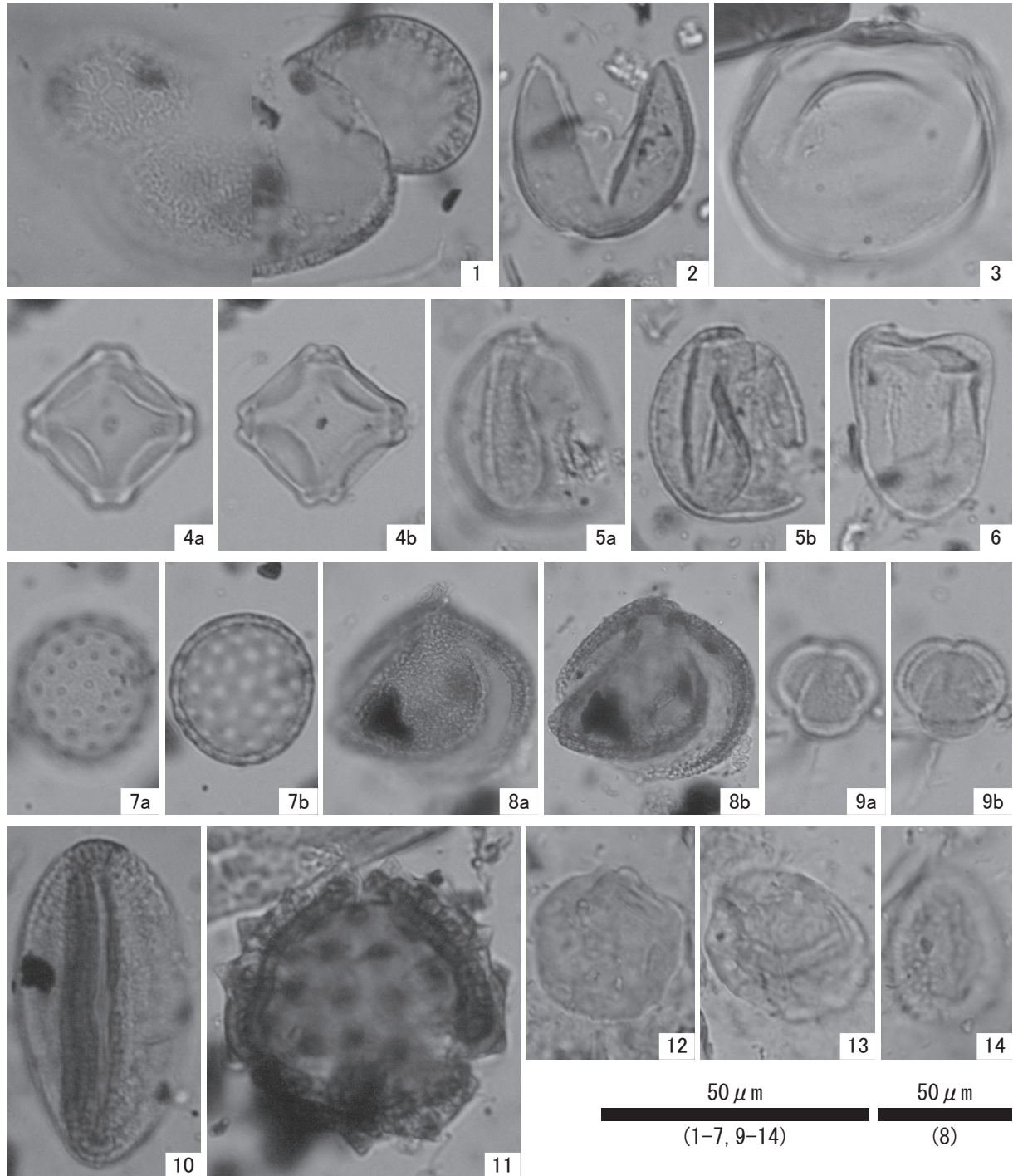
3. 土塊表面(Ⅱ区 3BMD;4)



4. 砂分の状況(Ⅱ区 3BMD;4)

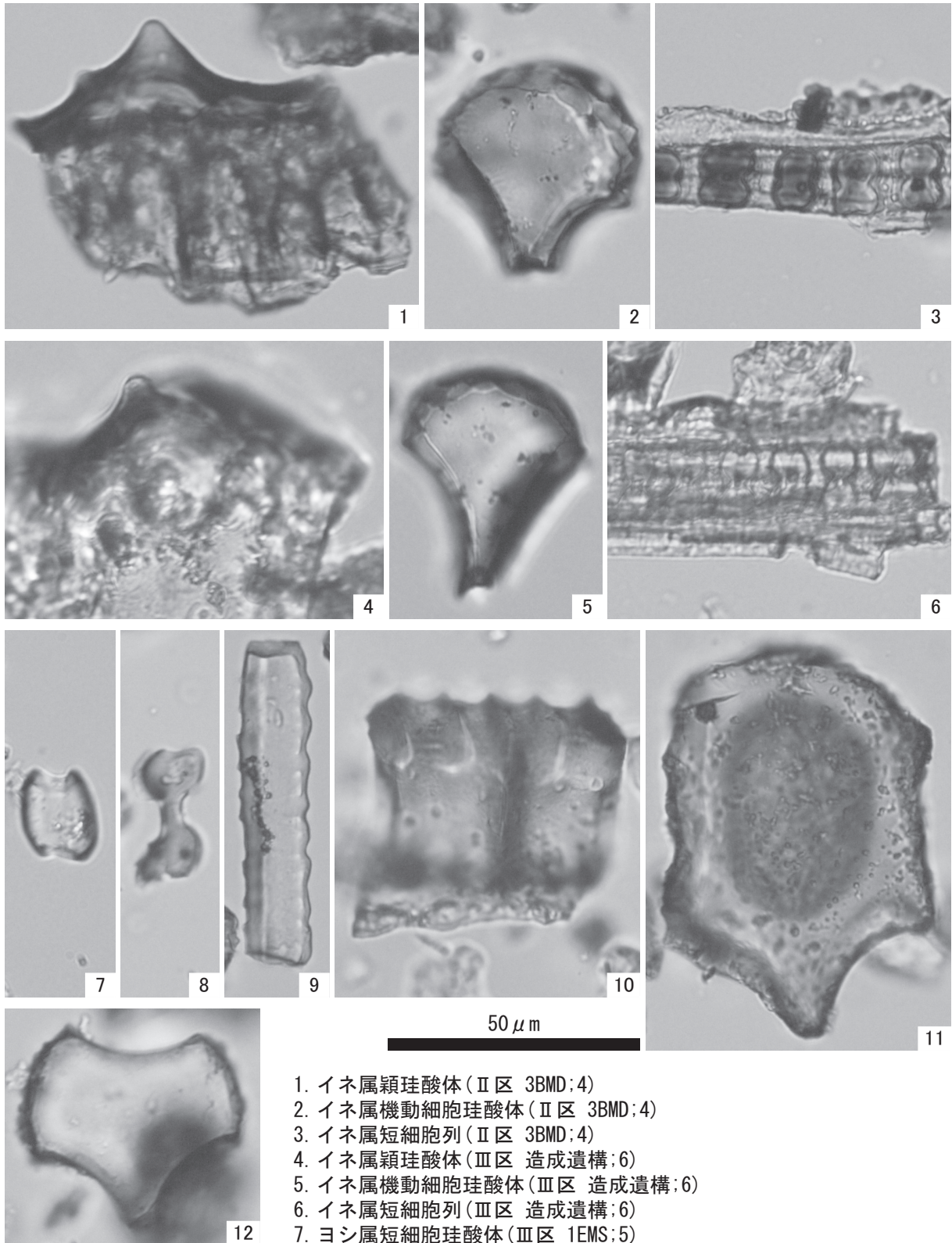
2.0mm	1.0mm
▬	▬
1, 3	2, 4

図版3 花粉化石(土壌・石炭塊)



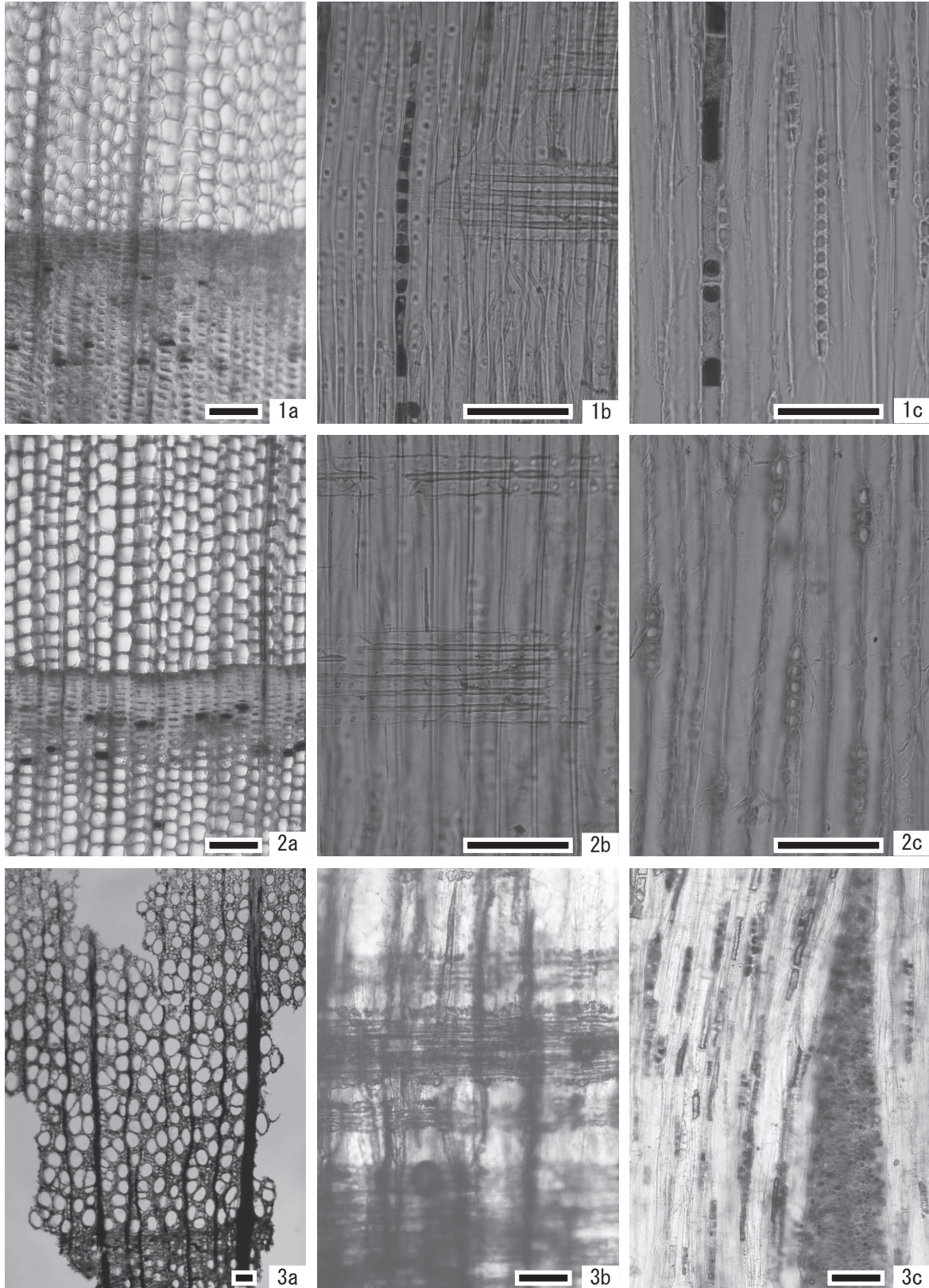
- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. マツ属(Ⅱ区 3BMD;4) | 2. スギ属(Ⅱ区 3BMD;4) |
| 3. イネ科(Ⅲ区 造成遺構;6) | 4. ハンノキ属(Ⅲ区 1EMS;5) |
| 5. コナラ属コナラ亜属(Ⅲ区 造成遺構;6) | 6. カヤツリグサ科(Ⅲ区 造成遺構;6) |
| 7. アカザ科(Ⅲ区 1EMS;5) | 8. ハス属(Ⅲ区 造成遺構;6) |
| 9. ヨモギ属(Ⅲ区 造成遺構;6) | 10. ソバ属(Ⅲ区 造成遺構;6) |
| 11. キク亜科(Ⅲ区 造成遺構;6) | 12. ハンノキ属?(Ⅱ区 1KHD;19) |
| 13. ニレ属?-ケヤキ属?(Ⅱ区 1KHD;19) | 14. モチノキ属?(Ⅱ区 1KHD;19) |

図版4 植物珪酸体



1. イネ属穎珪酸体(Ⅱ区 3BMD;4)
2. イネ属機動細胞珪酸体(Ⅱ区 3BMD;4)
3. イネ属短細胞列(Ⅱ区 3BMD;4)
4. イネ属穎珪酸体(Ⅲ区 造成遺構;6)
5. イネ属機動細胞珪酸体(Ⅲ区 造成遺構;6)
6. イネ属短細胞列(Ⅲ区 造成遺構;6)
7. ヨシ属短細胞珪酸体(Ⅲ区 1EMS;5)
8. ススキ属短細胞珪酸体(Ⅲ区 1EMS;5)
9. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(Ⅲ区 造成遺構;6)
10. メダケ属機動細胞珪酸体(Ⅲ区 1EMS;5)
11. ヨシ属機動細胞珪酸体(Ⅲ区 造成遺構;6)
12. シバ属機動細胞珪酸体(Ⅲ区 1EMS;5)

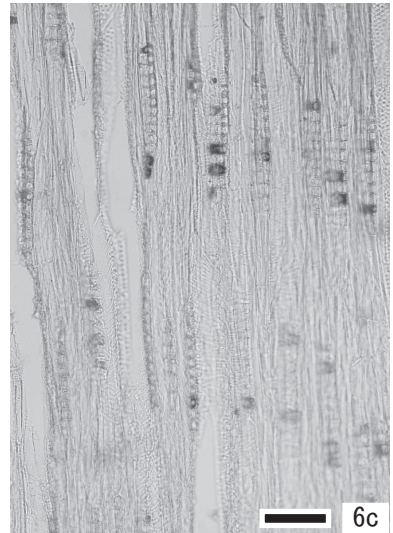
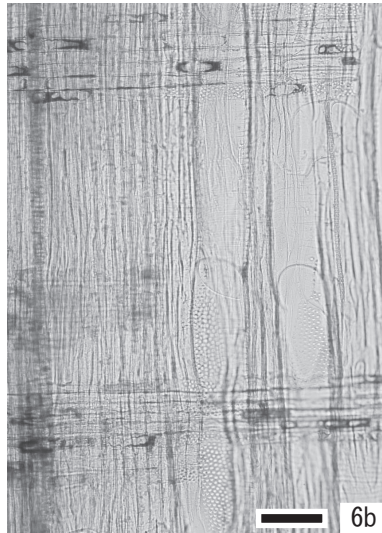
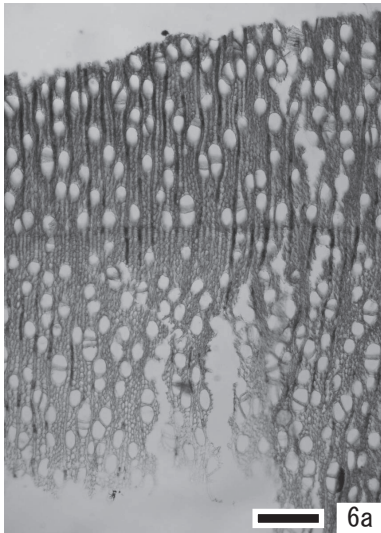
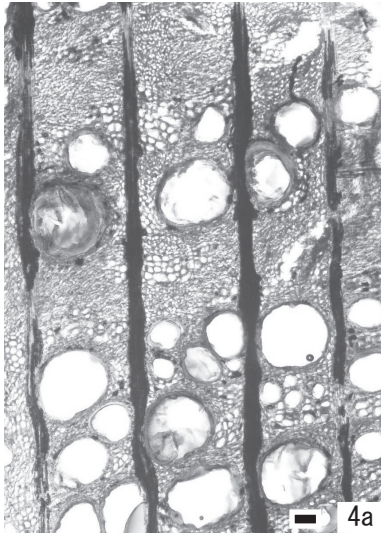
図版5 木材(1)



- 1. スギ(Ⅲ区 1KMS:17)
- 2. ヒノキ(Ⅲ区 1EMS:18)
- 3. ブナ属(Ⅱ区 7BBMD:8)

a:木口 b:柁目 c:板目
 スケールは100 μm

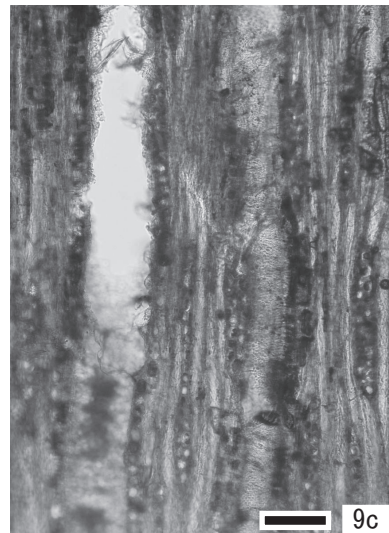
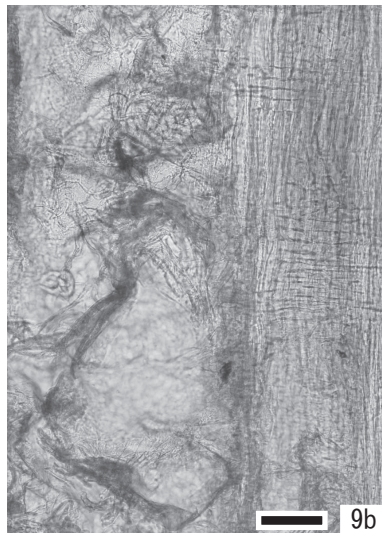
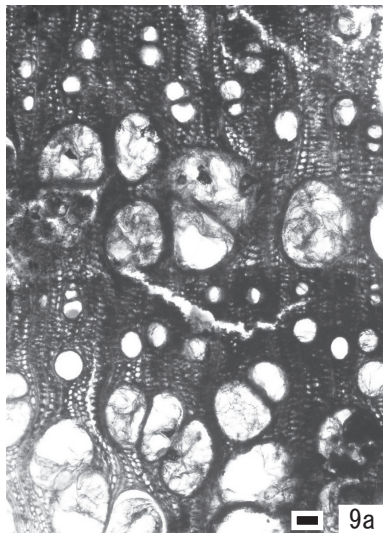
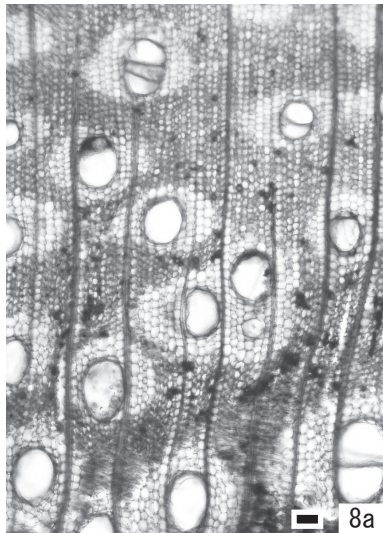
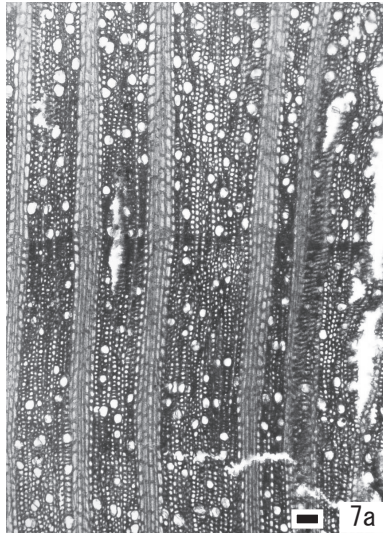
図版6 木材(2)



- 4. ケヤキ(Ⅱ区 8BMD:13)
- 5. イスノキ?(Ⅱ区 1KHD:11)
- 6. トチノキ(Ⅱ区 8BMD:9)

a:木口 b:柁目 c:板目
スケールは100μm

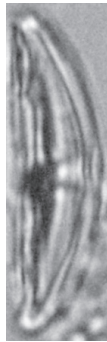
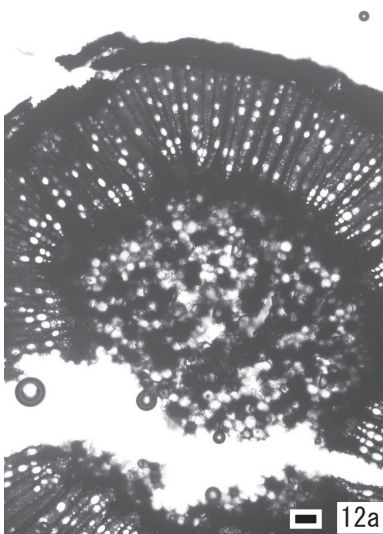
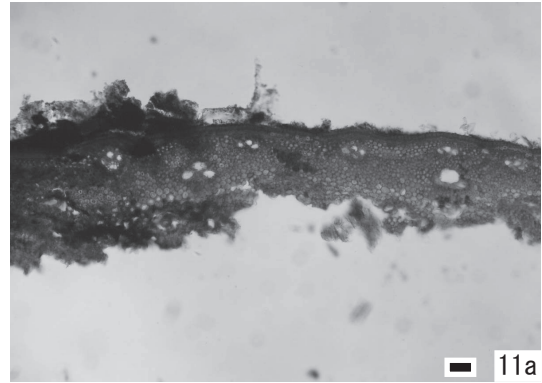
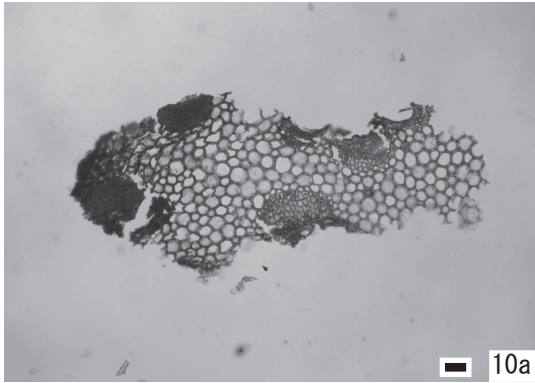
図版7 木材(3)



7. アワブキ属(Ⅱ区 8BMD;12)
 8. キリ(Ⅱ区 8BMD;14)
 9. トネリコ属(Ⅲ区 1E4Z;15)

a:木口 b:柁目 c:板目
 スケールは100 μm

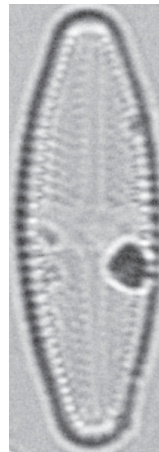
図版8 木材(4)・粗朶・珪藻化石



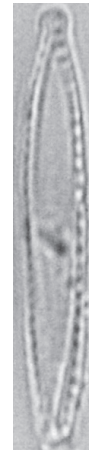
13



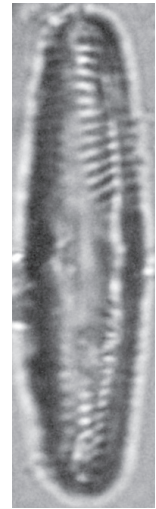
14



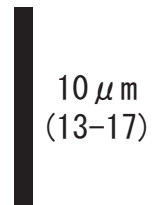
15



16



17



a: 木口
10-12: スケールは100 μm

- 10. タケ亜科(Ⅱ区 8BMD;7)
- 11. イネ科草本類(Ⅲ区 造成遺構;6)
- 12. 広葉樹当年枝(Ⅲ区 造成遺構;6)
- 13. *Amphora montana* Krasske (Ⅲ区 造成遺構;6)
- 14. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (Ⅱ区 3BMD;4)
- 15. *Luticola mutica* (Kuetz.) D. G. Mann (Ⅲ区 1EMS;5)
- 16. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W. Smith (Ⅲ区 1EMS;5)
- 17. *Pinnularia subcapitata* Gregory (Ⅲ区 造成遺構;6)

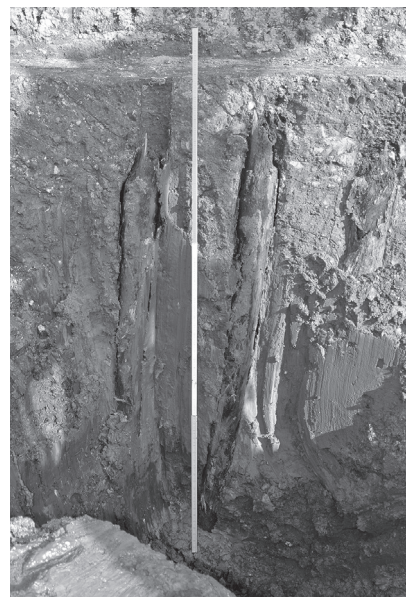
第5節 おわりに

自然科学分析の結果で木製品の材質は、江戸時代の箸はスギやヒノキが多く、タケ亜科は少ないという。漆器碗は7B号幕末明治土坑・I区から出土した物がブナ属、第8号幕末明治土坑の物がトチノキで、柔らかい材質が多いという。下駄は第8号幕末明治土坑の物がキリ、江戸四面の造成遺構の物がトネリコ属であり、堅い木が選ばれるとされる。キリの下駄は上品とされ、江戸市中でも散見される程度で、希少品であったと言われている。算盤玉は第1号近代廃棄土坑から出土し、堅いイスノキであった。日傘の軸は第8号幕末明治土坑から出土し、堅いケヤキであった。桶の底板はヒノキ、円形板はスギであった。

調査区周辺には石炭関係の会社や倉庫が多く、遺跡からは石炭やコークスが出土したことから石炭塊の分析を行なった。また、江戸時代から採炭されていた常磐炭田の石炭の同定を行なった。大消費地の東京に輸送するため明治31(1898)年に常磐線が開通しているが、花粉化石の分析では石炭塊は常磐炭田とは言い切れないとのことである。

造成遺構に敷かれていた粗朶類は当年樹の当年枝とイネ科草本類であった。中には種実や植物珪酸体で稲朶が多く含まれ、稲藁が混じっている可能性が指摘された。個体は圧密を受け表皮しか残っていない。調査でも押し潰された藁状の物が観察された。稲藁を叩き締めた葎と思われる。護岸工事や造成に関わる土木技法の粗朶工法であろう。

先の「水戸家御屋敷割図」を参考にして、「水戸城内における調査位置模式図」(第149図)を作成した。また、御城二の丸の坂下門から調査区(I区・III区)の造成面にかけて縦断面を作成した。推定であるが北から二の丸面が標高28.0m、塀の高さが3.0m、切岸下が標高16.0m、水堀の深さが2.0m、道幅が8.0m、調査区の現代面が標高10.0mである。江戸一面とした北側で標高8.4mで南に向かって傾斜している。明治時代から現代までに1.6~1.8mの盛土造成している。江戸一面は江戸造成の最終生活面である。標高は調査区内では北端で8.4m、南端で8.0mである。そこから下が江戸期の盛土造成で、II区では調査上では江戸五面(VIII層)までの標高6.1mまで確認したが、機械により掘削し標高5.4mで砂利層に達した。III区では江戸五面の6.4m、I区では4KST杭打込下面まで確認した。I区では4KSTの打込杭の長さと同程度の高さを確認するため機械により掘り込み引抜いた。現代整地面の9.4mから2.8m下の標高6.6



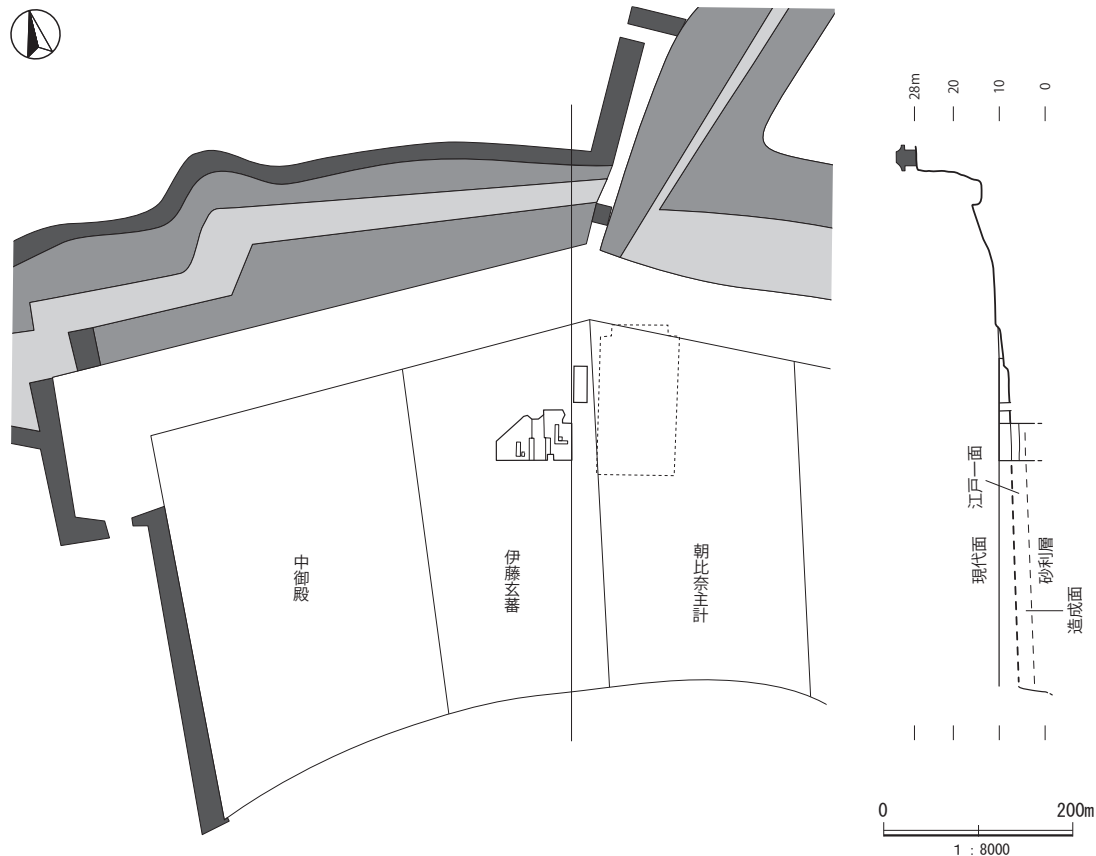
I区第4号近代礎石建物
杭打ち込み下端



II区 造成砂利層

mで砂利層に達し、杭も砂利層まで達していた。これによって凡そであるが調査区の北側で砂利層の標高が6.6 m, 南側で砂利層の標高が5.4 mであった。約50 mで傾斜している。砂利層の上層には腐植土層が30～40cm堆積していた。

また、「水戸城内における調査位置模式図」によると「朝比奈主計」屋敷ではなく、「伊藤玄蕃」屋敷の可能性はある。



第148図 水戸城内における調査位置模式図

調査で確認した建物について考えてみたい。調査では江戸時代の築造に関わる造成と近代から現代に至る造成が確認された。江戸時代の造成は粗朶工法といわれる藁殻とローンを版築状にして基盤を構築している。近代では石や砂利を多量に使い、叩き締めている。その上に、同一建物内で礎石を使用するものと掘立柱のもの、根石だけ確認されたもの（礎石が使用されたかどうか不明なもの）などが確認された。面で調査を行ったため、近代面では礎石建物・礎石・礎版・廃棄土坑を主体とする遺構群と理解していた。幕末明治面では多量の廃棄土坑群と理解した。江戸一面では建物に成らない根石を主体とした礎石列や掘立の柱列と理解し造成に伴う藁殻遺構と理解していた。しかし、近代礎石建物の構造を推定する段階で礎石列や柱列とした遺構が、倉庫建物の壁建ての可能性が考えられてきた。調査上の困難さや遺構の理解不足により、理解を誤るところであった。改めて図面を確認したところ第4 ABMDのように幕末明治の廃棄土坑を掘り込んでいる小穴が確認されることから、礎石列や柱列は近代初頭の倉庫建物ではないかと想定した。

したがって、今回の調査では倉庫建物Ⅰ期は江戸期の倉庫建物（蔵）と溝と井戸が生活の痕と考えられる。軸が西にずれる。江戸期の杭は先端・頭共に豪打により乱れている。

近代の杭は頭に径 2 cm の孔が開けられ支持棒に固定されていたものと思われ、上端が揃わないときは頭が切落されている。

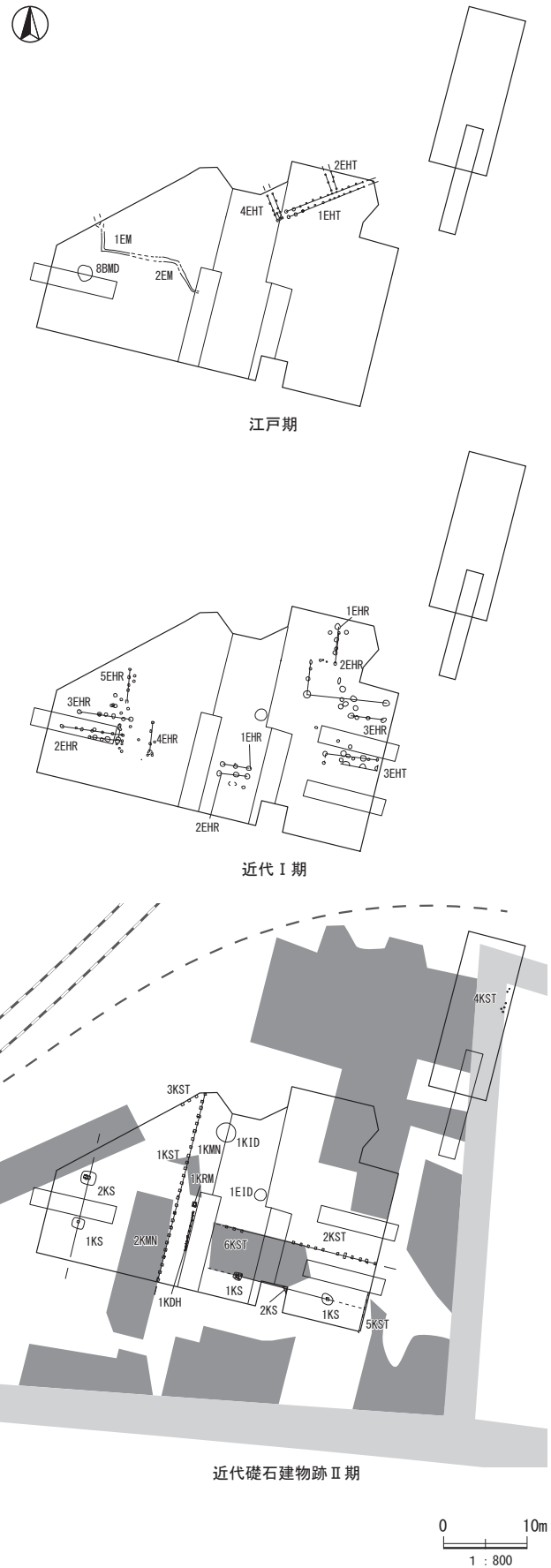
近代Ⅰ期は礎石列・柱列で明治 36 (1903) 年から明治 42 (1909) 年の間に建てられた川崎倉庫の開業期の様相を現しているのであろう。第 1 号江戸井戸が伴うのでであろう。何回かの改築と増築をして大正 12 (1923) 年の関東大震災で廃燼と化したと推定される。

近代Ⅱ期は大谷石を林立した近代礎石建物で、第 1～6 号近代礎石建物とⅡ区の第 1・2 号近代礎石、Ⅲ区の第 1・2 号近代礎石、Ⅳ区の第 1 号近代礎石は昭和 9 (1934) 年の地図に合致するようである。川崎倉庫は大正 12 (1923) 年から昭和 9 (1934) 年の間に建て直された。

調査区は時代の変革や災害によって破壊され、その間には残滓の廃棄土坑として利用されたり、旅館や呑屋として活用されたことがあった。

最後に今回の調査は水戸城築造に関わる造成遺構と江戸期の蔵から現代にいたる川崎倉庫や生活の遺構から地域の歴史を考古学的に理解した。水戸城築城造成⇒江戸期蔵⇒幕末明治廃棄土坑⇒川崎倉庫近代Ⅰ期⇒関東大震災で 1 次居住・近代廃棄土坑⇒川崎倉庫近代Ⅱ期⇒川崎倉庫・丸高冷凍⇒現代破棄土坑⇒川崎倉庫社名変更常盤倉庫駐車場⇒パラカ駐車場と土地利用変遷していた。

地域の人々の歴史を考古学的な手法で記録しておくことは地域の歴史解明にとって必要である。造成遺構も過去の人々が行った工法を土木工学的に解明する必要があると考える。



第 149 図 建物変遷図

参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2007 『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世・瀬戸系』
会津若松市史編さん委員会 2000 『会津若松市史 14【文化編1 陶磁器】会津のやきもの』
茨城県 1979 『茨城県幕末史年表』茨城県史編さん幕末維新史部会
茨城県立歴史館 1997 『笠間焼 200年のあゆみ』
茨城県歴史館 2008 『幕末と日本と徳川齊昭』
大川 清 1985 『小砂焼』日本窯業史研究所
瓦吹 堅 1986 「北茨城市の陶器窯跡と窯道具について」『北茨城市壇』第6号 北茨城市史編さん委員会
瓦吹 堅 1991 「松岡焼と名古屋焼」『いわき地方史研究』第28号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 1992 「北茨城市大塚窯跡出土の近世陶器」『いわき地方史研究』第29号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 1993 「北茨城市木皿窯跡出土の近世陶器」『いわき地方史研究』第30号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 1994 「北茨城市石岡窯跡出土の近世陶器」『いわき地方史研究』第31号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 1995a 「北茨城市市内の近世陶器—木皿窯跡—について『王朝の考古学』（大川清博士古希記念論文集）雄山閣
瓦吹 堅 1995b 「松岡焼について」『松岡城B地点遺跡発掘調査報告書』松岡城発掘調査会
瓦吹 堅 1997 「日棚窯跡の灯火器」『いわき地方史研究』第43号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 2013 「福田窯跡の製品と窯道具」『いわき地方史研究』第50号 いわき地方史研究会
瓦吹 堅 2014 「松岡焼と窯跡」『江戸遺跡研究の視点と展開』江戸遺跡研究会
九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会 10周年記念』
財団法人 瀬戸市文化振興財団 『江戸時代の瀬戸窯』 2002 瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人 瀬戸市文化振興財団 『江戸時代の美濃窯』 2003 瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人 瀬戸市文化振興財団 2005 『江戸時代の瀬戸・美濃』瀬戸市埋蔵文化財センター
財団法人 瀬戸市文化振興財団 2011 『瀬戸・美濃窯の近代』瀬戸市埋蔵文化財センター
関口慶久編 2017 『七面製陶所跡 遺構・遺物編』水戸市教育委員会
鉄道博物館（公益財団法人 東日本鉄道部文化財団） 2020 『全線運転再開記念 常磐線展』
日本窯業史研究所 2004 『町田焼窯跡』
水戸市教育委員会 2014 『水戸城跡発掘調査報告 I 二の丸曲輪彰考館の調査（1）』
水戸市立博物館 1984 『特別展—郷土の伝統産業—水戸藩のやきもの』
水戸市立博物館 1999 『水戸駅』水戸市立博物館
窯業史博物館 1998 『水戸の烈公と小砂焼』

遺構別土層説明

I区基本層序

A-A´ 土層説明

I 2層 水戸大空製炭化土層

II 2層 コンクリート舗装下部整地層

層は標準層序の自然層

自然堆積層II 10YR3/2 黒褐色土：暗褐色土と黒色土の混合土、褐色粒子微量、粘性あり、縮まりややあり

自然堆積層III 10YR3/1 黒褐色土：層IIよりも黒色強い、褐色粒子微量、粘性ややあり、縮まりややあり

自然堆積層IV 10YR5/3 にぶい黒褐色土：ローム漸移層、流水のためグライ化している。

B-B´・C-C´・D-D´

1 10YR6/3 にぶい黄橙色：ロームと白色粘土の混合土、細石を多く含む非常に硬い、粘性なし、転圧している

2 10YR5/1 褐灰色：青灰色粘土にローム流を多く含む。非常に硬く転圧している

3 10YR6/1 褐灰色：青灰色粘土に多量の小石を含み非常に硬く転圧している

4 10YR3/2 黒褐色：黒色土に青灰色粘土を含み、やや軟らかい

5 10YR4/1 褐灰色：青灰色粘土にローム塊・粒を含み、小石を少量含む、やや硬く縮まっている

6 10YR5/3 にぶい黄橙色：黒色土に青灰色粘土を中量含む、小石をやや多く含む、固く縮まっている

7 10YR5/4 黄褐色：黒色土にローム塊・粒を・青灰色粘土塊・小石を多く含む、炭化物をやや多く含む、やや硬く縮まっている

8 10YR7/5 明黄褐色：ローム塊を主体に白色粘土を多く含む、転圧し非常に硬く縮まっている

9 10YR5/4 にぶい黄褐色：黒褐色土に少量の青灰色粘土、7～8cm大の石、子砂利を多く含む、やや粘質

10 10YR5/5 黄褐色：砂質の黄褐色土に黒色土を含み、青灰色粘土少量でやや砂質

11 10YR4/1 褐灰色：黒色土に青灰色粘土中量、小砂利を中量含む、粘質で縮まりややあり

12 10YR3/2 暗褐色土：黒色土に青灰色粘土少量、小砂利を少量含む、粘質で縮まりあり

13 10YR4/1 褐灰色：黒色土で砂利の混入が少ない

14 10YR3/1 黒褐色：標準層序II・III層の2次堆積層

C 切土土層説明

- 1 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色粒子と青灰色粘土を少量含む，粘性なし，締まりややあり
- 2 10YR3/2 黒褐色：黄褐色粒，青灰色塊を少量含む，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR4/1 褐配色：黄褐色粒を中量含む，粘性なし，締まりなし
- 4 10YR2/2 黒褐色：黄褐色粒を中量，炭化物流を少量含む，粘性なし，締まりなし
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色：黒褐色土に黄褐色土多量，炭化物粒少量，粘性なし，締まりなし
- 6 10YR4/4 褐色：黄褐色土を主体とし，やや砂質である，炭化物粒子を少量含む，粘性なし，締まりなし
- 7 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色土に層IV層の漸移層塊を少量，焼土流，炭化物粒を微量含む，やや砂質，粘性あり，締まりなし
- 8 10YR2/2 黒褐色：黄褐色土に炭化物を多量に含む，粘性あり，締まりなし
- II区基本層序
- I 1 10YR5/8 赤色：焼土塊，炭化物が多量な部分と煉瓦が多量な部分があるが同一層，粘性なし，締まりあり，「1面 昭和20年8月2日の水戸大空襲の整地土」
- II 1A 10YR8/8 黄橙色：II 1層の残滓，黒色土混入，粘性なし，締まりなし
- II 1B 10YR3/1 黒褐色：黄褐色II 1層に相当する，黄褐色粒
- II 1① 10YR7/2 にぶい黄褐色：コンクリート舗装，砂利多量，粘性なし，非常に固い
- II 2① 10YR4/5 褐色：ローム主体，鹿沼軽石を含む，粘性ややあり，非常に固い
- II 3 10YR4/4 褐色：砂利と小石が主体，黄褐色土混入，粘性なし，非常に固い
- III 1 10YR3/2 黒褐色：黒色土に小砂利を多量に含む，下に小砂利，上に黒色土，酸化した褐色土多量，粘性ややあり，締まりややあり「2面 幕末明治面」
- III 2 10YR3/1 黒褐色：小砂利多量，褐色粒・炭化物粒少量，部分的に多量，粘性ややあり，締まりややあり
- III 3 10YR5/4 にぶい黄褐色：小砂利・砂質土の混合，8cm大の石，3cm大の石を含み上方が大きい，上層に黄褐色土粒・下層に黒色土粒が層状，粘性なし，締まりあり
- III 4 10YR5/6 黄褐色：砂利・小砂利多量，5～10cm大の石を多く含む，黄褐色土粒中量，粘性なし，締まりあり
- III 5 10YR6/6 明黄褐色：砂質土，黄褐色粒・小砂利を含む，粘性あり，締まりあり
- IV 1① 10YR8/6 黄褐色：灰白色粘土粒・褐色粘土粒の混合，粘性ややあり，締まりあり「3面 江戸1面」
- IV 1② 10YR6/5 明黄褐色：黄褐色塊・黒色土微量，粘性なし，非常に固い
- V 1 10YR5/1 褐灰色：灰白色粘土主体，小砂利微量，やや錆化している，粘性ややあり非常に固い「4面 江戸2面」
- V 2 10YR6/1 褐灰色：褐色・灰白色粘土塊，錆化が著しい，小石中量，粘性ややあり，締まりあり
- V 3 10YR4/1 褐灰色：黒色土主体，灰白色粘土中量，上層に錆が顕著，小石少量，粘性ややあり，締まりややあり
- V 4 10YR5/2 灰黄褐色：黒色土・灰白色粘土混合，小石中量，下層に錆がみられる，粘性ややあり，締まりややあり
- VI 1 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土主体，褐色粒少量，粘性ややあり，締まりあり
- VI 2 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土主体，褐色粒少量，粘性ややあり，締まりあり
- VII 1 10YR7/7 明黄褐色：褐色土主体，灰白色粘土混合，粘性ややあり，締まりややあり
- VII 2 10YR3/1 黒褐色：黒色土に砂利を大量に含む，粘性なし，締まりなし
- VIII 1 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土に褐灰色粘土混合，粘性ややあり，締まりあり
- VIII 2 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土に褐灰色粘土塊混入，粘性あり，締まりややあり
- VIII 3 10YR5/1 褐灰色：灰白色粘土が錆化している，粘性あり，締まりなし
- III・IV区基本層序
- II 3 10YR4/4 褐色：砂利と小石が主体，黄褐色土混入，粘性なし，非常に固い
- III 1 10YR5/1 褐灰色：灰白色粘土・締まっている，褐色土が錆化している，粘性なし，締まりあり，砂質土「幕末明治」
- III 2 10YR6/6 明黄褐色：褐色粘土主体に灰白色粘土を含む，小砂利少量，炭化物微量，粘性ややあり，締まりあり
- III 3 10YR5/1 褐灰色：灰白色粘土主体で締まっている。褐色粒微量，小石微量，炭化物微量，砂質土，粘性ややあり，締まりややあり
- III 4 10YR3/1 黒褐色：錆化した黄褐色粒中量，小砂利中量，炭化物少量，粘性ややあり，締まりややあり
- III 5 10YR5/4 にぶい黄褐色：砂質土，小砂利中量，褐色粒微量，炭化物微量，粘性なし，締まりあり
- III 6 10YR3/1 黒褐色：灰白色粘土中量，小石中量，小砂利少量，粘性ややあり，締まりあり
- III 7 10YR7/1 灰白色：灰白色粘土主体，褐色土中量，砂質土，粘性ややあり，締まりあり
- III 8 5Y 6/4 オリーブ黄色：青灰色粘土塊と青灰色砂質土の混合土，粘性なし，締まりあり
- III 9 10YR6/4 にぶい黄褐色：灰褐色粘土塊に灰褐色の砂質土，粘性なし，締まりややあり
- III 10 5Y6/3 オリーブ黄色：淡灰色砂質土主体，褐色粒少量，粘性なし，締まりややあり
- III 11 10YR5/6 黄褐色：砂質土，灰白色粘土塊中量，小砂利少量，粘性なし，締まりあり
- III 12 10YR6/3 にぶい黄橙色：砂質土，灰色粘土中量，小砂利中量，小石少量，粘性なし，締まりあり
- III 13 10YR6/4 にぶい黄橙色：砂質土，黒褐色粘土塊中量，褐色粒中量，粘性ややあり，締まりあり
- III 14 10YR5/3 にぶい黄褐色：黄褐色土粒多量，褐色土粒微量，小石微量，小砂利中量，炭化物微量，粘性なし，締まりややあり
- III 15 10YR6/3 にぶい黄橙色：灰黄褐色土塊含む，褐色粘土微量，炭化物微量，粘性あり，締まりなし
- IV 1-① 10YR7/2 にぶい黄橙色：灰灰色粘土主体，粘性なし，締まりあり「江戸1面」
- IV 1-② 10YR6/5 明黄褐色：黄褐色塊・黒色土微量，粘性なし，非常に固い

現代 I 区

1 G H D (現代廃棄土坑)

- 1 10YR4/1 褐配色:昭和30年代以降の瓦・セメント・ガラス・ビン・陶磁器類が廃棄されている,粘性なし,縮まりあり
- 2 10YR6/5 黄褐色:黄褐色土を主体に小砂利を中量含む,粘性なし,縮まりなし

2 G H D (現代廃棄土坑)

- 1 10YR3/3 暗褐色:小石・小砂利を多く含み昭和30年代のカン・ビン・瓦などを多く含んでいる
- 2 10YR3/1 黒褐色:小砂利を多量に含み,カン・ビン・瓦・陶磁器・ビニールなどが多量に焼かれた状況で出土した。粘性・縮まりなし

3 G H D (現代廃棄土坑)

- 1 10YR2/2 黒褐色:黒色土に小砂利を中量含む,粘性なし,縮まりなし

近代 I 区

4 K S T (近代礎石建物)

標準層序

層Ⅲ 10YR3/1 黒褐色土:層Ⅱよりも黒色強い,褐色粒子微量,粘性ややあり,縮まりややあり

整地層

12 10YR3/2 暗褐色土:黒色土に青灰色粘土少量,小砂利を少量含む,粘質で縮まりあり

13 10YR4/1 褐配色:黒色土で砂利の混入が少ない

14 10YR3/1 黒褐色:標準層序Ⅱ・Ⅲ層の2次堆積層遺構層序

1①-1 10YR5/1 褐配色:褐灰色の砂質土に小砂利を多量に含む

2②-1-1 10YR3/2 黒褐色:黄褐色土と黒褐色土の混合で炭化物を微量に含む

3 10YR6/4 にぶい黄褐色:黒褐色土と褐色土を交互に転圧している。黄褐色土を含む,小砂利を少量含む

4 10YR6/5 明黄褐色:褐色土が酸化している,(茶色に見える)2cm大の小石を含む

5 10YR7/6 明黄褐色:灰白色粘土と黒褐色土の混合土,縮まりあり,粘性あり

6 10YR6/3 にぶい黄褐色:黒褐色土褐色土と青灰色粘土を含む,縮まりあり,粘性あり

7 10YR4/1 褐配色:褐色土と青灰色土粒の混合土縮まりなし,(杭根腐れ)

8 10YR6/8 明黄褐色:褐色土に黒色土が混じる,小砂利を含む,縮まりあり

9 10YR8/6 黄褐色:鹿沼塊を含む,青灰色粘土を少量含む

10 10YR4/1 褐灰色:青灰色粘土に黒色土が混じる,鹿沼塊を含む,縮まりあり,粘性ややあり

11 10YR4/3 にぶい黄褐色:青灰色粘土に褐色土が混じる,縮まりあり,粘性あり

12 10YR3/2 黒褐色:黒褐色土に黄褐色土が混じる,青灰色粘土粒子を少量含む,縮まりややあり,粘性あり

13 10YR7/8 黄褐色:鹿沼軽石に黒色土を含む,縮まりややあり,粘性ややあり

14 10YR5/4 にぶい黄褐色:黒褐色土に鹿沼粒子と青灰色粘土を少量含む,縮まりややあり,粘性ややあり

15 10YR4/1 褐灰色:青灰色粘土に鹿沼粒子を含む,縮まりややあり,粘性強し

16 10YR3/1 黒褐色:黒色土に青灰色粘土を含む,縮まりややあり,粘性あり

17 10YR4/1 褐灰色:青灰色粘土を主体に黒色土を混ぜている,縮まりややあり,粘性強し

18 10YR3/1 黒褐色:青灰色粘土粒子を含む,縮まりややあり,粘性強し

○ 各層が酸化・グライ化した層

近代 II 区

1 K S T (近代礎石建物)

1 10YR3/2 黒褐色:黒色土に小砂利を多量に含む,下部に小砂利,上部に黒色土,酸化した褐色土多量,粘性ややあり,縮まりややあり

2 10YR4/1 褐灰色:灰褐色土に小砂利を多量に含む,砂質,粘性なし,縮まりあり

3 10YR4/3 にぶい黄褐色:黄褐色粘土主体,灰褐色土少量,小砂利を多量,粘性なし,縮まりあり

4 10YR5/3 にぶい黄褐色:灰褐色粘土主体,小石少量,小砂利中量,粘性なし,縮まりややあり

5 10YR3/1 黒褐色:黒灰色土主体,川原石少量,小砂利多量,粘性なし,縮まりなし

6 10YR6/1 褐灰色:黄褐色粘土主体,グライ化し暗青灰色に酸化している,整地土

7 10YR6/6 明黄褐色:黄褐色土主体,小砂利少量,粘性ややあり,縮まりあり

8 10YR5/1 褐灰色:灰褐色粒少量,小砂利少量,粘性ややあり,縮まりややあり

9 10YR5/1 褐灰色:灰褐色粒少量,小砂利中量,粘性ややあり,縮まりややあり

10 10YR3/1 黒褐色:黒色土主体,小砂利少量,粘性ややあり,縮まりややあり

1 K S (近代礎石)

1 10YR5/6 黄褐色:ローム塊主体,黒褐色土・青灰色土混合,ローム塊に小砂利を含む,砂質土に小砂利を含む,互層,粘性なし,縮まりあり

2 10YR4/2 灰黄褐色:5~6cm代の小石と粘土塊,小砂利を混合,粘性なし,転圧

3 10YR4/1 灰褐色:砂質土に子砂利を含む,粘性なし縮まりあり

2 K S (近代礎石)

1 10YR7/6 明黄褐色:5~8cm大の川原石にローム交じりの砂質土を混入,粘性なし,縮まりあり

2 10YR5/6 黄褐色:ローム塊・粒子主体に黒色土を混入,青灰色粘土微量,粘性なし,転圧してる

3 10YR5/6 黄褐色:黒色土に2~5cm大の川原石・青灰色粘土を中量含む粘性なし,縮まりあり

4 10YR7/5 明黄褐色:ローム粒・青灰色粘土を中量含む。粘性なし,縮まりややあり

3 K S (近代礎石)

1 10YR6/6 明黄褐色:ローム主体に鹿沼軽石塊混入,青灰色粘土少量,粘性ややあり,縮まりややあり

2 10YR6/3 にぶい黄褐色:灰白色粘土多量,白色粒子少量,粘性あり,縮まりあり

1 K D H (近代土管配管)

1 10YR6/6 明黄褐色:粘土と黒色土の混合,粘性あり,縮まりあり

2 10YR3/1 黒褐色:大小の石,煉瓦碎片・ローム粒少量含む,粘性なし,縮まりあり

1 K R M (近代煉瓦枳)

- 1 10YR8/3 浅黄橙色：白色粘土主体，褐色粒子を含む，粘性ややあり，締まりあり
 - 2 10YR5/8 黄褐色：ローム塊主体，黒色土・白色粒子・炭化物を含む，粘性なし，締まりあり
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色：ローム粒中量，5～10cm代の川原石を含む，煉瓦を含む，粘性なし，締まりあり
 - 4 10YR6/1 褐灰色：小砂利多量，煉瓦碎片を含む，粘性なし，締まりあり
 - 5 10YR5/2 にぶい黄褐色：ローム粒中量，砂粒多量，粘性なし，締まりあり
 - 6 10YR4/1 褐灰色：白色粘土少量，小砂利少量，煉瓦碎片・炭化物少量含む，粘性なし締まりあり
 - 7 10YR5/3 にぶい黄褐色：小砂利を多量に含み，転圧している，煉瓦の基底面にモルタルを多量に含み敷いている，粘性なし，締まりあり
- 整地土層
- ① 10YR3/2 黒褐色：ロームと黒褐色土の混合土，転圧され非常に固い
 - ② 10YR6/1 褐配色：モルタル層
 - ③ 10YR4/2 灰黄褐色：小砂利少量，ローム粒少量，煉瓦碎片少量を含む，粘性なし，締まりあり
 - ④ 10YR5/4 黄褐色：砂質土，小砂利を含む，粘性なし，締まりあり
- 小穴
- △ 1 10YR3/1 黒褐色：黒褐色土に大小の小石，煉瓦小片，ローム粒少量を含む
- 1 K H D (近代廃棄土坑)
- 1 10YR6/2 褐灰色：灰と炭化物の混合，焼土粒少量，粘性ややあり，締まりなし
 - 2 K H D (近代廃棄土坑)
 - 1 10YR3/1 黒褐色：黒色土に炭化物多量，焼土粒少量，粘性なし，締まりなし
 - 3 K H D (近代廃棄土坑)
 - 1 10YR2/2 黒褐色：炭化材・炭化物の上に灰を含む黒褐色土
 - 4 K H D (近代廃棄土坑)
 - 1 10YR2/1 黒褐色：小砂利・小石多量，瓦多量，粘性なし，締まりあり
 - 2 K M N ((近代埋納遺構)
 - 1 10YR3/3 暗褐色：灰褐色粘土主体，褐色粒微量，粘性ややあり，締まりややあり

近代 III区

- 2 K S T (近代礎石建物)
- 1 10YR7/4 にぶい黄橙色：褐色粘土に砂質土混入，砂利多量，粘性なし，非常に固い
- 2 10YR5/5 にぶい黄橙色：褐色粘土主体，灰白色粘土中量，小砂利少量，粘性なし，非常に固い
- 3 10YR7/6 明黄褐色：5～10cm代の石主体，砂質土混合，粘性なし，締まりあり
- 4 10YR6/4 にぶい黄橙色：黄褐色粘土主体，七本桜パミス少量，黒色土塊少量，粘性なし，締まりあり
- 5 10YR5/6 黄褐色：3～5cm代の小石主体，黄褐色粘土中量・灰白色粘土少量混入，粘性なし，締まりあり
- 6 10YR6/6 明黄褐色：黄褐色粘土主体，灰白色塊含む，小砂利少量，粘性なし，締まりあり
- 1 K S (近代礎石)
- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色：10cm代の石，砂利を中量含

む砂層，黄褐色土の互層

- 2 10YR6/1 褐配色：砂質土層に杭を打ち込んでいる，周囲は青灰色に変質している
- 2 K S (近代礎石) 1 BMHR・1 BMS に変更
- 1 K H D (近代廃棄土坑)
- 1 10YR3/1 黒褐色：青灰色粘土を微量に含む，木材と竹材を多量に含む。
- 2 10YR4/4 褐色：砂質で錆化している。
- 3 10YR3/2 黒褐色：黒色土に小砂利を多く含む
- 4 10YR4/1 褐灰色：青灰色砂質土に錆化した褐色土を少量含む，小砂利を中量含む
- 5 10YR5/1 褐灰色：青灰色粘土に黒色土が混合している。
- 1 K K A
- 1 10YR5/1 褐灰色：砂質の青灰色粘土に黒色土を少量含む，締まりややあり，粘性ややあり
- 2 K K A
- 1 10YR3/1 黒褐色：酸化したローム粒子少量，砂質の黄灰色粘土微量含む，締まりややあり，粘性あり

近代 IV区

- 1 K I D (近代井戸)
 - 井戸掘方土層
 - 1 10YR4/6 褐色：茶褐色土，青灰色粘土多量，小砂利中量，粘性あり，締まりあり
 - 2 10YR5/2 灰黄褐色：青灰色青灰色粘土塊主体，褐色土塊少量，黒色土と灰褐色土が互層，小砂利多量，粘性あり，締まりなし
 - 3 10YR6/5 明黄褐色：整地土に土圧を受けグライカ化している。粘性あり，締まりややあり
- 掘方掘込整地層
- IV 1 10YR6/2 灰黄褐色：青灰色粘土主体，粘性ややあり，締まりあり
 - IV 2 10YR7/3 にぶい黄橙色：青灰色粘土と褐色土の混合，炭化物少量，粘性ややあり，非常に固い
 - IV 3 10YR7/6 黄褐色：褐色粘土粒主体，青灰色粘土塊中量，小石と小砂利中量粘性ややあり，締まりあり
 - V 1 10YR4/1 褐灰色：黒色土主体，炭化物粒少量，粘性あり，締まりあり
 - V 2 10YR6/6 明黄褐色：褐色土に青灰色粘土を少量含む，小砂利多量，粘性なし，非常に固い

幕末明治 II区

- 1 A B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/1 褐配色：褐色土塊少量，小石少量，小砂利少量，粘性なし，締まりなし
- 1 B B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色：黄褐色土塊主体に黒色土混合，粘性ややあり，締まりなし
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色：黄褐色土に黒色土と小砂利を少量含む，焼土粒・炭化物粒微量，粘性ややあり，締まりなし
- 2 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/1 褐灰色：青灰色黒色土に青灰色粘土多量，小石中量，粘性なし，締まりなし
- 3 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR2/2 黒褐色：黒褐色土に小砂利を多量に含む，粘性なし，締まりあり
- 2 10YR2/2 黒褐色：黒褐色土に小砂利を少量含む，粘

- 性あり，締まりなし
- 3 10YR2/2 黒褐色：黒褐色土に小砂利を微量含む，粘性あり，締まりなし
- 4 A B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色：黄褐色土主体，青灰色粘土多量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR7/6 明黄褐色：褐色土に小石中量，小砂利多量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR3/2 黒褐色：黄褐色黒色土主体，小石少量，小砂利微量，粘性ややあり，締まりなし
- 4 B B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR2/2 黒褐色：黒褐色土に青灰色粘土少量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 2 7.5YR5/3 灰オリーブ色：青灰色粘土多量に黄褐色粘土を中量含む，粘性あり，締まりややあり
- 4 C B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR3/1 黒褐色：青灰色粘土中量，褐色粒少量，焼土粒子・炭化物粒子微量，粘性ややあり，締まりややあり
- 2 10YR2/1 黒色：青灰色粘土微量，炭化物粒子微量，粘性あり，締まりなし
- 3 10YR3/1 黒褐色：褐色土塊，青灰色粘土を中量含む，焼土・炭化物多量，粘性ややあり，締まりなし
- 4 10YR6/1 褐灰色：青灰色粘土主体，小砂利少量，粘性あり，締まりなし
- 4 D B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR3/2 黒褐色：黒色土主体，黄褐色粒・青灰色粒微量，粘性あり，締まりなし(瓦質土器廃棄)
- 2 10YR5/1 褐灰色：青灰色粘土主体，小砂利少量，炭化物微量，粘性なし，締まりなし(瓦廃棄)
- 3 10YR4/1 褐灰色：黒色土主体，青灰色土中量，小砂利微量，粘性あり，締まりなし(陶器廃棄)
- 5 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/2 灰黄褐色：褐色粘土中量，小石中量，炭化物粒多量，粘性なし，締まりややあり
- 2 10YR4/2 灰黄褐色：褐色土粒微量，小石少量，炭化物粒多量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR4/2 灰黄褐色：褐色土粒微量，小石少量，やや砂質，炭化物粒微量，粘性なし，締まりなし
- 6 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR5/1 褐灰色：淡黒褐色土に小砂利を多量に含む，粘性なし，締まりあり
- 2 10YR4/1 褐灰色：黒褐色土に小砂利を少量含，黄褐色土粒子少量，炭化物粒子・焼土粒子微量，粘性なし，締まりあり
- 3 10YR5/2 灰黄褐色：黒褐色土に小砂利少量，炭化物粒子・焼土粒子少量，粘性なし，締まりなし
- 7 A B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR3/2 黒褐色：褐色土粒微量，小砂利多量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR4/4 褐色：褐色土粒微量，黄褐色粒多量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR3/2 黒褐色：褐色土粒微量，炭化物粒微量，小砂利を少量，粘性ややあり，締まりなし
- 4 10YR3/2 黒褐色：黄褐色粒微量，褐色粒中量，炭化物粒中量，粘性なし，締まりなし
- 7 B B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR3/1 黒褐色：黄褐色粒微量，小砂利少量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR3/3 暗褐色：暗黄褐色粒中量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR2/1 黒色：黒色土主体，炭化物粒中量，粘性なし，締まりなし，下部湧水
- 8 B M D (幕末明治土坑・井戸)
- 1 7.5Y5/2 灰オリーブ色：青灰色粘土に黒色土中量，小砂利を少量含む，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR2/2 黒褐色：黒色土主体，小砂利を少量，やや砂質，粘性なし，締まりなし(廃材多量)
- 9 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/4 褐色：褐色土主体，黒色土混合，小砂利多量，粘性なし，締まりあり
- 2 10YR3/1 黒褐色：青灰色粘土少量，小砂利多量，遺物を多量，粘性ややあり，締まりなし
- 3 10YR3/3 暗褐色：黄褐色粒・塊多量，青灰色粘土粒少量，小砂利中量，粘性なし，締まりややあり
- 4 10YR5/1 褐灰色：青灰色粘土主体上層，黄褐色土下層に互層小砂利微量，粘性ややあり，締まりややあり
- 10 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/4 褐色：鉄分を含んだ黄褐色土多量，炭化物粒多量，褐色粒中量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色：灰白色塊少量，小砂利や多い，炭化物微量，粘性ややあり，締まりややあり
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色：褐色粒微量，炭化物粒微量，やや砂質，粘性なし，締まりなし
- 4 10YR4/1 褐灰色：炭化物粒多量，粘性あり，締まりなし
- 11 B M D (幕末明治土坑)
- 1 10YR4/1 褐灰色：褐色粒少量，小石中量，炭化物粒少量，粘性ややあり，締まりややあり
- 2 10YR3/1 黒褐色：小砂利・小石多量，粘性なし，締まりややあり，炭化物粒少量
- 1 B M M (幕末明治溝)
- 1 10YR4/1 褐灰色：褐色粒と小砂利を少量含む，粘性あり，締まりややあり
- 2 10YR3/1 黒褐色：褐色粒微量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR6/6 黄褐色：褐色塊混入，粘性なし，締まりなし
- 1 B M M S (幕末明治埋設遺構)
- 1 10YR4/6 暗褐色：青灰色粘土主体，黒色土少量，粘性なし，締まりなし
- 1 B M K A (幕末明治小穴)
- 1 10YR4/1 褐灰色：黒色土に黄褐色粘土粒を少量含む，粘性ややあり，締まりなし
- 2 10YR4/4 褐色：黄褐色土に黒色土を少量含む，粘性なし，締まりややあり
- 3 10YR8/8 黄褐色：黄褐色粘土に黒色土と小砂利を少量含む，粘性ややあり，締まりあり「整地土」
- 2 B M K A (幕末明治小穴)
- 1 10YR2/2 黒褐色：黒色土単一層小砂利多量，炭化物粒多量，粘性なし，締まりややあり
- 幕末明治 Ⅲ区
- 1 BMHR・2 BMS (幕末明治柱列・小穴)
- 西1地形
- 1 10YR7/6 明黄褐色：小石を混入し，黒色土とロームを互層に版築している。錆化した褐色土を中量含む，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR2/1 黒褐色：青灰色粘土粒子とローム粒子を少

- 量含む、粘性なし、非常に固い
- 西2地形
- 1 10YR6/4 褐色：小石を混入し、黄褐色粒子とローム粒子を少量、小砂利を中量含む、粘性なし、非常に固い
 - 2 10YR2/2 黒褐色：ローム粒子が酸化した褐色粒子を含む、粘性なし、非常に固い
- 西3地形
- 1 10YR6/4 褐色：10～15cm代と小石を混入し、黒色土に焼土粒子多量、炭化物を少量含む、粘性なし、非常に固い
 - 2 10YR3/3 暗褐色：黄褐色粘土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む、粘性なし、縮まりあり
- Ⅲ区 1BMD
- 1 10YR4/1 褐色：褐色粒と小砂利を少量含む、粘性あり、縮まりややあり
- 江戸一面 Ⅱ区
- 1 E H R (江戸一面柱列)
- 1-1
- 1 10YR7/4 青灰色：青灰色粘土主体、小砂利少量、互層、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 2 10YR3/1 黒褐色：小砂利少量、粘性ややあり、縮まりあり
- 1-2
- 1 10YR3/1 黒褐色：焼土粒微量、炭化物粒多量、小砂利中量、粘性なし、
 - 2 10YR7/4 にぶい黄橙色：青灰色粘土主体、黄褐色粘土粒少量、小石少量、粘性あり、縮まりあり
- 1-3
- 1 10YR7/4 にぶい黄橙色：青灰色粘土主体、黄褐色粘土少量
 - 2 10YR6/4 にぶい黄橙色：青灰色粘土多量、褐色粒微量、小砂利中量、粘性なし、縮まりあり
 - 3 10YR7/1 青灰色：青灰色粘土主体、黄褐色粒中量、粘性ややあり、縮まりあり
 - 4 10YR5/1 褐色：灰白色粘土粒主体、やや砂質、粘性ややあり、縮まりあり
- 1-4
- 1 10YR5/1 褐色：青灰色粘土主体、黄褐色粒中量、小砂利中量、粘性なし、縮まりあり
 - 2 10YR3/1 黒褐色：黄褐色粒が互層、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
 - 3 10YR5/3 にぶい黄褐色：黄褐色粘土主体、褐色粒少量、粘性なし、縮まりあり
- 2 E H R (江戸一面柱列)
- 2-1
- 1 10YR4/2 灰黄褐色：褐色土粒中量、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色：黄褐色土粒微量、砂利中量、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
- 2-2
- 1 10YR5/1 褐色：褐色粒・黄褐色粒・青灰色粒微量、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
 - 2 10YR3/1 黒褐色：褐色粒・青灰色粒中量、小砂利微量、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 3 10YR4/1 灰黄褐色：青灰色粒・褐色粒微量、小砂利中量、粘性なし、縮まりややあり
- 2-3

- 1 10YR6/2 灰黄褐色：黄褐色・青灰色粒中量、小砂利中量、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色：褐色粒・青灰色粒微量、小砂利中量、粘性なし、縮まりなし
 - 3 10YR4/2 青灰色粒微量、小砂利微量、粘性ややあり、縮まりややあり
- 2-4
- 1 10YR6/2 灰黄褐色：青灰色粘土粒中量、小砂利中量、粘性なし、縮まりあり
 - 2 10YR3/2 黒褐色：黄褐色粒中量、小砂利微量、粘性なし、縮まりなし
 - 3 10YR2/2 黒褐色：褐色粒・青灰色粒微量、小砂利中量、粘性ややあり、縮まりややあり
- 2-5
- 1 10YR5/2 灰黄褐色：灰黄褐色粘土中量、褐色粒微量、炭化物粒微量、小砂利中量、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色：褐色粒・青灰色粒中量、小砂利中量、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
 - 3 10YR3/1 黒褐色：黄褐色粒微量、小砂利少量、砂質、粘性ややあり、縮まりあり
- 2-6・7
- 1 10YR7/4 にぶい黄橙色：青灰色粒多量、小砂利多量、粘性なし、縮まりあり
 - 2 10YR3/3 暗褐色：青灰色粒微量、やや砂質、粘性なし、縮まりなし
 - 3 10YR3/1 黒褐色：黄褐色粒微量、小砂利少量、砂質、粘性ややあり、縮まりややあり
- 3 E H R (江戸一面柱列)
- 3-1
- 1 10YR4/1 褐色：青灰色粘土多量、褐色粒微量、炭化物粒微量、小砂利中量、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色：青灰色粒微量、褐色粒微量、炭化物粒微量、小砂利微量、粘性ややあり、縮まりなし
 - 3 10YR5/1 褐色：青灰色粒主体、褐色粒・黄褐色粒微量、炭化物粒微量、粘性なし、縮まりあり
- 3-2
- 1 10YR3/1 黒褐色：黄褐色塊多量、小砂利中量、粘性なし、縮まりなし
 - 2 10YR3/1 黒褐色：青灰色粘土粒中量、褐色粒微量、炭化物粒微量、小砂利少量、粘性なし、縮まりなし
- 3-3・4
- 1 10YR7/4 明黄褐色：褐色粘土粒主体、小砂利多量、粘性なし、縮まりなし
- 3-5
- 1 10YR6/5 明黄褐色：褐色粘土粒主体、小砂利多量、粘性なし、縮まりあり
 - 2 10YR7/5 にぶい黄橙色：黄褐色粒中量、小砂利多量、炭化物粒微量、粘性ややあり、縮まりややあり
- 3-6
- 1 10YR6/6 明黄褐色：黄褐色土粒多量、小石中量、粘性ややあり、縮まりややあり
 - 2 10YR5/3 にぶい黄橙色：黄褐色土粒微量、炭化物粒微量、やや砂質、粘性ややあり、縮まりなし
 - 3 10YR3/2 黒褐色：黄褐色粘土粒少量、褐色粒微量、炭化物粒微量、粘性ややあり、縮まりなし
 - 4 10YR7/4 にぶい黄橙色：褐色粒中量、炭化物粒微量、小砂利少量、粘性なし、縮まりややあり

- 5 10YR6/3 にぶい黄橙色：青灰色粘土粒・黄褐色土粒混合，粘性ややあり，締まりややあり
- 4 E H R (江戸一面柱列)
- 1-2
- 1 10YR6/1 褐灰色：青灰色粘土塊・小砂利少量，粘性なし，締まりあり
- 2 10YR5/1 褐灰色：青灰色粘土粒多量，粘性ややあり，締まりややあり
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙色：青灰色粘土多量，炭化物粒少量，粘性ややあり，締まりややあり
- 4-1
- 1 10YR3/1 黒褐色：焼土粒微量，炭化物粒多量，小砂利中量，粘性なし
- 2 10YR7/4 にぶい黄橙色：青灰色粘土主体，黄褐色粘土粒少量，小石少量，粘性あり，締まりあり
- 4-2
- 1 10YR3/1 黒褐色：黄褐色塊多量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR5/3 にぶい黄橙色：褐色粘土多量，砂質，粘性ややあり，締まりあり
- 3 10YR3/2 黒褐色：褐色粒微量，粘性ややあり，締まりなし
- 4-3
- 1 10YR3/1 黒褐色：炭化物粒多量，焼土粒微量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR5/3 にぶい黄橙色：褐色粘土多量，砂質，粘性ややあり，締まりあり
- 3 10YR6/2 灰黄褐色：青灰色粘土主体，黄褐色粒微量，小砂利少量，砂質，粘性なし，締まりあり
- 5 E H R (江戸一面柱列)
- 5-1
- 1 10YR3/2 黒褐色：青灰色粘土粒・褐色粒微量，小砂利・小石少量，炭化物粒微量，粘性ややあり，締まりややあり
- 5-2
- 1 10YR3/1 黒褐色：黄褐色塊多量，小砂利中量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR3/1 黒褐色：青灰色粘土粒中量，褐色粒微量，小石少量，炭化物粒微量，粘性なし，締まりあり
- 5-3
- 1 10YR5/3 にぶい黄橙色：青灰色粘土と褐色粘土の混合，小砂利少量，粘性ややあり，締まりややあり
- 2 10YR4/1 褐灰色：青灰色粘土粒・褐色粘土粒少量，小砂利中量，粘性ややあり，締まりややあり
- 5-4
- 1 10YR3/2 黒褐色：黄褐色粒多量，褐色粒微量，砂質，炭化物粒微量，粘性なし，締まりややあり
- 2 10YR5/4 にぶい黄橙色：黄褐色土塊多量，褐色粒中量，粘性ややあり，締まりややあり
- 5-5
- 1 10YR4/2 灰黄褐色：灰黄褐色粒微量，褐色粒微量，炭化物粒微量，粘性ややあり，締まりややあり
- 1 E M (江戸一面溝)
- A - A'
- 1 10YR3/1 黄褐色：黄褐色土粒やや多い，小砂利少量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR6/6 明黄褐色：褐色粒微量，粘性ややあり，締まりややあり (掘りすぎか確認)
- B - B'
- 1 10YR3/3 暗褐色：灰褐色粒少量，焼土多量，炭化物多量，粘性ややあり，
- 2 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色粒微量，粘性あり，締まりあり
- 3 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色粒微量，床土か，粘性ややあり，締まりあり
- C - C'
- 1 10YR5/2 にぶい黄褐色：黄褐色土主体に焼土，炭化物粒やや多く含む，粘性ややあり，締まりややあり
- 2 10YR3/3 暗褐色：灰褐色粒少量，焼土粒多量，炭化物粒多量，粘性ややあり，締まりややあり
- 3 2.5YR5/6 明赤褐色：焼土塊，下部炭化物層，粘性なし，締まりややあり
- 4 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色粒微量，床土，粘性ややあり，締まりややあり
- 2 E M (江戸一面土坑)
- D - D'
- 1 10YR2/1 黒色土：炭化物主体，焼土粒・塊多量，粘性あり，締まりなし
- 2 10YR3/3 暗褐色：炭化物粒多量，黄褐色粒多量，砂質，粘性なし，締まりなし
- E - E'
- 1 10YR6/6 明黄褐色：黄褐色粒中量，小砂利中量，粘性なし，締まりあり，転圧
- 2 10YR3/2 黒褐色：焼土粒・塊多量，炭化物粒多量，廃棄土，粘性ややあり，締まりあり
- 1 E D (江戸一面土坑)
- 1 10YR4/4 褐色：黒色土に褐色粒多量，小砂利多量，粘性なし，締まりなし
- 2 10YR3/1 黒褐色：褐色粒微量，小砂利少量，粘性なし，締まりなし
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色：褐色粒中量，やや砂質，炭化物粒中量，粘性なし，締まりなし
- 4 10YR4/1 褐灰色：褐色粒中量，3～4cm大の小石を含む，粘性なし，締まりなし
- 5 10YR5/2 灰黄褐色：黄褐色粒多量，小砂利多量，粘性なし，締まりなし
- 2 E D (江戸一面土坑)
- 1 10YR6/3 にぶい黄橙色：黄褐色粒多量，小砂利多量，粘性なし，締まりなし
- 江戸一面 III区
- 1 E H T (江戸一面掘立柱建物)
- 1 10YR3/2 黒褐色：松杭腐植土
- 2 10BG7/4 明青灰色：松杭周辺腐植土
- 2 E H T (江戸一面掘立柱建物)
- 1 10YR3/2 黒褐色：松杭腐植土
- 2 10BG7/4 明青灰色：松杭周辺腐植土
- 4 E H T (江戸一面掘立柱建物)
- 1 10YR3/2 黒褐色：松杭腐植土
- 2 10BG7/4 明青灰色：松杭周辺腐植土
- 3 E H T (江戸一面掘立柱建物)
- 1 10YR3/1 黒褐色：黒色土主体に黄白色粒微量，小石中量含まれている，小砂利が中央に多いものと (A3・B1・3)，周囲に多いもの (B2) がある
- 1 E H R (江戸一面柱列)
- 1 10YR6/2 灰黄褐色：青灰色粘土多量，黄褐色粒中量，小砂利少量，粘性なし，締まりあり
- 2 10YR3/2 暗褐色：青灰色粘土粒子微量，黄褐色粒微

- 量, 細砂粒中量, 粘性なし, 締まりなし
- 3 10YR5/2 灰黄褐色: 青灰色粘土粒子微量, 黄褐色粒中量, 小石・砂利少量, 粘性なし, 締まりなし
- 4 10YR3/1 黒褐色: 青灰色粘土粒子微量, 黄褐色塊少量, 黄褐色粒少量, 粘性なし, 締まりなし
- 2 E H R (江戸一面柱列)
- 1 0YR7/5 にぶい黄褐色: 黄褐色塊少量, 粒子中量, 砂利微量, 粘性なし, 締まりあり
- 2 10YR3/3 暗褐色: 黄褐色粒微量, 小砂利中量, 粘性なし, 締まりなし
- 3 10YR7/3 にぶい黄褐色: 黄褐色粘土主体, 粘性なし, 締まりややあり
- 4 10YR6/2 灰黄褐色: 黄褐色粒多量, 褐色粒微量, 粘性あり, 締まりややあり
- 5 10YR4/2 灰黄褐色: 黄褐色粒微量, 砂利中量, 小砂利少量, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色: 黄褐色粒多量, 青灰色粘土粒少量, 小砂利中量, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 3 E H R (江戸一面柱列)
- 1 10YR3/1 黒褐色: 褐色粒微量, 炭化物粒微量, 砂利少量, 粘性あり, 締まりあり
- 1 E M S (江戸一面埋設土坑)
- 1 10YR5/1 褐配色: 腐植土, 黒色土が青灰色粘土化している, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色: 黄褐色粒中量, 小砂利を少量含む, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 3 10YR6/2 灰黄褐色: 黄褐色粒, 小砂利を少量含む, 粘性ややあり, 締まりあり

江戸一面 IV区

- 1・2 E H R (江戸一面礎石列)
- 1 10YR3/2 黒褐色: 褐色粒多量, 小石を多量に含む, 粘性なし, 締まりあり「根石」
- 2 10YR3/3 暗褐色: 黒色土・淡褐色土・褐色土を互層に版築, 粘性あり, 非常に固い
- 1 E I D (江戸一面井戸)
- 井戸内
- 1 10YR5/4 黄橙色: 褐色土主体, 粘性あり, 締まりあり, 表準層序に近い
- 2 10YR3/1 黒褐色: 煉瓦を含む, 粘性なし, 締まりなし
- 3 10YR3/1 黒褐色: 黄褐色粒微量, 小砂利多量, 粘性なし, 締まりなし
- 4 10YR2/2 黒褐色: 小砂利多量, 煉瓦を含む, 粘性なし, 締まりなし
- 5 10YR2/2 黒褐色: 小砂利少量, 粘性なし, 締まりなし

井戸外整地層

- V 1 10YR8/4 浅黄橙色: 黄褐色粘土塊主体, 粘性なし, 非常に固い「転圧」
- V 2 10YR7/6 明黄褐色: 黄褐色粘土塊主体, 粘性ややあり, 締まりあり「転圧なし」
- VI 1 10YR8/4 浅黄橙色: 黄褐色粘土塊主体, 粘性なし, 非常に固い「転圧」
- VI 2 10YR6/5 明黄褐色: 黄褐色粘土塊主体, 小砂利少量, 粘性あり, 非常に固い「転圧なし」
- VII 1 10YR3/2 黒褐色: 小砂利少量, 小石少量, 炭化物粒微量, 粘性あり, 締まりややあり
- VIII 1 7.5Y 灰色: 青灰色粘土主体, 黄褐色粘土混入, 粘

- 性ややあり, 固く締まっている
- VIII 2 10YR5/1 褐灰色: 青灰色粘土塊主体, 褐色粒微量, 小砂利中量, 粘性あり, 締まりあり
- VIII 3 10YR5/6 黄褐色: 黄褐色粘土主体,

江戸二面 (E 2) II区

- 1 E 2 S R (江戸二面礎石列)
- IV 1 ② 10YR6/5 明黄褐色: 黄褐色塊・黒色土微量, 粘性なし, 非常に固い
- 1 E 2 K A (江戸二面小穴)
- 2 E 2 K A (江戸二面小穴)
- 1 10YR3/2 黒褐色: 褐色粒子多量, 赤褐色粒子少量, 炭化物粒微量, 細砂粒少量, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 3 E 2 K A (江戸二面小穴)
- 1 10YR6/1 褐灰色: 黒色土中量, 粘性あり, 締まりあり
- 1 E 2 K I (江戸二面杭)
- 周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している
- 2 E 2 K I (江戸二面小穴)
- 周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している
- 3 E 2 K I (江戸二面小穴)

江戸二面 (E 2) III区

- 1 E 2 H R (江戸二面柱列)
- IV 1 10YR6/5 明黄褐色: 黄褐色塊・黒色土微量, 粘性なし, 非常に固い
- P 1
- 1 10YR3/2 黒褐色: 褐色粒子多量, 赤褐色粒子少量, 炭化物粒微量, 細砂粒少量, 粘性ややあり, 締まりややあり
- 2 10YR7/3 にぶい黄褐色: 黄褐色粘土主体, 粘性なし, 締まりややあり
- 3 E 2 K A (江戸二面小穴)
- 1 10YR6/1 褐灰色: 黒色土中量, 粘性あり, 締まりあり
- 3 E 2 K A (江戸二面小穴)
- 1 10YR6/1 褐灰色: 黒色土中量, 粘性あり, 締まりあり
- 1 E 2 K I (江戸二面杭)
- 周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している
- 2 E 2 K I (江戸二面小穴)
- 周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している
- 3 E 2 K I (江戸二面小穴)
- 周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

江戸二面 (E 2) III区

- 1 E 2 S R (江戸二面柱列)
- P 1
- 1 10YR4/1 褐配色: 青灰色粘土主体に褐色粒・炭化物粒微量, 粘性あり, 締りなし
- 2 10YR6/5 明黄褐色: 黄褐色土と青灰色粘土の混合土, 粘性あり, 締りややあり
- P 2
- 1 10YR8/4 浅黄褐色: 青灰色粘土に褐色塊を含み, 小石少量, 炭化物粒微量, 粘性ややあり, 締りややあり
- 2 10YR4/1 褐配色: 黒褐色土に炭化物微量, 粘性あり, 締りややあり

3 10YR5/1 褐配色：砂質土が青灰色に変質した，粘性なし，縮りややあり

P 3

1 10YR4/1 褐配色：青灰色粘土に黒色土，炭化物微量，粘性ややあり，縮りややあり

2 10YR5/1 褐配色：青灰色粘土に褐色塊と粒子を含む，粘性あり，縮りややあり

P 4

1 10YR3/1 黒褐色：黄褐色粒微量，小砂利多量，粘性なし，縮りなし

2 10YR5/1 褐配色：青灰色粘土・褐色粘土の混合土，粘性あり，縮りあり

1 E 2 D (江戸二面土坑)

1 10YR5/3 にぶい黄褐色：黄褐色塊多量，小砂利少量，粘性なし，縮りなし

2 10YR5/3 にぶい黄褐色：黄褐色大塊多量，小砂利少量，やや砂質，粘性なし，縮りややあり

3 10YR5/4 にぶい黄褐色：黄褐色塊少量，小砂利少量，粘性なし，縮りなし

2 E 2 D (江戸二面土坑)

1 10YR4/4 褐色：灰黄褐色粒多量，褐色粒中量，小石少量，小砂利少量，粘性なし，縮りなし

2 10YR3/2 黒褐色：小砂利多量，褐色粒微量，粘性なし，縮りなし

3 10YR4/3 にぶい黄褐色：灰黄褐色粒多量，褐色粒微量，粘性ややあり，縮りなし

3 E 2 D (江戸二面土坑)

1 10YR4/2 灰黄褐色：黄褐色粘土中量，炭化物微量，褐色粒微量，粘性なし，縮りなし

2 10YR5/6 黄褐色：黄褐色粘土塊主体，褐色粒・塊中量，粘性あり，縮りあり

江戸2面 IV区

1 E 2 K A (江戸二面小穴)

周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

2 E 2 K A (江戸二面小穴)

周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

1 E 2 K I (江戸二面杭)

周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

2 E 2 K I (江戸二面杭)

周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

3 E 2 K I (江戸二面杭)

周囲の黄褐色土がグライ化し青灰色に酸化している

江戸造成遺構 II区 (江戸二面から江戸八面)

造成土層

V 1 10YR5/6 褐灰色：灰白色粘土粘土主体，子砂利微量，やや錆化している，粘性ややあり，縮りあり，非常に固い

V 2 10YR6/1 褐灰色：褐灰色・灰白色粘土塊，小石中量，錆化が著しい，粘性ややあり，縮りあり

V 3 10YR4/1 褐灰色：黒色土主体，灰白色粘土中量，上層に錆化が顕著，小石少量，粘性ややあり，縮りあり，縮りなし

V 4 10YR5/2 灰黄褐色土：黒色土・白色土粘土混合，

小石中量，下層に錆化がみられる，粘性ややあり，縮りややあり

VI 1 10YR6/1 褐配色：灰灰色粘土主体，褐色粒少量，粘性ややあり，縮りあり

VI 2 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土主体，褐色粒少量，粘性ややあり，縮りややあり

VII 1 10YR7/7 明黄褐色：褐色粘土主体，灰白色粘土混合，粘性ややあり，縮りややあり

VII 2 10YR3/1 黒褐色：黒色土に砂利多量を含む，粘性なし，縮りなし

VIII 1 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土に褐灰色粘土混合，粘性ややあり，縮りあり

VIII 2 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土に褐灰色粘土混合，塊状，粘性ややあり，縮りあり

VIII 3 10YR5/1 褐灰色：灰白色粘土に褐灰色粘土混合，錆化している，粘性あり，縮りなしかい

江戸六面 III区

1 E 4 S G (江戸六面葉遺構)

1 10YR4/1 褐灰色：草木類の腐植土，粘性なし，縮りなし

2 10YR6/1 褐灰色：腐植土の周囲がグライ化し青灰色粘土に変異している。粘性ややあり，縮りややあり

1 E 4 Z (江戸六面造成遺構)

V 1 10YR5/1 褐灰色：黄褐色粘土粒主体，粘性あり，固く縮まっている。

V 2 10YR6/4 にぶい黄褐色：黄褐色塊，部分的に腐植土化，粘性あり。縮りややあり

VI 1 10YR5/1 褐灰色：灰白色土主体，灰褐色粘土中量，粘性ややあり，縮りあり

VI 2 10YR4/1 褐灰色：炭化物粒多量，粘性ややあり，縮りややあり

VI 3 10YR4/1 褐灰色：黒色土に灰白色粘土に中量，小石少量，粘性なし，縮りなし

VII 1 10YR5/1 褐灰色：黒色土，灰白色粘土，褐色土塊少量含む，粘性あり，縮りあり

VII 2 10YR6/1 褐灰色：灰白色粘土塊主体，粘性あり，縮りあり

VII 3 ① 10YR5/5 黄褐色：黄灰色粘土塊主体，粘性ややあり，縮りややあり

VII 3 ② 10YR3/1 黒褐色：灰褐色粒微量，小砂利少量，炭化物粒微量，粘性ややあり，縮りややあり

VII 3 ③ 10YR7/6 明黄褐色：黒色土と褐色土混合，炭化物微量，小砂利微量，縮りややあり，粘性あり

VIII 1 10YR5/1 褐配色：灰白色粘土主体，黒色土微量，下端黒色土，粘性あり，縮りややあり

第5表 遺物観察表

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状・特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率	
							口径・長さ	底径・幅・径	器高・高さ・厚			絵付・釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴							
1	II区	1GD1	1	磁器	壺	横反り	5.1	2	2.8	25	ロクロ削り高台	プリント染付 透明釉	外面：富士山 内面：無文 見込：大七	コバルトプリント 裏付無釉	白色	福島県二本松市の大七酒造株式会社製品である。大七酒造は宝暦2年(1752)創業である。	瀬戸	戦後		100	
2	II区	1GD1	2	磁器	湯呑茶碗	筒	(8.3)	—	(8.8)	(61)	型	クローム輪文字 下部鉄軸	外面： 内面： 見込：	クローム輪	白色	『多賀駅前』	美濃	戦後		30	
3	II区	1GD1	3	ガラス	瓶	円筒	2.6	7.1	24.8	(565)	型	青緑色	外面：商標ラベル 内面： 見込：		気泡	ワインボトル 底面N		戦前		95	
4	II区	1GD1	4	ガラス	瓶	円筒	—	7.4	57.1	58.1	型	濃茶色	外面：商標ラベル 内面： 見込：			SapporoBeer 正633ml		戦後	SapporoBeerの瓶にアサヒビールの商標貼付	100	
5	II区	1GD1	5	ガラス	瓶	円筒	2.6	7.5	58.1	583	型	濃茶色	外面： 内面： 見込：			カルピスCALPIS 正633ml		戦後		100	
6	II区	1GD1	6	ガラス	瓶	樽円	2.2	幅7.9 厚3.7	15.2	241	型	濃茶色	外面： 内面： 見込：			NIKA 正180ml 4 SN		戦後		100	
7	II区	1GD1	7	ガラス	瓶	円筒	2.6	6	23.6	394	型	薄青色	外面：三矢羽根 内面： 見込：	上半と椀地面に海風風流装飾	体部下端に円形凹型	三ツ矢サイダー アサヒビール株式会社 350ml		戦後		100	
8	II区	1GD1	8	ガラス	瓶	円筒	2.6	5.4	18.6	298	型	透明	外面： 内面： 見込：	外面海風風流装飾		SUNTORY SODA KOTOBUKIYA LIMITED Y		戦後		100	
9	II区	1GD1	9	ガラス	瓶	円筒	2.6	5.4	21.8	406	型	透明	外面：中位下位面取 内面： 見込：	上半上半、下位海風風流装飾	底部凹合せ部に樽円形凹型	Bireleys T.M.REG.S.PAT.OFF NET CONTENTS 60/4 FL.OZ		60/4	100		
10	II区	1GD1	10	ガラス	瓶	円筒	4.4	5.6	14.1	247	型	透明	外面：明治商標 内面： 見込：			Meiji 正180cc 0 11K		戦後		100	
11	II区	1GD1	11	ガラス	瓶	円筒	4.5	5.6	14	243	型	透明	外面：雪印商標 内面： 見込：			明治牛乳 雪印バター 正180cc		戦後		100	
12	II区	1GD1	12	ガラス	瓶	円筒	2.3	4.9	14.6	220	型	透明	外面： 内面： 見込：			(千代乃白) 菊 阿部酒造店		戦後		100	
13	II区	1GD1	13	ガラス	瓶	樽円	3	4.2× 4.5	8.1	9.1	型	透明	外面： 内面： 見込：	口部と底部は円形、胴部は樽円		江戸むらさき 707ml		戦後		100	
14	II区	1GD1	14	金属	缶	円筒	—	6.7	12.2	55	型合せ	青・白	外面： 内面： 見込：	オリンピック商標	スチール合せ接合	SAPPORO LAGERBEER		戦後		60	
15	II区	1GD1	15	金属	缶	円筒	5.5	—	(13.3)	(52)	型合せ	濃茶	外面： 内面： 見込：		スチール合せ接合	CocaCola Coke 250ml		戦後		70	
16	II区	1GD1	16	金属	缶	円筒	5.6	5.6	13.3	(64)	型合せ	濃紫	外面： 内面： 見込：		スチール合せ接合	ファンタグレープ FANTAGRPE 250ml		戦後		90	
17	II区	1GD1	17	金属	錠前	五角形二足	7.2 11.8	10.7 1.8	1.8 1.9	579	鋳型組合せ	錆	外面： 内面： 見込：			鍵穴文		戦後		100	
18	II区	1GD1	18	セメント	瓦	椀瓦	(17.2)	(12.1)	1.8	(615)	型	淡黒色	外面：ナデ 内面：型痕 見込：		モルタルに砂粒多量			戦後		30	
19	II区	2GD1	1	磁器	湯呑茶碗	丸碗	[8.4]	—	(4.7)	(30)	ロクロ	クロム輪	外面：達磨大師・縁 内面： 見込：	プリントに金彩	薄緑・胎土にクロム輪を混入		瀬戸	昭和		20	
20	II区	2GD1	2	磁器	井	八形	[15.6]	[7.4]	6	(58)	泥漿練込	コバルト輪	外面：コバルト縦線 内面： 見込：		乳白色 輝なし		美濃	戦後		20	
21	II区	2GD1	3	プラスチック	レール	レール型	6	10.7 厚1.7	10.7	47	型	茶	外面： 内面： 見込：		布を貼り付けている			戦後		100	
22	II区	2GD1	4	ガラス	管	筒	13.6	0.66	0.46	(6.0)	型	透明	外面： 内面： 見込：		定形長不明			戦後			
23	II区	3GD1	1	瓦質	瓦	椀瓦	幅(8.5)	厚1.7	長(15.0)	(150)	型	淡黒色	外面：磨き 内面：磨き 見込：		黒色砂粒を含み粘土質			昭和		5	
24	II区	3GD1	2	瓦質	瓦	椀瓦	幅(6.3)	厚1.8	長(21.2)	(212)	型	淡黒色	外面：磨 内面：磨 見込：		黒色砂粒を含み粘土質			昭和		5	
25	II区	1KST	1	瓦質	火消壺	蓋	[18.5]	[15.6]	3	(53)	粘土練ロクロ	黒色	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 見込：無調整	内面と体部外面黒色、底部は白色	石英粒微量・長石粒少量・やや砂質		在地	幕未明治		5	
26	II区	1KST	2	瓦質	火鉢	円筒	[19.5]	—	(4.8)	(53)	粘土練ロクロ	灰色	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 見込：	外面波状文	石英粒微量・長石粒少量・白雲母微量・やや粘り		在地	幕未明治		5	
27	II区	1KST	3	瓦質	火鉢	円筒	—	—	(7.8)	(130)	粘土練ロクロ	灰色	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 見込：		長石粒微量・黒色微砂粒少量	外面2隆帯間に菊花文押印	在地	幕未明治		5	
28	II区	1KST	4	瓦質	無頸壺	丸形	—	8	(8.1)	(320)	粘土練ロクロ	外面黒色 内面地色	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 見込：		長石粒微量・褐色粒少量	体部下端へラ削り・底部糸切	在地	幕未明治		60	
29	II区	1KST	5	陶器	皿	丸皿	[12.2]	[7.0]	3.1	(23)	ロクロ削り高台	内面と外面中位灰輪	外面： 内面： 見込：		長石粒微量・黒色微砂粒多量・やや粘土質	削り出し高台が外反し深い	瀬戸	1750～1770	瀬戸編年III b・c期	20	
30	II区	1KST	6	陶器	器鉢	丸形	—	11	(10.0)	(626)	ロクロ削り高台	内外面鉄輪 濃茶色	外面： 内面： 見込：		長石粒少量・黒色微砂粒少量	内底面には径11cmの5脚長方形のトチン痕が残る。外底面にも径11cmのトチン上部の痕がある。	土面小砂	幕未明治		40	
31	II区	1KST	7	陶器	土瓶	丸形	[6.8]	—	(10.2)	(110)	ロクロ	鉄輪・縁輪・白アルミナ下給に灰輪	外面：縁・輪・白アルミナ下給に灰輪 内面： 見込：		鉄で輪郭を描き白塗し縁を乗せている。	長石粒多し、乳白色の良質土	薄手で耳は手廻り	信楽	幕未明治		30
32	II区	1KST	8	磁器	酒盃	平形	[7.4]	[2.9]	2.7	(6.0)	ロクロ	文字入り透明釉	外面：透明釉 内面：透明釉 見込：	ゾム印「水戸守守口」に金描き柳縁	白色・黒色微砂粒微量・光有	薄手酒杯(東京絵付か)	瀬戸	明治	明治29年土浦一田藩開通以降	30	
33	II区	1KST	9	磁器	小杯	横反形	[5.8]	[2.4]	2.5	(13)	ロクロ削り高台	透明釉	外面：透明釉 内面：具貨模染 見込：網約り	染付 墨付無釉	白色長石・黒色微砂粒微量	横反り小杯、口縁内面具貨2重線、内定面網約り	肥前	18C前半		20	
34	II区	1KST	10	磁器	紅猪口	平形	[7.6]	[2.2]	(2.3)	(34)	ロクロ削り高台	透明釉	外面：草文 内面： 見込：	型紙摺捨、墨付無釉	白色長石・黒色微砂粒微量・光有	平形で紅猪口	瀬戸	明治		50	
35	II区	1KST	11	磁器	紅猪口	平形	[7.9]	[2.6]	2.5	(29)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 コバルト輪	外面：草文 内面： 見込：	染付 墨付無釉	白色長石・黒色微砂粒微量・光有	平形で紅猪口	美濃	明治		50	
36	II区	1KST	12	磁器	小杯	丸形	[7.4]	[3.6]	3.9	(28)	ロクロ削り高台 番町底	染付 透明釉 コバルト輪	外面：桃文 内面： 見込：	線描き濃緑 墨付・底面無釉	白色長石・黒色微砂粒微量	湯呑茶碗	肥前	明治		40	
37	II区	1KST	13	磁器	小杯	横反形	[7.0]	[3.4]	3.5	(40)	ロクロ削り高台	透明釉	外面：菊花文 内面： 見込：	銅版摺刷 墨付無釉	白色長石	湯呑茶碗	肥前	明治		60	
38	II区	1KST	14	磁器	丸碗	丸形	[10.5]	4.8	5.5	(105)	ロクロ削り高台	染付 透明釉	外面：花唐草文 内面： 見込：	口縁・体部下端・底部外周に具貨輪 線描き	白色長石に薄茶	飯碗	肥前	1650～1670		60	
39	II区	1KST	15	磁器	蓋	落し蓋	6.2	φマミ1.4	2	(23)	ロクロ	コバルト染付 透明釉	外面： 内面： 見込：	外面：雲に刈田 内面： 見込：	坊主型の溝みに空気穴	灰白色	急須蓋	会津本郷	明治		100
40	II区	1KST	16	磁器	小皿	横反形	[7.6]	4	1.3	(20)	型	外面： 内面： 見込：	外面：丸に〇〇庵 内面： 見込：	鉄軸赤でゾム印 墨付無釉	白色		美濃	戦後	店商標正	40	
41	II区	1KST	17	磁器	湯呑茶碗	筒形	[7.0]	[4.0]	6.8	(35)	ロクロ	外面：文字 内面： 見込：			白色	鉄軸赤で〇〇記念湯呑茶碗	美濃	戦後	記念湯呑茶碗	30	
42	II区	1KST	18	磁器	湯呑茶碗	筒丸	[7.4]	[3.4]	5.1	(57)	ロクロ	外面：梅木 内面： 見込：		木鉄描きに梅赤盛	白色		美濃	戦後		50	
43	II区	1KST	19	陶器	甕	大甕	—	15.6	(5.0)	(869)	粘土練ロクロ	焼締め	外面： 内面： 見込：		長石・黒色微砂粒微量	外底面に「V」字の墨印	常滑	13・14C		5	
44	II区	1KST	20	磁器	碗	丸碗	[10.6]	—	(4.8)	(15)	ロクロ	青磁輪 厚い	外面：細連弁文 内面：蘭花文 見込：	細連弁文	灰白色	青磁細連弁文碗	龍泉	15C		5	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率			
							口径・長さ	底径・幅・径	器高・高さ・深			絵付/軸染/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴									
45	II区	1KST	21	瓦質	瓦	軒丸	(13.5)	(7.5)	(5.8)	(398)	粘土板型作り	焼成	外面：ナデ 内面：型布 見込：ナデ	珠文様巴文軒丸瓦	石英長石・針状鉱物・黒色微砂少量・粘土質	瓦当貼付け接合指痕で、丸瓦内面型圧痕あり。	在地	江戸中期		5			
46	II区	1KST	22	瓦質	軒棧瓦	万十	(5.3)	(7.6)	(7.5)	(171)	型作り	焼成	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		石英長石・針状鉱物・黒色微砂微量・粘土質	右棧瓦に万十軒を接合	在地	江戸中期		5			
47	II区	1KST	23	ガラス	おはじき	円盤	2.4	2.4	0.4	5	型作り	白ガラスに赤の跡が入る。	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	左巴文が型から押し出されている。	乳白色に赤線		在地	大正昭和		100			
48	II区	1KST	24	銅	煙管	吸口	7.3	1.1	1.2	6	板合せ		外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ			長方形の銅板を円形に丸めて合せ部を接合している。接合部を下にして使用した。縦溝	江戸後期	吸口端部が噛み後で平たくなっている	40				
49	II区	3KST	1	土師質	五徳	円形	—	[17.2]	(6.8)	(161)	手ひ練	褐色	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		石英長石・針状鉱物・黒色微砂少量・砂質	円形環に3本脚を接合し、綺麗なナデ仕上げ	在地	明治		5			
50	II区	3KST	2	瓦質	甕	円形	[26.6]	—	(7.7)	(184)	粘土紐ロクロ	黒褐色	外面：ヨコナデ 内面：指ナデ後ヨコナデ 見込：ナデ		長石粒少量・黒色微砂微量・砂質・赤褐色		在地	幕末明治		5			
51	II区	3KST	3	陶器	碗	丸	—	2.9	(2.9)	(43)	ロクロ削り高台	透明釉	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	体部下端から底部無軸	長石粒少量	高台は外面が直立、内面は内傾・貫入目立つ。	信楽	19C前葉		30			
52	II区	3KST	4	磁器	碗	端反り	[9.4]	[4.2]	4.8	(54)	ロクロ削り高台	染付 透明釉	外面：無軸 内面：口辺雲文 見込：天珠輪環に漆	外面口辺と体部下端具須藤に雲文 藍付無軸	白色・黒色微砂粒微量・死存		瀬戸	明治前期		50			
53	II区	3KST	5	磁器	蓋	内蓋	[9.5]	[3.8]	2.8	(44)	ロクロ削り蓋	染付 透明釉	外面：無軸 内面：具須藤 見込：雲文丸文	縮み端部無軸		金継	肥前	江戸後期		50			
54	II区	3KST	6	瓦質	瓦	平	(14.4)	(11.8)	(4.1)	(274)	型作り	焼成テカリ有	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	凹面磨き、凸面磨き、脚目の滑り止め	黒色微砂中量 灰色・粘土質		在地	昭和		20			
55	II区	3KST	7	瓦質	瓦	雁振瓦	(12.7)	(15.9)	(7.7)	(772)	型作り	焼成テカリ少々	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	凹面型圧痕無調整 凸面磨き	黒色微砂中量 灰色・粘土質	本体部素材2枚重ね、有段部を接合し内端部へナデ	在地	江戸後期		20			
56	II区	3KST	8	瓦質	管	円筒	(16.5)	(8.3)	(4.1)	(330)	型作り	焼成テカリ無	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	内面型圧痕未調整、外面タテヨコナデ	石英長石少量・黒色微砂微量・砂質	下方が厚く、上方が薄く、粘土板を放射状に分けて巻き付けている。	在地	明治後半～大正					
58	II区	1KS	1	磁器	皿	端反り	—	—	(4.0)	(32)	ロクロ削り高台	青磁釉	外面：ナデ 内面：型浮彫唐草 見込：ナデ	ロクロ成形後型打ち整形	白色・黒色微砂粒微量・灰や含有	青磁釉型打ち整形大皿	肥前	17世紀後半		1			
59	II区	2KS	1	磁器	楕円鉢	3脚	—	10	(11.5)	(419)	型作り	染付青磁釉	外面：染付文に草木文 内面：接合痕 見込：穿孔	薄い鉄軸で縁置き後コバルト装飾	鉄石・黒色微砂粒中量	底部と体部を2分割して脚部を接合、接合部に指ナデ痕あり、底面墨書「ナ201 一」	肥前	明治後半～大正		30			
60	II区	3KS	1	陶器	火入れ	円筒	—	[10.4]	(2.0)	(19)	ロクロ削り高台	化粧土	外面：化粧土 内面：無軸 見込：無軸	体部は化粧土、底部にはアルミナ施釉	長石粒少量・黒色微砂微量・灰や砂質で赤褐色	底部墨書「」	笠間	明治後半～大正		1			
61	II区	3KS	2	瓦質	瓦	平	(18.4)	(12.3)	(6.6)	(532)	型作り	焼成テカリ無	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ	凹面ナデ、磨化、凹面ヨコナデ	黒色微砂微量・灰や粘土質で灰色		在地	江戸		20			
62	II区	1KH	No.1	磁器	皿	折縁	[20.2]	—	(2.6)	(28)	ロクロ	薬灰釉	外面：貫入 内面：貫入 見込：貫入		灰白色粘土	中型皿で折縁 焼成不良	肥前	17世紀前半		1			
63	II区	1KH	No.2	陶器	土瓶	丸	—	[7.6]	(6.9)	(50)	ロクロ	クロム軸文字透明釉	外面：「口浦」 内面：ナデ 見込：ナデ		長石微砂粒中量	ロクロ、鉄砲口接合、濃し孔4孔	益子	明治29年～大正10年		10			
64	II区	1KH	1	柘器	土管	円筒	外13.6 内14.7 厚1.2 ～2.0	外19.6 内19.2 厚2.0	66.3	(4600)	粘土板円筒連結型作り	内面と外面に薄いマンガン軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		黒色粒と長石粒微量混入、粘土褐色	円筒型に筒部を2段と連結部の3段に粘土板を巻付け、内面ヨコナデ、外面タテナデ仕上げ	常滑	昭和初期		60			
			1KH	2	柘器	土管	外15.2 内17.4 厚2.1	外20.0 内17.4 厚2.1	[57.5]	(6200)	粘土板円筒連結型作り	連結部無し マンガン軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ								30		
			1KH	3	柘器	土管	外14.3 内16.2 厚1.2 ～1.7	外18.8 内16.3 厚2.1	65.2	(6100)	粘土板円筒連結型作り	円筒部と連結部90度、鉄軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ									90	
			1KH	4	柘器	土管	外14.9 内16.4 厚1.2 ～1.7	外19.1 内16.4 厚2.1	66.7	(6200)	粘土板円筒連結型作り	円筒部と連結部10度、マンガン軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ									95	
65	II区	1KH	5	柘器	土管	円筒	外14.6 内14.7 厚1.1 ～1.9	外20.4 内17.1 厚3.3	66.4	6600	粘土板円筒連結型作り	内面と外面に薄いマンガン軸を刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		黒色粒と長石粒微量混入、粘土褐色	円筒型に筒部を2段と連結部の3段に粘土板を巻付け、連結部と筒部に粘土板合せ目が外面に認められる。外型の痕は筒部と連結部で90度付いている。筒部中心位と内面ヨコナデ、外面タテナデ仕上げ	常滑	昭和初期		100			
			1KH	6	柘器	土管	外14.7 内14.7 厚1.7	外19.1 内17.0 厚2.0	(56.8)	(4100)	粘土板円筒連結型作り	連結部無し マンガン軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ									60	
			1KH	7	柘器	土管	外14.0 内14.5 厚1.1 ～1.7	外19.8 内17.0 厚2.0	66	(6200)	粘土板円筒連結型作り	円筒部と連結部10度、マンガン軸刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ										100
66	II区	1KH	8	柘器	土管	円筒	外14.2 内14.2 厚1.1 ～1.8	外20.4 内17.1 厚2.1	67.2	(4400)	粘土板円筒連結型作り	内面と外面に薄いマンガン軸を刷毛塗	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		黒色粒と長石粒微量混入、粘土褐色	円筒型に筒部を2段と連結部の3段に粘土板を巻付け、連結部と筒部に粘土板合せ目が外面に認められる。外型の痕は筒部と連結部で90度付いている。筒部中心位と内面ヨコナデ、外面タテナデ仕上げ、内面ヨコナデ、外面タテナデを刷毛塗	常滑	昭和初期		70			
67	II区	1KH	9	柘器	土管	円筒	外13.6 内13.6 厚1.7 ～1.5	外17.7 内14.1 厚1.5	(38.5)	144	粘土板円筒連結型作り	無軸	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		長石・石英・赤褐色	筒部中心位内面ヨコナデ、ヘラナデ。外面タテナデ仕上げ					30		
68	II区	1KRM	No.1	磁器	紅溜口	平	[7.4]	[2.4]	2.4	(18)	ロクロ削り高台	型紙摺繪 透明釉	外面：稲草文 内面：ナデ 見込：ナデ	型紙摺繪 墨付無軸	白色 黒色微砂粒微量	平形で丸く立ちあがる。	肥前	明治		40			
			2	土製	煉瓦	直方体	22.7	10.9	5.8	2310											100		
			3	土製	煉瓦	直方体	10.6	110.6	5.9	1980												45	
			4	土製	煉瓦	直方体	12.0	116.9	6	1142												50	
69			4	土製	煉瓦	直方体	22.7	11.1	5.8	2308	型作り	内外面に白く接着剤としてのモルタルが残る。	外面：ナデ 内面：ナデ 見込：ナデ		石英・長石・輝石を含む褐色である。	底縁のある直方体の箱に粘土を器の用き板で絞めて最終的に横へら削りして使っている。底縁は削れた面とへら削り面がある。側面は綺麗な面であるが仕上げは見られぬ。その上の中央付近に印がある。底縁の面を軽く削っている。底面に並行して成形時の亀裂がある。押印面は成形時に僅かに窪む。				100			
			5	土製	煉瓦	直方体	22.4	10.8	5.7	2234												95	
			6	土製	煉瓦	直方体	22.1	10.7	5.7	2234												95	
			7	土製	煉瓦	直方体	22.4	10.7	5.8	2247												100	
			8	土製	煉瓦	直方体	22.4	10.9	5.8	2297												100	
			9	土製	煉瓦	直方体	22.5	11	6	2335												100	
			10	土製	煉瓦	直方体	22.6	11.7	5.8	2301												100	
			11	土製	煉瓦	直方体	22.3	10.9	5.9	1757												75	
			12	土製	煉瓦	直方体	17.1	10.8	5.9	1334												50	
			13	土製	煉瓦	直方体	21.9	10.7	5.6	2004												100	
			14	土製	煉瓦	直方体	22.1	10.7	5.7	2400												100	
			15	土製	煉瓦	直方体	21.7	10.6	5.7	2370												100	
			16	土製	煉瓦	直方体	22.7	11	6	2400												100	
			17	土製	煉瓦	直方体	22.5	10.8	5.8	2330												100	
			18	土製	煉瓦	直方体	22	11	5.8	2316												100	
			19	土製	煉瓦	直方体	22.9	11.2	5.9	2310												100	
			20	土製	煉瓦	直方体	22.4	10.8	5.8	2262												95	
			21	土製	煉瓦	直方体	22.1	10.7	5.8	2349												100	
			22	土製	煉瓦	直方体	22.1	10.8	5.8	2325												100	
			23	土製	煉瓦	直方体	12.3	11	5.9	1183												55	
			24	土製	煉瓦	直方体	22.5	10.8	5.8	2320												100	
			—							1174	1174												

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形	装飾			胎土・夾雑物	印・銘	墨書	技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率	
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ・厚			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴									
74	II区	1KH1D	1	瓦質	火消差	蓋	22.2	ツマミ(3.9)	4.2	(896)	粘土紐 ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石・長石・黒色微砂少量・砂質	体部「八」の字、ツマミ接合			在地	幕末明治	ツマミ付	100	
75	II区	1KH1D	2	陶器	蓋	蓋し蓋	[10.8]	—	(1.4)	(7.0)	ロクロ	鉄軸	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石・黒色微砂少量・淡灰色			小砂	幕末明治	行平蓋	1	
76	II区	1KH1D	3	陶器	植木鉢	円筒	[8.0]	4.6	5.1	(80)	ロクロ 削り高台	鉄軸3段刷毛線描き	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石・黒色微砂少量・淡灰色	胴部に隆線、高台の半円形切込み3個、内底部外縁に重ね焼き痕			小砂	幕末明治	高台の半円形切込み	80
77	II区	1KH1D	4	陶器	植木鉢	円筒	—	[11.4]	(8.6)	(256)	ロクロ	外面鉄軸	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石微少量、赤褐色			空閑	幕末明治		30	
78	II区	1KH1D	5	瓦質	瓦	軒平	(4.1)	(5.2)	(2.5)	(35)	割型作り	焼成一部銀化	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭・長石微少量、黒色微砂中量、やや粘土質				在地	江戸中期		1
79	II区	1KH1D	6	瓦質	瓦	棧瓦	(19.4)	(11.7)	(3.6)	(515)	型作り	焼成	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	黒色微砂少量				在地	江戸後期		20
80	II区	1KH1D	7	ガラス	許量瓶か	2段円筒	—	5	(7.1)	(51)	合せ型作り	淡青透明	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:				明治		30
81	II区	2KH1D	1	瓦質	鍋	樽型	[30.0]	—	(6.9)	(84)	粘土紐 ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石少量・黒色微砂少量・砂質	内溝			在地	幕末明治		1	
82	II区	2KH1D	2	磁器	碗	丸	[8.6]	[3.4]	5.6	(43)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石に黒色微砂微少量	梅花文を縦に2花と1花を交互に配し、青貝須を下に青黒色の貝文を乗せている。			七面か	1835～1875		30	
83	II区	2KH1D	3	磁器	猪口	面取り	[6.8]	[3.0]	4	(39)	ロクロ 削り高台	型紙描繪 透明軸	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石に黒色微砂微少量	ロクロ成形後面取り			肥前	明治		50
84	II区	2KH1D	4	磁器	段重	染付丸段重	[14.0]	[13.0]	7	(58)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	磁器土の黒色微砂中量、淡灰白色	無高台			七面か	1835～1875		10	
85	II区	2KH1D	5	瓦質	瓦	棧瓦	[18.2]	[12.9]	2.2	(564)	型作り 削り	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石微少量・黒色微砂少量・やや粘土質				在地	江戸後期		30	
86	II区	2KH1D	6	石製	温石	直方体	(6.6)	(6.3)	(2.5)	(106)	削型整形	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	砂岩	現存3面を7mm削り下面は未調整				江戸	未製品か	20	
87	II区	2KH1D	7	鉄製	不明	板状	(21.6)	(1.7)	(0.4)	(41)	削型整形	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:		一方に穿孔があり、他方は幅が広く、厚さも増している。				明治以降			
89	II区	3KH1D	1	瓦質	鍋	浅型	[19.6]	[18.6]	3.5	(139)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	長石・黒色微砂少量・金雲母微少量、粘土層赤褐色	底板に粘土紐を横上げロクロ仕上げ、底部微砂圧痕			在地	幕末明治		5	
90	II区	3KH1D	2	瓦質	健卯	二重構造	—	18.6	(13.5)	(1310)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭量微少量、長石粒・黒色微砂少量	内部構造は粘土紐接合後布を当てナデている。外部構造は粘土紐接合後ロクロ整形、接合は内部の円形部分成形			在地	明治		30	
91	II区	3KH1D	3	磁器	酒盃	薄手酒杯	[6.4]	2.4	2.6	(11)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量・テカリ有	内面に「魚本屋の商標」高台部外面貝須墨文、内定面に貝須手描きで口内に			瀬戸	明治		15	
92	II区	3KH1D	4	磁器	酒盃	薄手酒杯	[6.8]	2.2	2.5	(14)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	内面に「鶴浜 味噌」内定面に貝須手描きで口内に			失潰	明治		40	
93	II区	3KH1D	5	磁器	小杯	端反	[6.9]	2.9	4.1	(29)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光ややや有	外面口縁部と下端に線			瀬戸	明治後半～大正	不良品、汽車土瓶の口か	50	
94	II区	3KH1D	6	磁器	小杯	端反	[6.6]	3.7	4.5	(59)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量・テカリ有	コバルト輪脚線描繪			瀬戸	明治後半～大正		70	
95	II区	3KH1D	7	磁器	小杯	端反	6.2	3.1	4.1	(50)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量・テカリ有	成形後口縁から底部まで薄落しと削落し、背面に縁間山水文と文字、高台内に文字			瀬戸	明治後半～大正		80	
96	II区	3KH1D	8	磁器	小杯	丸形	7.5	3.4	3.4	(68)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量・淡褐色土微少量・テカリ有	文様を横書きし濃絵・唇部底で無軸			肥前	明治前半	底部が厚く重い。	80	
97	II区	3KH1D	9	磁器	小杯	丸形	7.6	3.8	4	(97)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量・淡褐色土微少量・テカリ有	文様を横書きし濃絵・唇部底で無軸			肥前	明治前半	底部が厚く重い。	90	
98	II区	3KH1D	10	磁器	小杯	腰丸端反	7.6	3.6	4.3	(97)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光ややや有	器厚が厚い。			瀬戸	明治前半		80	
99	II区	3KH1D	11	磁器	小杯	丸形	7.4	2.7	3.6	(82)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	底部が厚く重い。			瀬戸	明治後半～大正	不良品、汽車土瓶の口か	90	
100	II区	3KH1D	12	磁器	碗	飯碗	9.4	3.9	4	(97)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	子供用飯碗			失潰	明治後半～大正	子供用飯碗	80	
101	II区	3KH1D	13	磁器	碗	飯碗	9.8	3.2	4.3	(896)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	子供用飯碗			失潰	明治後半～大正	子供用飯碗	80	
102	II区	3KH1D	14	磁器	碗	飯碗	10.1	3.1	4	(91)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 淡褐色土微少量・磁器土	内面は松とミジンコ唐草が1枚の3枚貼り			肥前	明治	子供用飯碗	90	
103	II区	3KH1D	15	磁器	碗	飯碗	11.2	3.8	4.2	(117)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	内面口縁継ぎ文が2枚貼り			明治	大人用飯碗		80	
104	II区	3KH1D	16	磁器	蓋	碗蓋	9.1	1.8	3	(64)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	白色 黒色微砂微少量、光なし	蓋見込面に「口」に吉 銘			肥前	1820～1860		100	
105	II区	3KH1D	17	磁器	急須	ペコカン	6.8	6.6	8.7	(186)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	灰白色に黒色微砂微少量、磁器土、テカリ有	ロクロ成形で40角筒に押し、把手の注口を接合している。茶葉しは1+6、体部下端と上底の底部は無軸			会津本郷	明治～大正		90	
106	II区	3KH1D	18	磁器	鉢	前形蓋付	10.7	8.2	8.1	(327)	ロクロ 削り高台	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	灰白色に黒色微砂微少量、磁器土、テカリ有	口唇部無軸、量付無軸			会津本郷	明治～大正		80	
107	II区	3KH1D	19	ガラス	ビン	商標ビン	—	4.3	(9.0)	(93)	型作り	透明	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	発泡	縦に「御用御油所」「水戸小泉製」			不明	明治		90
108	II区	3KH1D	20	ガラス	ホヤ	ラッパ状	[9.8]	—	(7.4)	(6.1)	型作り	乳白色	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:		胴部から口辺部、「く」の字状の胴部に凸体を持ち反する。			不明	明治		10
109	II区	3KH1D	21	鉄製品	火受け	円型	(8.5)	(10.5)	(0.8)	(159)	型作り	錆化	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:					不明	明治～戦前		30
110	II区	3KH1D	22	鉄製品	不明	板状	(233)	(1.9)	(0.3)	(58.4)	型作り	錆化	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:		断面は一方が平で一方がやや丸くなっている。			不明			
111	II区	1KMS	1-1	瓦質	壺蓋	扱蓋	15.9	14.7	2.5	(218)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒多量・砂質、針状磁物微少量、濃茶褐色土	甲部を下に粘土板に受部に粘土紐を接合し、返り部はヨコナゲ、甲部はヘラ削り			在地	明治		80	
112	II区	1KMS	1-2	瓦質	壺	無頸壺	11.6	13	8.7	(866)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒多量・砂質、針状磁物微少量、濃茶褐色土	底部粘土板に5段削り、体部上半はヨコナゲ、下半は2段ヘラ削り、底部外周ヘラ削り			在地	明治		99	
113	II区	2KMS	2-1	瓦質	壺蓋	扱蓋	16.2	12.8	2.2	(279)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒多量・砂質、針状磁物微少量、濃茶褐色土	甲部を下に粘土板に受部に粘土紐を接合し、返り部はヨコナゲ、甲部はヘラ削り			在地	明治		40	
114	II区	2KMS	2-2	瓦質	壺	無頸壺	11.8	12.7	8	(798)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒多量・砂質、針状磁物微少量、濃茶褐色土	底部粘土板に5段削り、体部上半はヨコナゲ、下半は2段ヘラ削り、底部外周ヘラ削り			在地	明治		99	
115	II区	1KHS	1	瓦質	瓦	右棧瓦	[9.5]	[12.5]	3.7	(281)	型作り	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒少量・黒色微砂少量、やや粘土質	各端部をナゲ仕上げ			在地	明治		20	
116	III区	2KST	1	瓦質	鍋	平形	[36.0]	—	(3.9)	(118)	組作り ロクロ	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	石炭微少量・長石粒多量・黒色微砂少量、砂質、淡赤褐色土	内外面ヨコナゲ、ザラツキあり			在地	幕末明治		10	
117	III区	2KST	2	陶器	灯明皿	下皿	[11.0]	5.1	1.2	(65)	ロクロ 受部接合	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	外面: 内面: 見込:	黒色微砂微少量、やや粘土質、淡灰褐色	外面中位と内面突起上端に重ね焼き痕がある。			瀬戸	1835～1875		40	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴						
118	Ⅲ区	2KST	3	陶器	土鍋	すり耳	[13.7]	—	(6.3)	(64)	ロクロ すり耳後 接合	鉄胎に化粧土刷毛塗 透明釉	外面：鉄胎刷毛塗 内面：透明釉 見込：見込	灰石粒微量・黒色微砂粒 多量・良質土	受部と体部下端は無施釉	益子	明治20年 代		5	
119	Ⅲ区	2KST	4	軟質陶器	香炉	3孔透かし	—	2.7	(5.2)	(40)	ツマミ貼 付け	2次火熱を受焼調不 明	外面：見込 内面：見込 見込：見込	粘土質、軟質陶器	ツマミは頂部に沈着があり、円形の 穿孔がある。体部との境に9個の円形刺突	京焼	江戸	1835～ 1875	土は小砂陶土	5
120	Ⅲ区	2KST	5	陶器	甕	体部下半	[10.0]	—	12.2	(14.1)	(861)	ロクロ 削り高台	鉄軸茶色に灰釉流し	外面：見込 内面：見込 見込：見込	長石粒少量・黒色微砂粒少 量、均一な砂質土	高台外面は「八」の字に開き外端はへ ろ削りし内縁し、接地面は1.5cm、底部 内は2mm削り込んでいる。	七面か	1835～ 1875		20
121	Ⅲ区	2KST	6	陶器	碗	丸碗	[10.0]	4.6	(4.0)	(110)	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	外面：草花文 内面：見込 見込：見込	長石単味・黒色日砂粒微 量、ややガラス質	高台が低く、高台脇に呉須二重圓縁、 内底に呉須一重圓縁	七面か	1835～ 1875	胎土は町田の 磁土	20	
122	Ⅲ区	2KST	7	陶製品	古銭	寛永通宝	2.8	0.7	0.11	4			外面：見込 内面：見込 見込：見込		一寛永通寶 背一十一貫紋「八」 良質・十一貫紋で一文銭	江戸	1668～ 幕末		100	
123	Ⅲ区	1KHD	1	陶器	湯呑茶碗	拳骨手	7	3.6	6.2	(96)	合せ型作 り	透明釉	外面：馬鬃文・九葉文 内面：馬鬃文 見込：馬文	型に外面に馬鬃文と九葉文、内底面 に馬文、墨付無施	灰白色の粘土に黒色微砂粒 多量	底部と体部を2分割の型作り	相馬焼	幕末明治	馬鬃文・九葉 文（相馬窯家 紋）	70
124	Ⅲ区	1KHD	2	陶器	罎鉢		23.3	12.7	14	(767)	ロクロ 削り高台	外面磨輪内面磨輪白 釉鉄軸流し	外面：見込 内面：見込 見込：見込	底面アルミナ、外 面磨輪は白砂、内 面磨輪は白砂、内 面磨輪白釉鉄軸は松 園	高台外面は「八」の字に開き外端はへ ろ削りし内縁し、接地面は1.5cm、底部 内は2mm削り込んでいる。	七面	1635～ 1875	松園焼、日棚 の土	80	
125	Ⅲ区	1KHD	3	陶器	罎鉢		[27.6]	[13.0]	[10.8]	(328)	ロクロ 削り高台		外面：見込 内面：見込 見込：見込	内面磨輪目は薄い 鉄軸、磨輪は15 本、内底面・香底 面は白砂	高台外面は「八」の字に開き外端はへ ろ削りし内縁し、接地面は1.5cm、底部 内は2mm削り込んでいる。	七面	1635～ 1875		10	
126	Ⅲ区	1KHD	4	拓器	万古	急須	[7.5]	5.2	(6.1)	(111)	上下の合 せ型	合彩様・白底に赤差 し流し	外面：見込 内面：見込 見込：見込	底外面に布目	長石日砂粒少量、良質土	型作り接合コナ字後把手と注口 縁、高差し内縁は+7×13+19+28、把 手下部に「万古」押印	四日市万 古	幕末明治		70
127	Ⅲ区	1KHD	5	磁器	紅塔口	平型	7	2	1.7	(31)	型作り外 面磨輪	内面と口縁部透明釉	外面：見込 内面：見込 見込：見込	退部・底部とも無 施釉	長石微砂粒多量・黒色微 砂粒微量	底部が低く小さい。	肥前	1850年～		80
128	Ⅲ区	1KHD	6	磁器	紅塔口	平形	7.8	2.4	2.4	(50)	ロクロ 削り高台	コバルト染付透明釉	外面：草文 内面：見込 見込：見込	墨付無施	白色	高台の削りが深い。	瀬戸	明治		90
129	Ⅲ区	1KHD	7	磁器	小杯	福反り	[6.2]	2.7	4.4	(49)	ロクロ 削り高台	墨絵濃クローム輪 白陶盛	外面：派手鳥 内面：見込 見込：見込	内面と底部内面透 明釉、墨付無施	黒色微砂粒微量・淡褐色 夾雑粉、乳白色		瀬戸	明治後半 ～大正		70
130	Ⅲ区	1KHD	8	磁器	小杯	丸	[7.8]	[3.2]	3.5	(19)	ロクロ削 り磨輪高 台	コバルト磨輪き濃絵 透明釉	外面：抽象文日記 内面：見込 見込：見込	底部削り出し基 底無施	黒色微砂粒微量・乳白色	文字「口紀礼」	肥前	明治大正		70
131	Ⅲ区	1KHD	9	磁器	飯碗	平碗	11.5	4	5.1	(129)	ロクロ削 り高台	コバルト型紙摺拾 透明釉	外面：唐草 内面：唐草 見込：唐草	内外面とも型紙3枚 合せ、内外でずれ ている。墨付無施	黒色微砂粒微量・乳白色	底部内面透明釉	美濃	明治		90
132	Ⅲ区	1KHD	10	ガラス	ホヤ	ラッパ状	[8.6]	—	[4.3]	(25)	型作り	乳白色	外面：見込 内面：見込 見込：見込			後編部に凸帯がある。	不明	明治大正		1
133	Ⅲ区	1KHD	11	ガラス	瓶	円筒	2	3	4.6	25	型作り	透明	外面：見込 内面：見込 見込：見込	気泡あり	口縁ゆがみ、底面の厚さ均一でない、 底部と体部を接合、底部外面に「備 田」の型印あり	不明	明治		100	
134	Ⅲ区	1KHD	12	ガラス	瓶	円筒	1	1.2	2.8	4	型作り	透明	外面：見込 内面：見込 見込：見込	気泡有り	口縁歪み、縦2分割型	不明	明治		100	
135	Ⅲ区	1KHD	13	金製品	指輪	円環	2.1	—	0.6	(6)	型作り	金色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	18K	内側に「18K」の刻印あり	不明	明治大正		100	
136	Ⅲ区	1KHD	14	木製品 イスノキ	算盤玉	円形	1.65	—	5.4	0.2		外面：見込 内面：見込 見込：見込			木質無施 正目					
137	Ⅲ区	1KHD	15	木製品	角盤	脚部	(7.8)	(2.8)	0.7	(8.1)		外面：見込 内面：見込 見込：見込								
138	Ⅲ区	1KKA	1	瓦質	磁缸	円筒	[22.6]	—	[8.4]	(138)	粘土粗 ロクロ	外面黒色 内面火熱 を受けて淡灰褐色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	長石微砂粒多量・黒色微 砂粒中量、砂質	口縁内面に受部があり、2重構造で内部 が燃焼部になる。外部の口は楕円に なる。	在池	幕末明治		1	
139	Ⅲ区	1KKA	2	磁器	飯碗	平形	11.4	3.4	4.3	(145)	ロクロ 削り高台	型紙摺拾 透明釉	外面：波文に丸文 内面：口縁縁来文 見込：見込	内外面とも型紙3枚 合せ、合せは内外 でずれている。墨 付無施	白色でやや光有	平形で削り高台は外底より深い。	瀬戸	明治		99
141	Ⅳ区	1K1D	1	磁器	蕎麦茶碗	円筒	[6.2]	[4.4]	5.8	(25)	ロクロ 削り高台	コバルト染付 透明釉	外面：扇文 内面：見込 見込：見込	低い高台・内面と も無施	灰白色に黒色微砂粒微 量、光有	磨輪した文に口縁鉄紅、下端にコバルト 二重圓縁	瀬戸	明治		30
142	Ⅳ区	1K1D	2	磁器	湯呑茶碗	筒	—	[6.0]	[3.6]	(16)	型作り	プリント染付 透明釉	外面：見込 内面：見込 見込：見込		白色・光なし	ゾム印「那珂町後台 寺門自転車店 TEL(8) 4325」	美濃	戦後	昭和40年以前	5
143	Ⅳ区	1K1D	3	磁器	飯茶碗	平型	[11.0]	[5.0]	6.1	(54)	型作り	プリント染付 透明釉	外面：山水文 内面：波文 見込：見込	口縁：菱、体部： 山水文・福寿縁、 下部：波文、墨付 無施	白色 黒色微砂粒微量、 光なし	底部内面「東場口 平八口」	美濃	戦中		20
144	Ⅳ区	1K1D	4	磁器	皿	平皿	[14.8]	[9.0]	1.9	(36)	締込み	5線模様のプリント 貼付け透明釉	外面：見込 内面：塔 見込：見込	白色 黒色微砂粒微量、 光や光有		美濃	戦後		20	
145	Ⅳ区	1K1D	5	磁器	火鉢	筒形	[22.0]	—	[23.0]	(798)	ロクロ	コバルト染付 透明釉	外面：山水文 内面：見込 見込：見込	白色 黒色微砂粒微量、 光なし	口縁部角折り返し、内面ロクロ目明 瞭	美濃	大正		5	
146	Ⅳ区	1K1D	6	磁器	火鉢	筒形	—	[22.6]	[15.8]	(2118)	ロクロ	コバルト染付 青磁釉	外面：瓢箪宝文雷文 内面：見込 見込：見込	瓢箪の首に磨輪び を縦括している。	白色 黒色微砂粒微量光 なし	内面ロクロ目明瞭	美濃	明治後半 ～大正	内面の灰は理 解が含まれ固 化している。	10
147	Ⅳ区	1K1D	7	ガラス	ビン	円筒	—	7.6	(19.1)	(459)	型作り	濃茶色	外面：見込 内面：見込 見込：見込			解部文字「CALPIS カルピス」下 端「正 633ml」型毎に分割	戦後		90	
148	Ⅳ区	1K1D	8	スチール	缶	円筒	13.2	5.6	—	51	型合せ	転写印刷	外面：見込 内面：見込 見込：見込	型合せ・上下圧接	{ミルク入り COFFEE コーヒー (コー ヒー飲料 カルピス k k	カルピス 食品工業 株式会社	810106	昭和56年	100	
149	Ⅳ区	1K1D	9	スチール	缶	円筒	13.5	5.3	—	46	型合せ	転写印刷	外面：見込 内面：見込 見込：見込	型合せ・上下圧接	{マックスコーヒー MAXCOFFEE コー ヒー飲料 ミルク入り	判読ソフト ドリフト ク (株) T	831224	昭和58年	100	
150	Ⅳ区	1K1D	10	瓦質	瓦	軒瓦	(5.6)	14.5	2.4	(649)	型作り	黒色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	黒色微砂粒少量、白雲母 多量、粘土質	無文の瓦面に丸瓦を接合、接合部に補 助粘土を指ナゲしている。	新治	昭和初期	瓦瓦部欠	100	
151	Ⅳ区	1K1D	11	真鍮	鍵	縦ロック 式	6.9	3.9	1.33	118	型合せ		外面：見込 内面：見込 見込：見込		(ALPHA N01000-40M)	株式会社 アルファ	1955～ 1981	昭和30年～ 昭和50年	100	
152	Ⅳ区	1K1D	12	鉄製	土瓶	溜付注口	—	—	(6.3)	(65)	鋳型		外面：見込 内面：見込 見込：見込			体部と別に鋳型で製造し接合してい る。	不明	大正以降		1
153	Ⅳ区	1K1D	13	鉄製	滑車	円型	9.1	内1.3	2	215	鋳型		外面：見込 内面：見込 見込：見込			周縁に「J」字状の凹面を入れ、中央を 穿孔している。	不明	明治後半 ～戦前		99
154	Ⅳ区	1K1D	14	鉄製	火受け		2.6	2.7	5.6	501	鋳型		外面：見込 内面：見込 見込：見込			上面は平組で両端が幅広になり、下部 は縦状に磨れ、脚面は深い字状になっ ている。ストロブの火受けである。	不明	明治後半 ～戦前	複数本並べて 使用する。	100
155	Ⅳ区	1K1D	15	鉄製	鐘	棒状	40.1	5.2	5.6	4900	鋳型		外面：見込 内面：見込 見込：見込			円柱で突を板状にし坊主円頭で穿孔し ている。	不明	明治後半 ～戦前	汽車の気圧を 測する鐘か	100
156	Ⅱ区	1KHD	8	土製品	煉瓦	直方体	22.8	10.7	6.5	(2350)		明赤褐色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	石英・長石 白色粒子	押印側、逆側各面に丸味を帯びる。 押印側は特型より僅かに上面でへら削 りしている。逆側には縦方向の亀裂が 見られる。		果樹園		95	
157	Ⅱ区	2KHD	8	土製品	煉瓦	直方体	[19.5]	11.6	5.6	[1763]		淡灰色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	石英・長石粒を含む 砂 粒が大量	押印面はコナ字、多面型は型まで夾 雑、横断面の片方には使用時の接合 のための1.1cmの半円形の凹面が作ら れている。重量も普通煉瓦より重い耐 火煉瓦である。		孤		80	
158	Ⅱ区	3KST	9	土製品	煉瓦	直方体	[16.4]	10.4	5.5	[1452]		にぶい褐色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	石英・長石 白色粒子多量	胎土中に隙間がある。		瓢箪2		60	
159	Ⅳ区	6KST	1	土製品	煉瓦	直方体	22.2	11.5	5.9	(2355)		淡灰褐色	外面：見込 内面：見込 見込：見込	石英・長石・白色粒子・ 黒色微砂粒少量	押印面ナデ、逆位面棒状の圧痕と大 きな石の破損痕の上面をナデ、胎土は 磨製で濃い粘土を下部に詰め、次に脚 面に粘土を押し付け、その上に胎土を 押し込んでいる。		KANTOU		95	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴通称	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ・厚			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴						
160	IV区	1KID	16	土製品	煉瓦	直方体	22	10.3	5.4	(2160)		橙色		石英・長石 白色粒子	押印側の各隅は鋭角で反対側は僅かに丸味を帯び一部に粘土の反戻りが見られる。押印側に条線が見られる。横方向に焼成時の割れがある。			無	1	95
161	IV区	1KID	17	土製品	煉瓦	直方体	22.8	11.1	5.9	(2200)		橙色		石英・長石・白色粒子 黒色粒子少量含む粘土は微密	1に同じ。押印側に6.4cm幅の条線が見られる。下面にも逆方向の条線が見られる。焼成時に交互に割れた可能性はある。			無	1	90
162	IV区	1KID	18	土製品	煉瓦	直方体	23.4	10.3	5.9	2375		明赤褐色		石英・長石 白色粒子	外面にモルタルが付着。焼きみ明瞭。押印面は型枠より上面でナデ。逆側には條線の条線が見られる。焼きみは横方向、縦方向に見られる。			美2	100	
163	IV区	1KID	19	土製品	煉瓦	直方体	[19.9]	10.4	5.8	(1940)		赤色		石英・長石 白色粒子	モルタル付着。押印側、逆側丸味を帯びる。押印側ナデ、逆側面荒れも軽微			正田	80	
164	IV区	1KID	20	土製品	煉瓦	直方体	22.2	9.8	5.8	(2300)		黒褐色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量	モルタル付着。焼きみ、焼き痕、幅がやや狭い。押印側鋭角、逆側丸味を帯びる。			長方田	95	
165	IV区	1KID	21	土製品	煉瓦	直方体	22.3	10.6	5.8	2300		赤色		石英・長石 白色粒子	モルタル付着。押印面と横方向に亀裂が入る。押印面、逆側面に軽微な傷で、側面に焼成時の重ね焼きがある。			三葉栄	100	
166	IV区	1KID	22	土製品	煉瓦	直方体	22.7	11.1	6	(2272)		橙色		石英・長石 白色粒子	押印側、逆側共綺麗なナデ仕上げ			井桁	95	
167	IV区	1KID	23	土製品	煉瓦	直方体	22.5	11	6	(2234)		明赤褐色		石英・長石 白色粒子・針状鉱物	モルタル付着。押印面は製造段階では他例から各隅が鋭角だが、上面、丸角には焼成時の粘土塊と塵埃の一部が溶着している。型枠内は未調整。下面はへら削り、表面には自然光沢がある。赤褐色			無	無	95
168	IV区	1KID	24	土製品	煉瓦	直方体	22	10.9	6.2	(2278)		橙色		石英・長石 白色粒子	焼成時の重ね焼きによりS字状に焼きみは焼成時の粘土塊と塵埃の一部が溶着している。型枠内は未調整。下面はへら削り、表面には自然光沢がある。赤褐色			無	無	95
169	IV区	1KID	25	土製品	煉瓦	直方体	[13.8]	10	6.3	(860)		橙色		石英・長石 白色粒子	図上の上下面は縮れ目、左側端、右側端は未調整。右側端はやや荒れている。機械成型			不明	30	
170	IV区	1KID	26	土製品	煉瓦	直方体	(10.8)	[9.8]	7.1	(981)		赤色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量	上下面と右側面の一部である。上面と右側面は未調整、下面はへら削り、厚みのある耐火煉瓦			不明	20	
171	IV区	1KID	27	土製品	煉瓦	直方体	[13.8]	[10.0]	5.6	(817)		橙色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量	押印側ナデ、逆側面荒れも軽微ナデ			須藤清三 煉瓦製造所	梅林文	60
172	I区	一括 一括2	一括 一括2	土製品	煉瓦	直方体	22.9	11	5.8	2200		橙色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒少量含む微密	押印側の器面は綺麗なナデであるが、逆側面は器面が有れている。押印は管状			○	90	
173	I区	一括 一括3	一括 一括3	土製品	煉瓦	直方体	[19.2]	10.7	5.6	(1758)		明赤褐色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒少量含む微密	4に同じ。押印側は長軸方向の削り、逆側面は鋭角の亀裂が見られ荒れている。押印内には炭灰状の物体が僅かに観察される条線から剥離の可能性がある。			○3珠文	70	
174	I区	一括 一括4	一括 一括4	土製品	煉瓦	直方体	[17.1]	11	5.9	[1631]		橙色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量	押印側鋭角、逆側面に丸味、横断面に焼成時の重ね焼きの跡が見られる。			○組織	70	
175	I区	一括 一括5	一括 一括5	土製品	煉瓦	直方体	[18.9]	10.6	5.5	[1616]		赤褐色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒をわずかに含む。微隙があり粘土塊痕跡が認められる。	押印側鋭角、逆側面に丸味。押印側、逆側共粘土塊の痕が見られる。側面も焼成時に僅かに割れている。			三日月	70	
176	I区	一括 一括6	一括 一括6	土製品	煉瓦	直方体	[20.0]	10.6	5.7	[2048]		にぶい赤褐色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量	押印側型枠より上面でコナデで焼成は逆側面と丸味を帯びる。押印側は横亀裂、逆側は粘土塊の亀裂が明瞭。粘土塊は下面の面側に充填した後中央に粘土塊を埋込している。			美2	90	
177	I区	一括 一括7	一括 一括7	土製品	煉瓦	直方体	21.6	10.6	5.5	2188		赤色		石英・長石 白色粒子	モルタル付着。押印側鋭角、逆側丸味、押印側ナデ、逆側面荒れも軽微ナデ			四角斜線	95	
178	I区	一括 一括8	一括 一括8	土製品	煉瓦	直方体	[21.3]	11.2	6.1	[2090]		にぶい橙色		石英・長石・白色粒子 黒色砂粒微量、粘土結核	モルタル付着。押印側鋭角、逆側面に丸味、横断面にて、逆側面荒れ、軽微ナデ			五芒星点	80	
179	I区	一括 一括9	一括 一括9	土製品	煉瓦	直方体	23.4	11.8	5.9	(2600)		淡茶褐色		長石粒を多量に含む砂質土練成している。	押印面はコナデ、多面は型抜きで未調整、いわゆる白煉瓦の耐火煉瓦である。			関東化性 煉瓦	F 3	90
180	調査区	一括 一括5	一括 一括5	土製品	煉瓦	直方体	22.2	10.6	5.9	2255		赤褐色		石英・長石粒を含む砂粒が大量に練成されている。	押印側鋭角、逆側面に丸味、押印側ナデ、逆側面荒れも軽微ナデ。石英・長石・白色粒子・黒色砂粒少量、粘土微密、明赤褐色			灯台	95	
181	調査区	一括 一括6	一括 一括6	土製品	煉瓦	直方体	22.4	10.8	6	2262		赤褐色		石英・長石・白色粒子を含む。	モルタル付着。押印側と逆側丸味を帯びる。逆側の方が強い。押印側鋭角、逆側面に丸味を帯びる。軽微ナデで、上下面に重ね焼きの色班がある。石英・長石・白色粒子・明赤褐色			六葉	100	
182	II区	1ABD	1	陶器	皿	丸皿	[10.6]	[7.0]	1.9	(38)	ロクロ削り高台	志野輪底部まで施釉	外面：内面：見込	志野輪テカリ有	長石粒・砂粒多量・黒色微砂粒多量 壹七	底部外面削り深い。口縁部は外反、内定面に内径ビシム、外底面粗磁台	美濃	大室V期	1585～1610	30
183	II区	1ABD	2	陶器	碗	尾呂茶碗	—	5.6	[3.5]	(82)	ロクロ削り高台	鉄輪	外面：内面：見込	鉄輪底施釉なし(尾呂輪)	長石粒・黒色砂粒少量、粘土質	高台は外面を削り込み高く、内面は浅く中心は厚くなっている。	瀬戸	登呂田期	尾呂田期 1700～1730	20
184	II区	2BD	1	陶器	徳利	鉄輪徳利	—	[8.8]	(12.9)	(128)	ロクロ削り高台	内外面鉄輪 濃茶色	外面：内面：見込	長石粒・黒色砂粒多量、砂質土	ロクロ目が細かく、高台部外端は2面の面取り入り仕上げている。	七面	1834～1874	天保6年～明治7年	10	
185	II区	2BD	2	磁器	碗	青磁丸碗	—	4.6	(3.7)	(110)	ロクロ削り高台	青磁輪 灰被り	外面：内面：見込	黒色微砂粒微量、赤砂粒、テカリ無	底部が厚く、内外面と高台内面青磁輪、量付面施釉あり	肥前	II-2	1630～1650	10	
186	II区	2BD	3	磁器	碗	染付陶反碗	[9.4]	—	[4.4]	(22)	ロクロ削り高台	染付 透明釉	外面：内面：見込	黒色微砂粒少量、テカリ有	濃い呉須で葉巻を描き、濃い呉須で花を盛っている。	瀬戸	3段階10小	1820～1840	5	
187	II区	2BD	4	磁器	皿	輪花皿	[136]	[6.8]	3.7	(85)	ロクロ削り高台	口紅 透明釉	外面：内面：見込	黒色微砂粒微量、乳白色灰石、テカリ無	ロクロ成形後内面輪花文打型彫り口縁輪花口紅、高台は基筒部、高台重ね部施釉あり	美濃	明治大正		40	
188	II区	3BD	1	土師質	カワラケ	皿	[5.4]	[4.0]	0.9	(6.0)	ロクロ削り高台	口紅 透明釉	外面：内面：見込	長石粒微量・黒色細砂粒少量、褐色	内定面指ナデ	在地	江戸後期		30	
189	II区	3BD	2	土師質	灯明台	受台	—	5	(3.4)	(981)	ロクロ削り高台	口紅 透明釉	外面：内面：見込	長石粒・黒色砂粒少量、粘土質	受部を接合しコナデ	在地	幕末明治		60	
190	II区	3BD	3	土師質	火受け	円盤状	11.2	—	1.4	(172)	製作時 乳零孔	口紅 透明釉	外面：内面：見込	長石粒中量・金雲母微量	使用面を型に入れ型抜きで削ったもので押印面が有る。型は5mm径でコナデで削っている。受部は焼けている。	在地	明治		100	
191	II区	3BD	4	瓦質	皿	浅型	14.6	11.7	2.4	(160)	ロクロ削り高台	黒色でテカリ有	外面：内面：見込	長石粒多量・黒色微砂粒多量・砂質土	底径に対して切離径が7.5cmと小さい。	在地	幕末明治	瓦皿か	70	
192	II区	3BD	5	瓦質	蓋	浅型	15.4	9.6	2.9	(258)	ロクロ削り高台	黒色で器面荒れ	外面：内面：見込	長石粒多量・黒色微砂粒多量・砂質土・灰赤褐色	やや軟質	在地	幕末明治		70	
193	II区	3BD	6	瓦質	蓋	土瓶蓋	7.2	—	3.6	(58)	ロクロ削り高台	黒色でテカリ無	外面：内面：見込	長石粒少量・石英粒微量・金雲母微量、赤褐色	受部とツマミを接合、薄手でロクロ仕上げ	在地	幕末明治	源法寺か	50	
194	II区	3BD	7	陶器	灯明皿	上皿	8.8	3.2	1.9	(61)	ロクロ削り高台	透明釉 淡灰色	外面：内面：見込	黒色微砂粒微量、灰白色	内面と口縁外面透明釉	在地	1834～1874	胎土は小砂半磁器土	80	
195	II区	3BD	8	陶器	灰輪皿	平形	—	5.6	(2.4)	(84)	ロクロ削り高台	透明釉 淡灰色	外面：内面：見込	黒色微砂粒微量、灰白色	体部下端から底部無釉	信楽	江戸後期	京橋系	40	
196	II区	3BD	9	陶器	輪光皿	平形	[16.0]	[8.2]	3.8	(95)	ロクロ削り高台	体部内外面上半と内面 透明釉	外面：内面：見込	長石粒少量、3mm大の長石粒混入	へら削りが甘く、高台量付が強い、透明釉に疵がある。	美濃	18世紀後半		20	
197	II区	3BD	10	陶器	鉢	丸形	—	6.7	(2.5)	(120)	ロクロ削り高台	斑のある鉄輪 濃茶褐色	外面：内面：見込	長石粒・黒色砂粒多量、褐色粒少量、砂質土	削り高台で外面中位から内外反する。	町田	1842～1869	町田の磁土に松岡の陶土	20	
198	II区	3BD	11	陶器	行平	—	16	—	(7.6)	(226)	ロクロ削り高台	口縁部受部体部下端を除き薄鉄輪	外面：内面：見込	黒色微砂粒微量、淡褐色	注口は型作りで橋上下端に接合、把手は割離し構造が有る。体部下端の無釉部に保、把手が取れも使用	七面	1834～1874	松岡の陶土	70	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘	書体・技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率
							口径・長さ	底径・幅・径	器高・高さ・深			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴							
199	II区	38MD	12	陶器	土鍋		[15.0]	[8.6]	7.9	(74)	ロクロ	外部：下半を除き土灰釉 内面：見込	型抜き耳を接合、固定用足がある。	長石粒少量、黒色微砂粒少量、赤質で淡褐色	受部は斜上方で施釉、外底部下半はへら削り	七面	1834～1874	松岡の胎土	40		
200	II区	38MD	13	陶器	土鍋		[19.4]	—	(5.7)	(459)	ロクロ	内面濃黒褐色手鉄釉、外面濃褐色鉄釉	外部：見込 内面：見込	内外面へら整形	黒色微砂粒少量、褐色粘土少量	受部は平、半磁器	七面	1834～1874	小砂の磁土、輪業も小砂か	5	
201	II区	38MD	14	陶器	土瓶	算盤玉形	7.6	—	10.2	(156)	ロクロ 糸目	外部：見込 内面：見込	糸目土瓶で6花弁の型抜き耳接合	黒色微砂粒少量、粘土質で淡灰褐色	胴部から胴部は丸味を帯び下半は急激に窄まる。	七面	1834～1874	松岡の胎土	40		
202	II区	38MD	15-1	陶器	蓋	蚊肌土瓶蓋	6	ツマミ2.0	4	(104)	ロクロ	鉄軸鉄肌 濃茶褐色	外部：見込 内面：見込	受部とツマミを接合、鉄軸鉄肌不良	黒色微砂粒少量、赤質、褐色粘土、淡褐色	受部が深く天井が高い。	七面	1834～1874	松岡の胎土	90	
203	II区	38MD	15-2	陶器	土瓶	蚊肌土瓶	7.1	7.6	12.2	(502)	ロクロ 底部上底	鉄軸鉄肌 濃茶褐色	外部：見込 内面：見込	鉄軸鉄肌に漆に黒糊糊に押し、裏に輪の裏輪流し掛	黒色微砂粒少量、赤質、褐色粘土、淡褐色	耳は山形型抜き	七面	1834～1874	松岡の胎土	80	
204	II区	38MD	16	半磁器	蓋	青土瓶	5.2	—	(2.1)	(46)	ロクロ	外部：見込 内面：見込	受部とツマミを接合	黒色微砂粒少量、乳白色	甲部外周に縁がある。	七面	1834～1874	小砂磁土	90		
205	II区	38MD	17	陶器	胡瓶口	円筒	[4.8]	4.8	(2.3)	(18)	ロクロ 底部未切	外部：見込 内面：見込	底部糸径が小さく出度後押ししている。	黒色微砂粒少量、褐色粘土少量、灰白色	底部糸径が小さく出度後押ししている。糸切外周段んでいる。	瀬戸	18世紀前半		40		
206	II区	38MD	18	佐器	播鉢		30	14	11.6	2600	外部：見込 内面：見込	底面粘土粗輪にロクロ	焼き締め、火裏淡茶褐色、火裏茶褐色	外部：見込 内面：見込	体部内面輪目10本後口縁部ヨコナデ	3～5mm大の長石粒少量	口辺は内面1段、外面3段の縁帯が使用、内面の輪目はカールワークで付いたため残っている。	瀬戸	江戸後期	100	
207	II区	38MD	19	磁器	合子		[5.4]	[2.8]	2.7	(9.0)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：草文 内面：見込	墨線描き紅差し	白色テカリ有	薄手酒杯で上縁付	瀬戸	1780～1820	薄手酒杯 江戸絵付	80
209	II区	38MD	21	磁器	小杯	高台	6.3	2.9	5	(39)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：業平文 内面：瓔珞文	墨線描き紅差し	白色テカリ有	薄手酒杯で上縁付	瀬戸	1780～1820	薄手酒杯 江戸絵付	80
210	II区	38MD	22	磁器	碗	丸碗	[9.6]	3.3	4.8	(39)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：草文 内面：見込	高台幅厚く墨付無	白色 黒色微砂粒少量、灰なし、陶質	反りの緩い丸碗で器面に貫入が入っている。	肥前	幕末明治	30	
211	II区	38MD	23	磁器	碗	端反り碗	8.4	3.3	4.4	(50)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	コバルト染付 透明釉	外部：花文 内面：見込	口唇部薄く鉄軸、墨線描き紅差し	濁白色、黒色微砂粒少量、テカリ有	高台が低く薄い。	瀬戸	明治	50	
212	II区	38MD	24	磁器	碗	端反り碗	8.6	3.2	4.2	(92)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：山水文 内面：見込	内面口縁と底部外周に鉄軸が施されている。	黒色微砂粒少量、テカリ無	底部がやや厚く、貫入が入っている。	美濃	1800～1840	90	
213	II区	38MD	25	磁器	碗	筋丸	[8.2]	3.3	5.4	(60)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：草文 内面：二重須荷線 見込：文字文	墨線描き紅差し、鉄軸、高台内透明釉	黒色微砂粒少量、褐色土少量、テカリ無	透明釉失透性	肥前	1780～1810	20	
214	II区	38MD	26	磁器	碗	端反り碗	10.2	3.4	5.9	(141)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：門・梅文 内面：見込	外部口縁と底部外周に鉄軸・重線、花は紅差し	黒色微砂粒少量、磁器土	底部が厚く、高台部が外反り、釉薬が流れている。	町田	1841～1869	町田の磁器土	70
215	II区	38MD	27	磁器	碗	端反り碗	[12.0]	—	(4.7)	(29)	ロクロ	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：ようげ編文 内面：見込	二重須荷線を斜方向に押し、よげ編文を上下方向から交互に施す	黒色微砂粒少量、褐色土少量、テカリ無	体部片で口縁内には二重須荷線に「工字文」を描く。	肥前	17世紀後半	5	
216	II区	38MD	28	磁器	丸碗	端反り碗	[10.8]	[5.4]	5.9	(63)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：松竹梅文 内面：波文 見込：松竹梅文	外部波文・松竹梅文・複字文、墨付無	白色 黒色微砂粒少量、テカリ無	高台やや高く、底部非常に薄く、兵装が緩い、底吹あり	肥前	17世紀後半	20	
217	II区	38MD	29	磁器	中皿	菊花形	[14.6]	8.7	4.8	(147)	ロクロ 型押し	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：梅花文 内面：水袋梅花文 見込：文字文	墨線描き紅差し、鉄軸、高台内透明釉	白色 黒色微砂粒少量、テカリ無	体部下端から高台部に兵装3重須荷線	肥前	18世紀前半	40	
218	II区	38MD	30	土製品	人形	女人	(6.5)	5	(2.6)	(50)	前後型押し 揉合	外部：見込 内面：見込	面が削られている。	外部：近世唐草文 内面：見込	顔付け裏面ヨコナデ	長石粒少量・黒色微砂粒少量、赤質、淡褐色	江戸式で軒丸瓦の重ねの痕が残る。左文様区外に○安の印あり	水戸	天保期	50	
220	II区	38MD	32	陶器	窯道具	焼台	(4.7)	(8.7)	(8.7)	(896)	ロクロ	外部：見込 内面：見込	褐色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	肩が「く」の字	七面	1834～1874	町田の胎土	5
221	II区	38MD	33	金銅製品	釘		(5.7)	0.4	0.4	2.9		外部：見込 内面：見込	緑錆	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	頭が角、茎が四角	在地	江戸後期	100	
222	II区	38MD	34	金属製品	飾り	糸状	(1.7)	0.09	0.09	0.11	平板状巻付け	外部：見込 内面：見込	白銀	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	頭が角、茎が四角	在地	江戸後期	100	
223	II区	38MD	35	金銅製品	飾り	板状	(1.8)	1.3	0.02	(0.3)		外部：見込 内面：見込	金色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	35と同製品で器物の飾りであろう。	江戸			
224	II区	38MD	36	金銅製品	飾り	板状	(1.8)	1.4	0.02	(0.3)		外部：見込 内面：見込	金色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	35と同製品で器物の飾りであろう。	江戸			
225	II区	38MD	37	土製品	おはじき	算盤玉状	1.8	2.1	0.6	2.1	手ひ練	外部：見込 内面：見込	赤褐色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色		江戸		100	
226	II区	48MD	1	瓦質	火消蓋	蓋	[24.0]	[21.8]	3.6	(215)	粘土粒 ロクロ	外部：見込 内面：見込	黒色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	内面と外面体部ヨコナデ、下端へら削り	在地	幕末明治	20	
227	II区	48MD	2	瓦質	内耳土鍋	浅形	39.5	25.8	6.6	(1630)	粘土粒 ロクロ	外部：見込 内面：見込	黒色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	3耳は手ひ練で付け指輪で付け接合し、内面は押しで成形されている。	在地	幕末明治		
228	II区	48MD	3	陶器	皿	鼠志野丸皿	[14.8]	[8.4]	3.1	(896)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	鼠志野輪、2次火熱、薄茶色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	底部に粘土粒台、内面口縁台	美濃	1610～1640	30	
229	II区	48MD	4	陶器	大鉢	刷毛目大皿	[43.0]	14.5	14.2	(2100)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	白土横刷毛目	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	口縁部を外側に丸く折り返し、墨付外側を斜めに削る。底部の削り込みが深く高台が高い。	唐津	1690～1750	30	
230	II区	48MD	5	陶器	陶胎染付	丸碗	[10.0]	—	(4.0)	(15)	ロクロ	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：草文 内面：見込	口縁外周に鉄軸、重線	長石粒・黒色微砂粒少量、赤質	器壁が厚い	町田	1839～1869	2	
231	II区	48MD	6	磁器	碗	丸碗	[10.0]	[4.0]	4.8	(459)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：若杉文 内面：見込	薄手で墨付無、高台内透明釉	白色、テカリ無	器面は失透性	肥前	1810～1820年代	30	
232	II区	48MD	7	磁器	碗	丸碗	[10.3]	3.9	5	(58)	ロクロ 削り高台	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：水袋梅花文 内面：水袋梅花文 見込：文字文	内外面とも水袋梅花文墨付無	白書、テカリ無	内面内面内反り	肥前	1810～1820年代	10	
233	II区	48MD	8	磁器	角皿	長方形皿	[長7.2]	[短5.5]	2.8	(12)	型押し	外部：見込 内面：見込	染付 透明釉	外部：七宝文 内面：見込	体部内面型押し文透明釉、底面松文ヨコナデ、ヤク編織七宝文	白色テカリ無	内面内面内反り	肥前	18世紀	3	
234	II区	48MD	9	瓦質	瓦	丸瓦	(14.1)	(10.7)	(14.4)	(388)	型作り	外部：見込 内面：見込	灰色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	目目は荒い	在地	江戸中期	10	
235	II区	48MD	1	瓦質	蓋	火消蓋	21.2	ツマミ2.8	4.2	(524)	粘土粒 ロクロ	外部：見込 内面：見込	黒色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	甲部を下に粘土粒・輪縁が2段で成形し口縁は整形している。ツマミはボタン状で回転ナデで接合している。	在地	幕末明治	源法寺か	80
236	II区	48MD	2	陶器	蓋	土瓶蓋	6	—	3.5	(84)	ロクロ	外部：見込 内面：見込	輪の裏輪 斑青	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	甲部を下にロクロ成形後受部を接合、天部を変えて緩なへら削りに、型押しは菊花のツマミを接合している。	七面	1834～1874	町田の胎土	100
237	II区	48MD	3	陶器	大甕		(9.1)	(282)			ロクロ	外部：見込 内面：見込	焼き締め 自然釉 茶色～黄褐色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	口縁60mmを超える大型の甕で口縁が「U」の字状で外口縁が鋭く高い。	常滑	17世紀後半	1	
238	II区	48MD	1	土師質	カワラケ	皿形	[5.4]	4.4	1.0	(12)	ロクロ 糸目	外部：見込 内面：見込	淡褐色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	内面内面内反り	在地	幕末明治	40	
239	II区	48MD	2	土師質	カワラケ	皿形	[8.8]	[6.0]	1.9	(14)	ロクロ 糸目	外部：見込 内面：見込	淡褐色	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	内面内面内反り	在地	幕末明治	20	
240	II区	48MD	3	瓦質	カワラケ	皿形	[10.4]	[6.4]	2.0	(38)	ロクロ 糸目	外部：見込 内面：見込	黒色、口縁部油煙	外部：見込 内面：見込	指紋あり	黒色微砂粒少量、粘土質、赤褐色	内面内面内反り	在地	幕末明治	30	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率			
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴									
241	II区	4C3M0	4	瓦質	鉢	小型浅形	[23.0]	[18.0]	3.9	(181)	粘土紐 ロクロ	黒色	外面: 内面: 見込:	底部から体部一重 紐、底部は軟泥質	長石粒少量・黒色微砂少量、 均一な砂質土、淡褐色	口縁が玉縁状で内面に稜がある。体部 下端へテマリ、やや高温焼成で固く、 前面は層状	在地	幕末明治		20			
242	II区	4C3M0	5	瓦質	内耳土鍋	浅形	[36.6]	[26.8]	6.0	(831)	粘土紐 ロクロ	外面黒色・内面淡褐色・ 外底面淡赤褐色	外面: 内面: 見込:	内耳1段残・胴縁押 上と結合。内面が 凹み、外面は凸出 している。	長石粒少量・黒色微砂少量、 均一な砂質土	底部粘土紐二重、体部3段の紐、体部 下端へテマリ、口縁部平坦で内口唇部 凸出	在地	幕末明治		30			
243	II区	4C3M0	6	瓦質	カマド	筒形	[38.0]		(9.3)	(135)	粘土紐 ロクロ	外面上端は灰黒色、 下半灰色	外面: 内面: 見込:	外面へテマリガキ	長石粒少量・黒色微砂少量、 砂質土、淡灰褐色	内面上端から7cm以下に手摺の受けを 貼付けている。	在地	幕末明治		5			
244	II区	4C3M0	7	瓦質	壺	無頸壺	[21.0]		(8.2)	(126)	粘土紐 ロクロ	内外面灰色	外面: 内面: 見込:	口縁部と外面へテ マリガキ、内面ヨコ ナデ	長石粒・黒色微砂少量、 粘土質、灰褐色	無形差で口縁が厚し口唇部が平坦	在地	幕末明治		5			
245	II区	4C3M0	8	陶器	打明皿	上皿	[11.1]	6.2	2.1	(108)	ロクロ 削り高台	外底部以外鉄錆、 茶褐色	外面: 内面: 見込:	変部貼付、縁なし 口込有り	長石粒・黒色微砂少量、 粘土質、淡褐色	変部は口縁より低く、僅かに内縁し跡 認められる。外面には黒染めが ある。	瀬戸	18世紀 後半		60			
246	II区	4C3M0	9	陶器	小杯	丸形		3.2	(2.2)	(17)	ロクロ 削り高台	内面と外面中位まで 透明釉	外面: 内面: 見込:	高台中央が厚く、 高台幅も広い。	長石粒少量、黒色微砂目 立つ、乳白色の良質土	厚手の底部から体部は薄い、底部に 「切上宅」の墨書	信楽	19世紀 前半		20			
247	II区	4C3M0	10	陶器	小杯	内湾	6.0	3.6	3.7	70	ロクロ 削り高台	体部下端と底部を除 き透明釉	外面: 内面: 見込:	高台がやや高く内 面の削り込みが浅 い。	長石粒少量・黒色微砂少 量、白色	丸碗で器壁がやや厚く重い。	美濃	幕末明治		99			
248	II区	4C3M0	11	陶器	碗	丸碗	[11.4]		(4.8)	(2.6)	ロクロ	鉄軸	外面: 内面: 見込:	へテマリロクロ目 が明瞭	長石粒少量・黒色微砂少 量、灰色		美濃	18世紀第2 四半期	尾呂茶碗	10			
249	II区	4C3M0	12	陶器	碗	煎じ碗	[9.4]	4.0	5.2	(94)	ロクロ 削り高台	内面と外面高台輪ま で薄く鉄軸、淡茶褐 色	外面: 内面: 見込:	低い底部から内湾 し口位に稜線があり 外反する。	黒色微砂少量、粘土質、 白色		瀬戸	1750～ 1770	煎じ碗	60			
250	II区	4C3M0	13	陶器	碗	丸碗	[9.6]	3.4	5.5	(85)	ロクロ 削り高台	透明釉 色絵上絵付	外面: 内面: 見込:	良質・鉄軸・赤軸 色絵	黒色微砂少量、淡褐色	高台内面斜、外端へテマリ、内湾気 味に開く。	信楽	19世紀 中葉	京橋系	80			
251	II区	4C3M0	14	陶器	鬺壺	樽形			3.5	(29)	型作り	鉄軸型紙貼付 透明釉	外面: 内面: 見込:	花文	黒色微砂少量、淡褐色		美濃	18世紀 中葉		5			
252	II区	4C3M0	15	陶器	香炉	筒形	[15.0]		(8.3)	(176)	ロクロ	鉄軸は内面と底部外 周まで無釉	外面: 内面: 見込:		長石粒少量、黒色微砂中 量、灰色	底部へテマリして高台貼付、体部下 端に稜があり、内縁して開き、口縁が 外反する。	美濃	18世紀第1 四半期	尾呂香炉	5			
253	II区	4C3M0	16	陶器	土鍋	朝鮮	17.0	7.4	9.8	(359)	ロクロ	体部下半と底部を除 き鉄軸	外面: 内面: 見込:		黒色微砂少量、粘土質、 淡褐色	底部上底面へテマリ内湾状の脚貼付 が縁付書、耳は削り高台上に貼付、 鉄軸は赤味を帯びた茶色	七面	1834～ 1874		70			
254	II区	4C3M0	17	陶器	播鉢	圓筒鉢	18.4	8.6	5.4	(480)	ロクロ 削り高台	底部を含めて全面鉄 錆軸、テマリ有り	外面: 内面: 見込:	底部から外反し、 口縁部は内湾して いる。	長石粒少量、黒色微 砂少量、粘土質、淡 褐色	唇目は6本を重畳させ体部内面に7回、 内底面は6本を弧状に2回し、最後に6本 を同心円に施している。	瀬戸	17世紀 後半		80			
255	II区	4C3M0	18	陶器	播鉢		[36.0]		(14.0)	(347)	粘土紐 ロクロ	内外面鉄錆軸 口唇に無釉軸有	外面: 内面: 見込:	口辺が内湾し縁部 状になる。	長石粒少量、黒色微 砂少量、粘土質、淡 褐色	唇目は13本で体部変換部より下から施 している、使用痕により磨滅してい る。	瀬戸	18世紀末		10			
256	II区	4C3M0	19	磁器	碗	丸碗	10.0	4.2	10.8	180	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	外面: 内面: 見込:	外面:二重網文 内面: 見込:	白色、黒色微砂少量	高台は高めで削り込みは高台輪まで、 良質網目は底面に乱れ有	肥前	18世紀 前半	4D3M0- 11接合				
257	II区	4C3M0	20	磁器	皿	中皿	[13.4]	[7.8]	3.3	(83)	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	外面: 内面: 見込:	外面:良質網文 内面:雪輪花文 見込:花文	内面口縁一重網文 と底面二重網文内 に交差、墨付無軸、 高台内湾透明釉	黒色微砂少量、白色、 テマリ有り	厚目の底面、高台も逆台形で削り込み 底部内	瀬戸	1840～ 1860		40		
258	II区	4C3M0	21	磁器	皿	中皿	[15.0]	9.0	2.7	(92)	ロクロ 削り高台	染付 透明釉	外面: 内面: 見込:	外面:雲文・花文 内面: 見込:雲々	瓶蓋き機掛き濃 赤、墨付透明釉	卵殻色、陶土	底部に焼台ハリ痕、内底面に口幅	肥前	18世紀 前半		40		
259	II区	4C3M0	22	磁器	鉢	輪花鉢	[26.0]		(6.5)	(84)	ロクロ 削り高台	染付 透明釉 器面乳白色	外面: 内面: 見込:	外面:枝松文 内面:雲文花文 見込:雲文花文	花弁内に各文様を 描いている。	白色で黒色微砂粒を 含む、ややテマリ有り	体部下端がやや大形で品質が高い	鍋島	17世紀 後半		3		
260	II区	4C3M0	23	磁器	碗	筒丸	[10.0]	5.2	6.4	(108)	ロクロ 削り高台	外面青釉軸 内面染付透明釉	外面: 内面: 見込:	外面:青釉軸 内面:交差網文 見込:縁周山文	高台、高台内湾透 明釉	白色で黒色微砂少量	内湾して開き、口辺が僅かに外反す る。内面は外湾し良質網文を描き、 中央に二重網文に十字した輪を描く。	肥前	1770～ 1790年代		30		
261	II区	4C3M0	24	磁器	徳利	蕉形	[1.7]		(10.0)	(67)	ロクロ	染付 透明釉 器面乳白色	外面: 内面: 見込:	外面:枝松文 内面: 見込:	白色で黒色微砂少量	口辺と体部下半を欠く。	肥前	18世紀		20			
262	II区	4C3M0	25	鉄製品	鎌		15.4	4.4	0.6	(149)			外面: 内面: 見込:			身幅が広く基部と刃部の角度は110度、 柄との接合は折返し釘止め				90			
263	II区	4C3M0	26	陶製品	キセル	雁首	4.7	0.9	1.1	1			外面: 内面: 見込:			蓋が厚み火受けが小さい。				100			
264	II区	4C3M0	27	陶製品	キセル	吸口	6.7	0.8	0.8	2.3			外面: 内面: 見込:			蓋は細く端部は磨み潰れていく。				100			
265	II区	4C3M0	28	陶製品	キセル	吸口	4.7	1.4		(7)			外面: 内面: 見込:			吸口と羅字の磨が合う。				100			
266	II区	4C3M0	29	陶製品	飯笥	寛永通宝	2.5	2.5	孔径 0.6	2.1			外面: 内面: 見込:			「ハ」目立の寛永通宝で裏面上端に 「文」とある。				1688以降	100		
267	II区	4D3M0	1	土師質	カワラケ	皿形	[5.2]	[4.5]	1.0	(6)	ロクロ	淡褐色	外面: 内面: 見込:		長石粒・黒色微砂少量、 やや粘土質、灰褐色	底部糸切で立上りが鋭角				20			
268	II区	4D3M0	2	土師質	カワラケ	皿形	[8.8]	[5.0]	1.7	(12)	ロクロ	赤褐色	外面: 内面: 見込:		石英粒・長石粒少量、金 剛砂少量、粘土質、淡 褐色	底部糸切で底部から体部の器壁が均一 で体部が内湾する。				20			
269	II区	4D3M0	3	土師質	カワラケ	杯形	[9.6]	6.2	2.1	(31)	ロクロ	外面淡褐色 内面黒色	外面: 内面: 見込:		石英粒・長石粒微砂少量、 金剛砂少量、粘土質、 淡赤褐色	底部糸切で上底で体部は丸く内湾して 開く、内面は油煙で黒く打明皿、底 部には底成後「井」の針書がある。				幕末明治	30		
270	II区	4D3M0	4	瓦質	乗筒	丸形	4.3	3.4	2.0	(19)	ロクロ	灰色	外面: 内面: 見込:		石英粒・長石粒微砂少量、 粘土質、淡赤褐色	底部糸切で丸形、内部中央に切込式 の芯立がある。				18世紀 後半	80		
271	II区	4D3M0	5	瓦質	香炉		[10.8]	[7.0]	5.6	(75)	細作り ロクロ	灰色	外面: 内面: 見込:		石英粒・長石粒微砂少量、 消雲母少量、粘土質、 白灰色	底部切離し不明、体部と上半と内面は ロクロ目、脚は三脚で手摺りに貼 り付けている。				18世紀 後半	粘土からと 同一産地	20	
272	II区	4D3M0	6	瓦質	取鍋	砲弾形	[5.4]		4.2	(26)	ロクロ 丸底	灰色	外面: 内面: 見込:		石英粒・長石粒微砂少量、 消雲母少量、粘土質、 淡褐色	内面は底部を除き淡褐色の溶着層、外 面には白色の溶着層、内底面には円 形、鉛玉の取鍋の可能性がある。				幕末明治	4・5と同一胎 土	40	
273	II区	4D3M0	7	瓦質	土鍋	深形	[40.0]	[28.0]	8.4	(278)	粘土紐 ロクロ	体部外面と内面黒色、 底部濃褐色	外面: 内面: 見込:		石英粒少量、長石粒微砂 少量、濃灰色、やや砂 質	底部二重、体部3段の輪縁のみヨコ ナデ、口縁部内外に肥厚、底部は同心円 上にへテマリ				幕末明治		10	
274	II区	4D3M0	8	陶器	碗	丸形	[12.0]	4.2	6.7	(106)	ロクロ 削り高台	鉄軸軸流し 買入	外面: 内面: 見込:		高台・高台内湾無 釉	高台が低く、削り込みは高台輪まで、 器壁は薄い、口唇部口縁				瀬戸	19世紀 前半		40
275	II区	4D3M0	9	陶器	壺	耳付	[14.6]		(7.3)	(58)	細作り ロクロ	黒褐色	外面: 内面: 見込:		石英粒少量、長石粒微砂 少量、濃灰色、やや砂 質	口縁は押圧し玉縁上にし、厚手の粘 土紐を貼付し、擬似耳を貼り付けて居 る。				鎌倉	18世紀 後半		1
276	II区	4D3M0	10	陶器	人形	太鼓藏	(4)	4	3.4	(26)	前後の型 作り	透明釉	外面: 内面: 見込:		黒色微砂少量、粘土質、 淡褐色	頭部を欠き、内面には指の圧痕があり、 背平上部に1孔あり				幕末明治		40	
277	II区	4D3M0	11									外面: 内面: 見込:								欠番	100		
278	II区	4D3M0	12	磁器	碗	丸形	[10.0]	[4.2]	5.5	(43)	ロクロ削 り高台	染付 透明釉	外面: 内面: 見込:	外面:雨降り雷文に雁 首、底部外周に良 質網文、内底面文 様不明	黒色微砂少量、テカリ やや有、白色	高台が低く、削り込みは高台輪まで、 器壁は薄い、口唇部口縁	肥前	18世紀 後半		40			
279	II区	4D3M0	13	磁器	皿	中皿	[21.0]	12.6	3.2	(310)	ロクロ削 り高台	染付 透明釉 白色	外面: 内面: 見込:	外面:唐草文 内面:交差網文 見込:枝梅・藤葉文	墨付無軸でアルミ ナガシ、内底面に3 角カ所と中心に1 カ所ピン痕	淡灰白色に黒色微砂少量	底面に二重線角に十字した輪	肥前	18世紀		10		
280	II区	4D3M0	14	瓦質	瓦	鬼瓦	[9.3]	(8.7)	4.3	(287)	手摺練り	黒色	外面: 内面: 見込:		粘土塊を手摺る成形 し形しへテマリして いる。	長石粒・砂粒を含む粘土 質、灰色	左目と眉が表現されている、目玉は抉 り込んである。				江戸中期		1
281	II区	4D3M0	15	瓦質	瓦	軒平瓦	(10)	(5.7)	2.9	(100)	型作り	二次火焼 灰色	外面: 内面: 見込:		長石粒少量、褐色粘土を 多量に含む粘土質、灰 白色	軒平瓦の左端の一部である、左外区 は無状、唐草は輪郭線に表現				在地	江戸中期	江戸式	1
282	II区	4D3M0	16	瓦質	瓦	軒平瓦	(6.8)	(4.2)	(2.8)	(60)	型作り	二次火焼 灰色	外面: 内面: 見込:		長石粒少量、褐色粘土を 多量に含む粘土質、絹 織目、灰白色	中心飾りで対向花弁で輪郭線に表現				在地	江戸中期	江戸式	1

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率	
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ			絵付・釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴							
283	II区	406ND	17	瓦質	瓦	丸瓦	(15.3)	(11.4)	7.0	(393)	型作り	灰黒色	外面：縦磨き 内面：縄目 見込：なし	有段式の丸瓦で「ハ」の字	長石粒少量、黒色砂粒中量、灰白色	毎目は有段部主であるが、粘土は付足している、内面は体部を含めてヘラ削りしている。	在地	江戸中期		10	
284	II区	406ND	18	瓦質	瓦	丸瓦	(21.2)	(11.4)	6.5	(716)	型作り	灰黒色	外面：縦磨き 内面：縄目 見込：なし	広端が斜方向にヘラ削り	長石粒中量、黒色砂粒多量、やや砂質、灰色	内面は縄目と横方向の線代がある。	在地	江戸中期		30	
285	II区	406ND	19	鉄製品	金具	楕円	(6.8)	2.0	1.0	9			外面：なし 内面：なし 見込：なし			楕円形の金具に遊動式の紐が付いている。				100	
286	II区	406ND	20	鉄製品	鉄杖	円形	2.33	2.33	0.14	2.2			外面：なし 内面：なし 見込：なし			寛永通宝鉄杖	1739年以降			100	
287	II区	SBMD	1	陶器	猪口			3.2	(2.4)	(14)	型作り	青磁釉、高台下半と内面無釉	外面：なし 内面：なし 見込：なし		半磁器土、黒色砂粒微量	内型に粘土を入れ底部の粘土を付足して、親指先で押して接合している。	相馬か	19世紀前半		5	
288	II区	SBMD	2	陶器	土瓶	算盤玉形	[6.0]		(6.6)	(53)		ロクロ 鉄釉 茶色	外面：糸目 内面：なし 見込：なし		長石粒少量、淡褐色土	糸目は体部中位までで内面は無釉軸、	七面	1834～1874	糸目土瓶	20	
289	II区	SBMD	3	陶器	土瓶	算盤玉形		(8.0)	(9.7)	(136)		ロクロ 鉄釉 黒色	外面：なし 内面：なし 見込：なし		砂粒多量、砂質、淡赤褐色	内面には鉄錆軸	松岡	1803～1869	鉄錆軸土瓶	20	
290	II区	SBMD	4	陶器	土瓶		8.6		(8.3)	(99)		ロクロ 化粧土 呉須釉	外面：山水文 内面：なし 見込：なし	口辺内部に支があり落し蓋	黒色微砂粒含む、良質土	磨き上げて化粧土を掛け、呉須で山水文と下半に「五氣体道人」と書く。	益子	嘉永4年～明治20年代	蓮八土瓶	10	
291	II区	SBMD	5	陶器	椀鉢		[16.0]		(6.0)	(107)	ロクロ	透明釉 黄白色	外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡褐色	口縁は外面に縁帯があり、下端が凹線がめぐる。	七面	1834～1874	松岡胎土	10	
292	II区	SBMD	6	陶器	徳利		[8.8]	(6.5)	(56)		ロクロ 平底削り	化粧土、透明釉 白色透明	外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色微砂粒多量	底部削り出し平底「口隠」の番号入り彫り	小砂	1851～1869	小砂陶土	2	
293	II区	SBMD	7	磁器	薄手酒杯			2.2	1.7	(6)	ロクロ削り高台	染付 透明釉	外面：なし 内面：なし 見込：なし	花籠文	胎付無釉	白色、黒色微砂粒微量	高台裏付は有段、高台外に雷文、底部内面に「口隠」略字	瀬戸	幕末明治		10
294	II区	SBMD	8	磁器	皿	小皿	[10.8]	5.7	2.4	(56)	ロクロ削り高台	染付透明釉	外面：水草亀文 内面：水車亀文 見込：なし		胎付無釉	白色、黒色微砂粒微量、口縁に紅線	口縁に鉄輪口紅、高台脇に二重、内底面外周に雲草虫魚縁、底部に二重内周に本朝の呉須文字	肥前	18世紀後半		70
295	II区	SBMD	9	磁器	人形	人形	(2.5)	(2.7)	(0.9)	(5)	型作り 外型	透明釉	外面：なし 内面：なし 見込：なし		白色、混ざり無、テカリ無し	人面を表現、前後の型合わせ	肥前か	幕末明治		5	
296	II区	SBMD	10	ガラス	玉	穿孔	1.6	1.2	1.2	5.9	型作り	白色	外面：なし 内面：なし 見込：なし		濃緑色	器地は濃緑色で白色に変色している、暫の本玉と思われる。	江戸			100	
297	II区	SBMD	11	金銅製品	飾金具	合せ形	6.5	1.0	0.4	12	型作り	鉄錆	外面：なし 内面：なし 見込：なし		緑青が吹いている。	半扁文・クワンク文を凸線と表現している、合せの裏金は一孔があり主体物に結合させていると思われる。				100	
298	II区	SBMD	12	金銅製品	丁番	宝珠形	3.2	3.2	0.4	5.2	型作り	鉄錆	外面：なし 内面：なし 見込：なし			宝珠と台の表現で宝珠部に一孔、台部に二孔が穿孔され、同形合せの丁番である。				100	
299	II区	TABMD	1	土師質	カワラケ	皿形	[5.0]	4.0	1.2	(9)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、褐色砂粒微量、淡褐色	外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		20	
300	II区	TABMD	2	土師質	カワラケ	皿形	5.0	4.7	0.9	(13)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		99	
301	II区	TABMD	3	土師質	カワラケ	皿形	5.1	3.9	0.8	(12)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		50	
302	II区	TABMD	4	土師質	カワラケ	皿形	5.3	4.5	0.8	20	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	平坦な底部から外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		99	
303	II区	TABMD	5	土師質	カワラケ	皿形	5.0	4.0	0.9	17	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		98	
304	II区	TABMD	6	土師質	カワラケ	皿形	4.8	3.9	0.9	14	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、白色針状物質微量、淡褐色	外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		100	
305	II区	TABMD	7	土師質	カワラケ	皿形	5.2	4.0	0.8	15	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		100	
306	II区	TABMD	8	土師質	カワラケ	皿形	4.9	3.7	0.9	14	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		95	
307	II区	TABMD	9	土師質	カワラケ	皿形	5.1	4.2	0.8	(18)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	外縁して開き底部が平坦で、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		95	
308	II区	TABMD	10	土師質	カワラケ	皿形	5.2	4.5	0.8	19	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	外縁して開き底部が平坦で、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		100	
309	II区	TABMD	11	土師質	カワラケ	皿形	5.0	3.9	0.9	148	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	外縁して開き、体部中に腰がある、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		100	
310	II区	TABMD	12	土師質	カワラケ	皿形	5.0	4.0	0.9	17	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	平坦な底部から外縁して開き、内面中央が窪む。	在地	幕末明治		100	
311	II区	TABMD	13	土師質	カワラケ	皿形	[7.4]	5.6	1.0	(20)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	平坦な底部から外縁して開き、内面は平坦である。	在地	幕末明治		70	
312	II区	TABMD	14	土師質	カワラケ	皿形	6.5	5.3	1.2	(25)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、淡褐色	平坦な底部から外縁して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		70	
313	II区	TABMD	15	土師質	カワラケ	皿形	7.4	5.0	1.2	(19)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、白色針状物質微量、淡褐色	内湾して開き、内面は平坦である。	在地	幕末明治		40	
314	II区	TABMD	16	土師質	カワラケ	皿形	7.2	5.2	1.4	(20)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		褐色砂粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		50	
315	II区	TABMD	17	土師質	カワラケ	皿形	7.0	5.3	1.1	(32)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、赤褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		90	
316	II区	TABMD	18	土師質	カワラケ	皿形	7.1	5.0	1.2	(31)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		80	
317	II区	TABMD	19	土師質	カワラケ	皿形	7.1	5.1	1.2	34	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		褐色粒・黒色砂粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		98	
318	II区	TABMD	20	土師質	カワラケ	皿形	7.1	5.3	1.1	36	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡赤褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		90	
319	II区	TABMD	21	土師質	カワラケ	皿形	7.2	5.4	1.3	(28)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡赤褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		80	
320	II区	TABMD	22	土師質	カワラケ	皿形	7.0	4.8	1.1	(32)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡赤褐色	内湾して開き、内面は中央が窪む。	在地	幕末明治		90	
321	II区	TABMD	23	土師質	カワラケ	皿形	7.2	5.4	1.1	(28)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、黒色砂粒微量、淡赤褐色	内湾して開き、内面は中央が窪むが平坦である。	在地	幕末明治		80	
322	II区	TABMD	24	土師質	カワラケ	皿形	7.0	5.1	1.1	(25)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		長石粒微量、褐色粒微量、淡褐色	内湾して開き、内面は平坦である。	在地	幕末明治		80	
323	II区	TABMD	25	土師質	カワラケ	皿形	7.1	5.1	1.2	(30)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、褐色粒微量、金葉砂粒微量、淡褐色	外縁して開き、内面中央の窪みは僅か	在地	幕末明治		80	
324	II区	TABMD	26	土師質	カワラケ	皿形	8.1	5.8	1.2	(43)	ロクロ糸切		外面：なし 内面：なし 見込：なし		石英粒微量、長石粒微量、褐色	底部糸切系小さい底部から乳みを帯びて窪く、内面は周縁が窪み中央は平坦	在地	幕末明治		80	
325	II区	TABMD	27	半磁器	蓋	急須蓋	6.4		1.9	(22)	ロクロ	外面釉の黄緑、青茶色	外面：なし 内面：なし 見込：なし	鉄輪に裏付	長石粒多量、砂質	受部の削りが未調整、一孔あり、ツマミが欠	七面	1834～1874	町田の磁土に小砂の半磁器	60	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘・墨書・技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率		
							口径・長さ	底径・幅・径	器高・高さ・深			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴								
326	II区	TABMD	28	陶器	蓋	土瓶蓋	[6.4]		(2.2)	(22)	ロクロ	鴨の糞輪 青白色	外面: 内面: 見込:		黒色砂粒多量、砂質、褐色粘土、淡褐色		松岡	1803~1869	松岡日曜か	10		
327	II区	TABMD	29	陶器	土瓶	糸目土瓶			(6.0)	(51)	ロクロ	内外面鉄輪 濃茶色	外面: 内面: 見込:		黒色砂粒多量、砂質、褐色粘土、赤褐色	土瓶の鉄輪口で内面に三孔	小砂	嘉永4年~明治19年		3		
328	II区	TABMD	30	陶器	土鍋		[16.0]		6.7	(33)	ロクロ	内外面鉄輪 濃茶色	外面: 内面: 見込:		黒色砂粒多量、白色	土鍋の体部から口辺部の一部で蓋受け部がやや斜めで、口縁帯が内径している。	七面	1834~1874	町田の磁土に小砂の半皿土	5		
329	II区	TABMD	31	磁器	湯飲茶碗	筒丸	6.7	3.8	5.7	(102)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 白色	外面: 内面: 見込:	草文福寿文字	藍付無輪、高台内面透明釉	白色、テカリ有り	高台の削り込みが外底面より深い、肩に輪郭線に中に福寿とある。	瀬戸	19世紀前半		90	
330	II区	TABMD	32	磁器	碗	丸碗	[8.0]		5.7	3.1	(72)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 乳白色	外面: 内面: 見込:	矢羽模文 裏面: 草文 見込: 末の略字か	外面と高台側、内底面に呉須線、藍付無輪、砂質	黒色微砂粒多量・漂白白色、テカリ無	高台径が小さく低く底部から体部は厚目、高台の削り込みは浅い	町田か	1840~1869		20
331	II区	TABMD	33	磁器	端反碗		9.2	5.2	3.6	(61)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 乳白色	外面: 内面: 見込:	桜間山水文 内面: 太い呉須線 内底面外周に細い呉須線	口縁部内外面と高台縁に太い呉須線、内底面外周に細い呉須線	白色に褐色粒中量、黒色微砂粒多量、テカリ有り	高台がやや高く、地が青味がかり、呉須の色も濃い。	瀬戸	19世紀後半		50	
332	II区	TABMD	34	磁器	丸碗		[10.0]		[4.3]	(25)	ロクロ	染付 透明釉 白色	外面: 内面: 見込:	芭蕉文 内面: 番文 見込:		白色に褐色粒・黒色微砂粒テカリ無し	ペン書きで外面に芭蕉文、裏面口縁に番文が描かれている。	肥前	19世紀前半		10	
333	II区	TABMD	35	磁器	大型端反碗	大形	[12.0]	[4.6]	6.8	(108)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 白色	外面: 内面: 見込:	菊花文 内面: 蓮文 見込: □口文	藍付無輪	白色に褐色粒中量、黒色微砂粒多量、テカリ有り	高台の削り込みが深い、外面口縁、体部下端、高台縁の呉須線、内面の蓮文は薄いが菊花文の呉須は濃く塗り上げている。	瀬戸	19世紀後半		40	
334	II区	TABMD	36	石製品	硯	長方形	15.1	6.3	1.8	(297)			外面: 内面: 見込:			結核岩で焼く、底面も良く磨きこまれている。使用面は磨く・磨くとも使用により磨み、墨痕が付着している。	江戸			80		
335	II区	TABMD	37	瓦質	瓦	軒枝瓦	(8.9)	(19.2)	(2.9)	(212)			外面: 内面: 見込:			長石粒多量、黒色砂粒多量、淡灰褐色	右軒枝瓦の九五部で右三巴文で外周に8個の珠文を配す。	在地	江戸中期		2	
336	II区	TABMD	38	瓦質	瓦	丸瓦	(32)	(14.3)	6.8	(1400)			外面: 内面: 見込:			長石粒多量、石英粒多量、褐色粒多量、淡褐色	丸瓦と有段部一体の輪郭で輪郭へ削りに合せてへら削りしている。	2次火熱を受けている外面は摩滅しているが縦ナデ、内面には貫子状の圧痕がある。	在地	江戸中期		70
337	II区	TABMD	39	瓦質	瓦	平瓦	30.2	(12.9)	6.3	(1000)			外面: 内面: 見込:			長石粒多量、黒色砂粒多量、淡灰褐色	2次火熱を受けている外面は摩滅しているが縦ナデ、内面はヨコナデ	在地	江戸中期	37と胎土同じ	40	
338	II区	TABMD	40	瓦質	瓦	丸瓦	29.9	13.5	7.1	(1305)			外面: 内面: 見込:			長石粒多量、砂質	径がやや小さく、有段部無い、広帯部で押入から斜め削り	外面は縦ナデ、内面には貫子状の圧痕がある。側面は二面切で内面に合わせて有段部も削っている。	在地	江戸後半	42と胎土同じ	60
339	II区	TABMD	41	瓦質	瓦	平瓦	(26.6)	(12.0)	5.1	(887)			外面: 内面: 見込:			長石粒多量、砂質	内外面とも縦ナデ	在地	江戸後半	41と胎土同じ	60	
340	II区	TABMD	42	金属製品	玉徳	丸形	(2.9)	(3.1)	1.2	(108)			外面: 内面: 見込:					円形の台座に三脚の一脚で三角形の受部がある。	幕末明治		20	
341	II区	TABMD	1	土師質	カワラケ	皿形	4.9	3.7	0.9	(10)	ロクロ 糸切 指ナデ	外面: 内面: 見込:			長石粒・黒色微砂粒多量、粘土質、淡褐色	浅い皿形で底部糸切指ナデ、内底面が窪む。	在地	江戸後期		50		
342	II区	TABMD	2	瓦質	壺	無頸壺	10.8	12.6	7.2	(576)	粘土紐 ロクロ	黒色	外面: 内面: 見込:		長石・石英粒多量、砂質、茶褐色	底部二重、体部三段の紐作り成形しロクロ仕上げ、体部下端は手締へら削り、外面体部半位は縦状にしている。	在地	幕末明治		80		
343	II区	TABMD	3	瓦質	火鉢	錐状	17.4	—	(10.7)	(1186)	粘土紐 ロクロ	黒色	外面: 内面: 見込:		石英粒多量、長石粒多量、細雲母多量、黒褐色	底部が欠損、内部内面はへらナデ、口縁部から内面はナデ内面は洗滌、体部外面は叩きによって縦を表現している。	在地	幕末明治		60		
344	II区	TABMD	4	陶器	灯明皿	下皿	9.6	4.6	2.0	(62)	ロクロ	鉄輪(轆輪) 赤茶色	外面: 内面: 見込:		鉄輪は内面と外面口縁部で体部で輪縁	長石粒多量、砂質	内面と外面口縁部はヨコナデ、下端へら削り、底部外面はへら削り、内面には重ね焼きの台の痕がある。	七面	1834~1874	小砂陶土	60	
345	II区	TABMD	5	陶器	灯明皿	上皿	[10.7]	[5.0]	1.9	(30)	ロクロ	鉄輪(轆輪) 黒藍色	外面: 内面: 見込:		面受部の立上りは口縁より高く外反している。	長石粒多量、砂質	内面はロクロ目外面はへらナデが密にされている。鉄輪内面のみ。	七面	1834~1874	小砂陶土	10	
346	II区	TABMD	6	陶器	鉢	百合口鉢	18.7	7.2	10.0	(609)	ロクロ削り高台	鴨の糞輪 淡青灰色	外面: 内面: 見込:		ロクロ成形後口辺部を内側に指ナデで押入百合口にしている。	長石粒多量、黒色砂粒多量、砂質土、淡褐色	底部は直立し、内側してから外反する。鴨の糞輪を軸とし鉄輪を手前を外面に染み内面に流し掛け、内外面に洗滌りしている。	七面	1834~1874	小砂の胎土	90	
347	II区	TABMD	7	陶器	土瓶	糸目土瓶	[7.4]	—	(7.3)	(64)	ロクロ	鉄輪 褐色	外面: 内面: 見込:		体部糸目	黒色微砂粒少量、粘土質、淡褐色	側面が斜張り、下端は無紋で僅かな貫子状。内面に施されているが無輪の部分がある。	七面	1834~1874	松岡日曜の胎土	10	
348	II区	TABMD	8	陶器	土瓶	鎌白土瓶	[7.0]	—	(10.4)	(75)	ロクロ	鴨の糞輪 青白色	外面: 内面: 見込:		短めの鉄輪口	黒色微砂粒中量、粘土質、淡褐色	体部が円く、腰は三孔、釉薬がやや厚目、内面は無輪帯であるが灰張りがある。	松岡	1803~1869	日曜陶か	10	
349	II区	TABMD	9	陶器	行平	把手	[10.7]	[5.0]	1.9	(30)	型作り	鉄輪 茶色	外面: 内面: 見込:		上面の文様と下面の彫文を型抜きし組み合行平に張付けている。	黒色微砂粒少量、粘土質、淡褐色土	行平部に対して把手の角度が鋭角である。蓋受け部は無輪、把手は彫文	七面	1834~1874	松岡日曜の胎土	1	
350	II区	TABMD	10	陶器	行平	蓋	[13.6]	ツマミ1.7	3.2	(68)	ロクロ	ロクロ	外面: 内面: 見込:		甲部中に施地	黒色微砂粒多量、粘土質、淡褐色	甲部は縦帯を施さない中央と周縁に鉄輪(轆輪)を施す。内面は縦帯部を除いて鉄輪を施す。ツマミはボタン状	七面	1834~1874	松岡日曜の胎土	30	
351	II区	TABMD	11	陶器(佐器)	桶鉢	飯桶鉢	[24.6]	—	(7.1)	(63)	ロクロ	抜き締め、赤褐色	外面: 内面: 見込:		10本の桶目を施し、口辺内面をヨコナデ目桶目の縁りけし	長石粒多量、大きいものが目立つ。	縁帯が三段で薄手である。	瀬戸	19世紀前半		2	
352	II区	TABMD	12	瓦質	瓦	棟込瓦	[24.6]	13.1	(3.7)	(731)	型作り	灰色	外面: 内面: 見込:		長石粒多量、黒色砂粒少量、粘土質、灰色	型に入れて成形して、五本の桶目を井桁状に入れ、半円形の粘土を型抜きし輪縁に張付けている。	在地	江戸中期		10		
353	II区	TABMD	13	木製品(ブナ)	椀	漆器椀	—	—	(3.5)	(67)	ロクロ	黒色	外面: 内面: 見込:		割木爪文		高台と口縁部が欠く、厚目の底部から開く・黒漆に赤漆で家紋を描く。	在地	江戸		40	
354	II区	TABMD	1	土師質	埴師	四角	20.2	22	21.5	(3600)	型作り 擦合	淡黒褐色	外面: 内面: 見込:		二重構造で風口が横引き型になっている。	金雲母・褐色粒を多量に含む	掛口は内側し受の突起が付いている。	在地	幕末明治	金雲母	40	
355	II区	TABMD	2	土師質	大甕		[60.0]	—	(5.4)	(1754)	型作り ロクロ	褐色	外面: 内面: 見込:		縁帯が大きい。	長石粒多量、金雲母多量、砂質、赤褐色	縁帯は粘土を折り返している。	在地	幕末明治	金雲母	1	
356	II区	TABMD	3	瓦質	甕	円筒	[32.0]	—	(13.2)	(1545)	粘土紐 ロクロ 手びね	黒色	外面: 内面: 見込:		円筒形に「道下」字の火口がある。	長石中量、砂質、褐色	口縁には外側に縁帯が付き受はなく、縦縁帯を掛けたものである。	在地	幕末明治		15	
357	II区	TABMD	4	瓦質	甕	円筒	[14.0]	(14.3)	(1197)		粘土紐 ロクロ 手びね	黒色	外面: 内面: 見込:		二重構造の受部付近にある。	石英粒多量、長石粒多量、褐色粒多量、淡褐色	口辺と底部が欠く、円筒の受部で下部が灰張りで火口の一部分がある。	在地	幕末明治		10	
358	II区	TABMD	5	瓦質	甕	円筒	[26.6]	—	(14.3)	(545)	粘土紐 ロクロ 手びね	黒色	外面: 内面: 見込:		風呂口の甕で口縁から(1)字状の切込を入れている。口縁には三角形の輪受けを付けている。	長石粒多量、褐色粒多量、やや砂質	(1)字状の切込の脚が付き懸縁部の底面から甕状の切込を入れている。口縁には三角形の輪受けを付けている。	在地	幕末明治		10	
359	II区	TABMD	6	瓦質	甕	円筒	[25.0]	(9.2)	(659)		粘土紐 ロクロ 手びね	黒色	外面: 内面: 見込:		舌状の火口がある。	長石粒多量、褐色粒多量、やや砂質	上方を欠く。円筒の底部片に三足の足が付く。	在地	幕末明治		10	
360	II区	TABMD	7	陶器	灯明具	高灯	5.2	3.8	4.9	63	ロクロ 糸切	鉄輪 底部無輪 茶色	外面: 内面: 見込:		舌状の芯立てがある。	長石粒多量、黒色砂粒多量、茶褐色	高灯で底部糸切で中央に灯明台に連結する孔が穿孔されている。	小砂	嘉永4年~明治20年		100	
361	II区	TABMD	8	陶器	灯明具	高灯	5.3	4.6	5.5	76	ロクロ 糸切	鉄輪 褐色	外面: 内面: 見込:		舌状の芯立てで使われ、底面に明線がある。	長石粒多量、黒色砂粒多量、淡灰白色	坪部は内湾し、台部は坪部より大きく反り上がっている。胎土は坪部から脚部の中心までで、灰張りがある。	七面	1834~1874	小砂陶土	100	
362	II区	TABMD	9	陶器	鉢	水鉢	—	[13.0]	(5.4)	(134)	ロクロ 底面へら削り	外面透明釉	外面: 内面: 見込:		浅い削り出し高台で、高台内は透明釉、底面は鉄輪	長石微砂粒少量、黒灰色	内面は化粧土を塗り裏面に亀地の絵を施している。底面外周には角の境目痕がある。	益子	嘉永4年~明治20年		5	
363	II区	TABMD	10	陶器	摺鉢		[38.6]	[18.8]	16.4	(1273)	ロクロ削り高台	外面・内面口辺鉄輪、脚部は鉄輪	外面: 内面: 見込:		浅い削り出し高台で外面は二面削り、内面内周に重ね焼痕あり	長石粒少量、やや砂質、赤褐色	口縁は粘土を折替えし三段、内面の脚部は1段で底面は縦帯に施文している。底部にはアルミナを塗っている。	笠間か	幕末明治		20	
364	II区	TABMD	11	陶器	桶鉢		36	16	14.8	(1919)	ロクロ削り高台	外面・内面口縁鉄輪、赤褐色、脚部は鉄輪	外面: 内面: 見込:		浅い削り出し高台で外面は二面削り、内面内周に重ね焼痕あり	長石粒多量、やや粘土質、淡褐色	口縁は粘土を折替えし二段、内面の脚部は2段で底面には体部から連続して施文している。墨書「下市ロ口」	七面	1834~1874	松岡日曜の胎土	60	

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形制	推定製作地	推定時期	備考	残存率
							口径・長さ	底径・幅・径	器高・高さ・厚			絵付・釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴						
365	II区	8BMD	12	陶器	水鉢		16	[13.0]	(2000)		ロクロ削り高台	外面鉄軸 襷状	外面：内面：見込：長石粒中量、褐色粒微量、やや砂質、乳白色	削り出し高台で裏付は無軸で丸味を帯びる。内面には鉄軸	外面は鉄軸を軸し砂粒の密土を貼付している。内面には鉄軸口縁を掛け、鉄軸の軸差れがある。7個底台痕	瀬戸	19世紀後半		30	
366	II区	8BMD	13	陶器	楕木鉢		[12.4]		(5.5)	(79)	ロクロ	外面と内面口辺鉄軸 明褐色	外面：内面：見込：長石粒微量、砂質	口辺が厚く外反し、体部に二重の沈帯があり下半が窄まる。	口辺が厚く外反し、体部に二重の沈帯があり下半が窄まる。	瀬戸	19世紀後半	小砂陶土	20	
367	II区	8BMD	14	陶器	便器	女用	31.0	26.0	15.5	(3000)	板作り接合	黄褐色釉	外面：内面：見込：長石粒少量、やや粘土質、淡褐色		金隠しの部分で薄し部分は無軸	瀬戸	明治		20	
368	II区	8BMD	15	磁器	猪口	楕円形	[6.5]	3.0	4.5	(49)	ロクロ削り高台	銅版転写 透明釉	外面：多様な文様 内面：内面：見込：体部下端二重、高台輪・底部外周に具象図様	黒色微砂粒多量、テカリ有	厚みの底部から内湾し、底面は凹状	瀬戸	明治後半		50	
369	II区	8BMD	16	磁器	猪口	丸形	7.6	2.9	4.0	(83)	ロクロ削り上座高台	銅緑釉	外面：内面：見込：外面飛輪、量付内面無軸	白色、テカリ有	厚みの底部から内湾し、底面は凹状	瀬戸	明治後半		90	
370	II区	8BMD	17	磁器	急須	蓋	5.0	—	(1.3)	(18)	ロクロ	染付 透明釉 器面乳白色	外面：海草文 内面：内面：見込：灰色		急須の蓋でツマミが欠、空気穴一孔、内面に「分八製」の貞章あり	会津本部	明治20年代		90	
371	II区	8BMD	18	瓦質	瓦	棧瓦	(15)	(15.8)	3.8	570	型作り	焼成 濃灰色	外面：ナデ、テカリ有 内面：ヨコナデ 見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			在地	江戸後期		20	
372	II区	8BMD	19	瓦質	瓦	雁振り瓦	26.5	14.8	5.6	(1019)	型作り接合	焼成 濃灰色	外面：ナデ 内面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色		丸瓦部に有段部を接合しへら調整している。内面には棒状の型痕がある。	在地	江戸中期		70	
373	II区	8BMD	20	土製品	土管		土管口径 13.2		(11.2)	(378)	粘土紐輪 種型作り	マンガン釉	外面：内面：見込：長石粒、砂粒多量、砂質、褐色		粘土紐輪種面が明瞭に残る。小管で器壁が薄く、有段部内面に重ね焼痕がある。マンガン釉が前面に施す	在地	明治後半		2	
374	II区	8BMD	21	石製品	弁戸枠	円形	54.0	15.2	9.5	4.1			外面：内面：見込：泥岩			在地	江戸		30	
375	II区	8BMD	22	石製品	敷石	平板	(30.2)	(18.6)	5.7	(1610)			外面：内面：見込：泥岩			在地	江戸		1	
376	II区	8BMD	23	木製品トナキ	漆器碗				(3.2)	(42)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			80	
377	II区	8BMD	24	竹製品タテモノ	箸		(13.1)	(10.7)	(0.4)	(1)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			50	
378	II区	8BMD	25	木製品キリ	下駄		22.0	10.1	4.7	(423)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			80	
379	II区	8BMD	26	木製品ケヤキ	日傘	頭軸	8.4	(13.5)	7.3	(1323)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			5	
380	II区	8BMD	27	木製品アツキ	注口	樽	10.3	4.6		111			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			1	
381	II区	8BMD	28	木製品	柄		48.0	4.4	4.5	222			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			80	
382	II区	8BMD	29	木製品	部材	六角盤	(21.7)	(10.5)	(4.0)	(355)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			80	
383	II区	8BMD	30	木製品	部材	八角盤	19.7	19.3	1.3	185			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治			80	
384	II区	8BMD	31	木製品	部材	円形盤	(22.8)	(13.5)	1.4	(152)			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治				
385	II区	8BMD	32	木製品	部材		10.1	5.9	3.5	133			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治				
386	II区	8BMD	33	木製品	部材		25.8	3.2	2.2	59			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治				
387	II区	9BMD	1	土師質	カワラケ	皿形	4.9	4.0	0.7	(14)	ロクロ糸切	褐色	外面：内面：見込：長石微砂粒多量、黒色微砂粒微量、やや砂質、褐色		薄い皿で内面が窪む。	在地	幕末明治		90	
388	II区	9BMD	2	土師質	小鉢		[13.2]		(3.6)	(28)	ロクロヘラ削り	黒褐色	外面：内面：見込：長石微砂粒多量、黒色微砂粒微量、金雲母少量、やや砂質、褐色		体部は内湾し口縁は外反、底部は丸底でヘラ削り	在地	幕末明治	白雲母	20	
389	II区	9BMD	3	瓦質	カワラケ	皿形	[7.0]	1.1	1.1	(6)	ロクロ糸切	黒色	外面：内面：見込：黒色微砂粒微量・やや粘土質で褐色		口縁に油煙がある。	在地	幕末明治		10	
390	II区	9BMD	4	瓦質	小鉢		[13.0]	[10.0]	(2.8)	(27)	ロクロ	黒色	外面：内面：見込：長石粒多量、石英粒微量、黒色微砂粒微量、灰白色		内面と体部外周はヨコナデヘラ削り	在地	幕末明治	瓦皿か	10	
391	II区	9BMD	5	瓦質	甕	把手付	[34.0]		(11.5)	(499)	粘土紐ロクロ手ひね	黒色	外面：内面：見込：長石粒少量、石英粒微量、砂質、灰色		縁帯が外方にあり円筒形。体部に弧状の把手が付く。内面に僅か溶着している。	在地	幕末明治		10	
392	II区	9BMD	6	磁器	碗	楕円形	[9.2]	[3.4]	4.9	(33)	ロクロ削り高台	染付 透明釉	外面：内面：見込：外面：菊花文 内面：草文 見込：草文	量付無軸、高台内面透明釉	黒色微砂粒多量、白色	高台がやや高く、外反して開く。器壁が薄く、透明釉に欠け性がある。	瀬戸	18世紀後半		10
393	II区	9BMD	7	陶器	鉢	楕円形	[15.0]	4.9	7.7	(130)	ロクロ削り高台	鉄軸の裏焼流し	外面：内面：見込：高台は外面に接合があり、内面は内湾してから平らになる。 黒色微砂粒多量、白色		高台は低く上座状、厚い底部から外反して開き器壁が薄くなる。口唇は内湾する。	大塚相馬	18世紀後半		20	
394	II区	9BMD	8	陶器	土瓶	鉄砲口		5.6	35		鉄軸 濃茶色	外面：内面：見込：長石粒微量、黒色微砂粒少量、粘土質、灰色		鉄砲口で僅かに茶溜りがある。	七面	1834～1874	小砂の磁土	2		
395	II区	9BMD	9	陶器	土瓶蓋	披せ蓋	6.0	ツマミ径 1.3	4.2	99	ロクロ	鉄軸 濃茶色	外面：内面：見込：長石粒微量、黒色微砂粒少量、粘土質、灰色		傘方で受部が長い。ツマミ円頭部非八面が型抜きで表現されている。	七面	1834～1874	小砂の磁土	90	
396	II区	9BMD	10	陶器	徳利	ペコカン	3.4		(14.7)	(227)	ロクロ	鉄軸 褐色	外面：内面：見込：長石粒微量、黒色微砂粒少量、粘土質、淡灰褐色		内面のロクロ目は細かく、外面はヘラ削りしている。肩部と頸部の境には細い線がある。体部を押しこむ。	瀬戸	18世紀後半		20	
397	II区	9BMD	11	陶器	水筒		6.6	4.2	4.5	78	ロクロ削り高台	灰軸 淡青白色	外面：内面：見込：開口蓋部上面に「梅花文」に型押しがある。量付・高台内面無軸		小柄に3分の1の天井と注口を接合した、接合部には一孔がある。	美濃	18世紀後半		100	
398	II区	9BMD	12	磁器	猪口	楕円形	6.2	2.4	3.1	(35)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 淡青白色	外面：内面：見込：外面：無文、量付有 内面：花文 見込：花文	外面無文、量付有	黒色微砂粒多量、テカリ有	小さい底部から丸味を帯びて開き外反する。	瀬戸	18世紀		90
399	II区	9BMD	13	磁器	碗	楕円形	9.1	3.7	4.5	98	ロクロ削り高台	染付 透明釉 淡青白色	外面：内面：見込：外面：唐草文 内面：口辺圓線 見込：草文	量付無軸、高台内面透明釉	黒色微砂粒多量、テカリ有	直立の高台。外面口縁と高台輪、内面外周に圓線	瀬戸	18世紀		90
400	II区	9BMD	14	磁器	碗	筒丸形	7.0		(5.3)	(69)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 白色	外面：内面：見込：外面：二重電目文 内面：無		外面口辺に帯状の圓線、下に二重電目文	肥前	1820～1860		40	
401	II区	9BMD	15	磁器	碗	楕円形	10.6	4.4	5.8	(155)	ロクロ削り高台	染付 透明釉 淡青白色	外面：内面：見込：外面：花電目文 内面：帯状圓線 見込：4重弁折文	体部下端一重、高台輪二重、内面外周一重圓線	白色、テカリ有	太振りで高台がやや高く、厚みの底部から外反する。	肥前	1820～1860		90
402	II区	9BMD	16	磁器	壺	小壺	[1.8]	4.4	7.5	(89)	ロクロ削り底	瑠璃釉軸抜	外面：内面：見込：外面：瓶抜梅文 内面：無		底部は上座削り	瀬戸	18世紀後半		80	
403	II区	10BMD	1	瓦質	鉢		[18.6]		(3.7)	(23)	細作りロクロ	黒色	外面：内面：見込：石英粒微量、長石粒多量、白色針状鉱物微量、砂質、淡褐色			在地	幕末明治		1	
404	II区	10BMS	1	木製品スギ	漆器	円形	40	41.6	3	2300			外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			幕末明治				
405	III区	1BMD	1	漆焼	漆碗				(10.6)	124	ロクロ	白色	外面：内面：見込：黒色微砂粒少量、粘土質、灰色			七面か	1834～1874		1	
406	III区	1BMD	2	磁器	碗	楕円形	[9.4]	3.3	4.5	(58)	ロクロ削り高台		外面：内面：見込：外面：椀山水文 内面：帯状圓線 見込：雲か	量付無軸、高台内面透明釉	白色、テカリ有	高台細身でやや高く高台輪より高い。外面口縁部帯状、体部下端、高台輪二重の圓線	肥前	19世紀前半		30

No.	工区	遺構名	出土位置	材質	器種	形状特徴	法量(cm)			重量	成形調整	装飾			胎土色・夾雑物	印・銘 墨書 技法・形態	推定製作地	推定時期	備考	残存率
							口径・長さ	底径・幅	器高・高さ・厚			絵付/釉薬/色調	文様・モチーフ・仕上げ	装飾・技法特徴						
407	Ⅲ区	1BMS1	1	土師質	カワラケ			[5.3]	(1.7)	(17)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	褐色粒多量、淡褐色	底部板状圧痕	在地	江戸前期		5	
408	Ⅱ区	1EHR	1	瓦質	カワラケ		[7.0]	[4.8]	1.3	(14)	ロクロ 糸切	黒色	外面: 内面: 見込:	長石粒微量、灰色	糸切痕が底部の内側にある、内面と口縁外面に油煙が着着	在地	江戸中期		30	
409	Ⅱ区	2EHR	1	瓦質	鱗		[33.6]		(4.8)	(48)	紐作り ロクロ	黒色	外面: 内面: 見込:	長石粒少量、褐色粒微量、やや砂質、淡褐色		在地	幕末明治		1	
410	Ⅱ区	2EHR	2	陶器	壺蓋	落し蓋	6.6		1.6	38	ロクロ	鉄輪 轆の裏輪流し	外面: 内面: 見込:	黒色微砂粒微量、粘土質、淡褐色	二耳蓋の落し蓋	瀬戸	1834~1874		95	
411	Ⅱ区	3EHR	1	陶器	天目茶碗		[12.0]		(4.6)	(15)	ロクロ	鉄輪	外面: 内面: 見込:	長石粒多量、黒色微砂粒微量、淡灰白色	鉄輪天目茶碗で口辺の小片で形態は瀬戸大窯初期の形態	瀬戸	1650~1670年代		1	
412	Ⅱ区	1ED	1	土師質	カワラケ		[7.2]	[5.2]	1.2	(6.0)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石粒微量、淡褐色		在地	江戸中期		20	
413	Ⅱ区	1ED	2	磁器	碗		[10.2]		(5.0)	(40)	ロクロ	染付透明輪	外面: 網目模文 内面: 見込:	網目区画に梅を描く。	褐色粒多量、白色	外面口縁二重、下端一重の圏線	肥前	1650~1670年代		20
414	Ⅲ区	1EMS	1	木製品 ヒノキ	樽	円形	40.0	41.6	3.2	1600			外面: 内面: 見込:							底板
415	Ⅲ区	1EMS	2	木製品 ヒノキ	樽	長方形	(12.3)	10.8	1.8	51			外面: 内面: 見込:							側板
416	Ⅲ区	1EMS	3	木製品 ヒノキ	樽	長方形	(20.4)	5.8	1.5	51			外面: 内面: 見込:							側板
417	Ⅲ区	2EMS	1	木製品 スギ	板	円形	21.6	21.7	1.5	332			外面: 内面: 見込:							
418	Ⅳ区	1E1D	1	陶器	皿	鉄絵皿	[11.9]	[7.4]	2.1	(23.0)	ロクロ 削り高台	鉄絵 透明輪	外面: 葛唐文 内面: 見込:	長石粒多量、黒色微砂粒微量、淡灰白色	高台は外面を大きく削り、内面の削りは浅く三角の突起になっている。瀬戸大窯初期	瀬戸	1650~1670年代		5	
419	Ⅳ区	1E1D	2	陶製品	銭貨	一銭	2.77	2.77	0.13	(7.0)			外面: 内面: 見込:		表「一銭 以百枚換一円」裏「明治十八年・ME18・大日本」	日本	明治18年		100	
420	Ⅳ区	1E2KS	1	土師質	カワラケ	皿形	6.2	5.0	1.4	32	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		100	
421	Ⅳ区	1E2KS	2	土師質	カワラケ	皿形	6.0	4.8	1.5	40	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		100	
422	Ⅳ区	1E2KS	3	土師質	カワラケ	皿形	6.4	4.8	1.3	44	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		100	
423	Ⅳ区	1E2KS	4	土師質	カワラケ	皿形	6.3	4.8	1.5	36	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		100	
424	Ⅳ区	1E2KS	5	土師質	カワラケ	皿形	6.5	4.9	1.4	44	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		80	
425	Ⅳ区	1E2KS	6	土師質	カワラケ	皿形	6.6	5.0	1.3	39	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	内底面が凸で指ナデ痕	在地	江戸中期		100	
426	Ⅳ区	1E2KS	7	土師質	カワラケ	杯形	11.5	5.6	3.3	(90)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	底部から内湾して開き口縁部が細くなる。	在地	江戸中期		60	
427	Ⅳ区	1E2KS	8	土師質	カワラケ	杯形	11.2	6.0	3.3	(145)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		90	
428	Ⅳ区	1E2KS	9	土師質	カワラケ	杯形	10.7	5.0	3.4	(100)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		60	
429	Ⅳ区	1E2KS	10	土師質	カワラケ	杯形	11.4	6.2	3.2	(154)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		90	
430	Ⅳ区	1E2KS	11	土師質	カワラケ	杯形	11.3	5.7	3.2	(125)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		80	
431	Ⅳ区	1E2KS	12	土師質	カワラケ	杯形	11.5	5.5	3.5	(122)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		90	
432	Ⅳ区	1E2KS	13	土師質	カワラケ	杯形	11.4	5.8	3.1	(110)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		70	
433	Ⅳ区	1E2KS	14	土師質	カワラケ	杯形	11.6	5.8	3.3	147	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		90	
434	Ⅳ区	1E2KS	15	土師質	カワラケ	杯形	[11.6]	6.0	3.5	(105)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、黒色微砂粒微量、砂質、淡褐色	厚目の底部から外縁する。	在地	江戸中期		60	
435	Ⅳ区	1E2KS	16	土師質	砂質カワラケ	杯形	[11.4]	5.5	3.0	(78)	ロクロ 糸切	褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒微量、金雲母微量、白色針状物質中量、褐色	底部から内湾して開き、内面が凸、底部貫子状圧痕	在地	江戸中期		40	
436	Ⅲ区	1E42	1	土師質	カワラケ	皿形	[5.3]	3.4	1.6	(13)	ロクロ 糸切	灰褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒中量、褐色粒微量、灰褐色	底部から外反して開く。	在地	江戸前期		30	
437	Ⅲ区	1E42	2	土師質	カワラケ	皿形	[6.6]	[5.0]	1.7	(11)	ロクロ 糸切	褐色	外面: 内面: 見込:	長石粒微量、褐色粒子を多量、砂質、褐色	底部が厚く外縁する。	在地	江戸前期		30	
438	Ⅲ区	1E42	3	土師質	カワラケ	皿形	6.0	4.2	1.9	44	ロクロ 糸切	淡茶褐色	外面: 内面: 見込:	長石粒中量、褐色粒微量、淡茶褐色	底部・体部とも厚く外縁する、内面指ナデ、底部突き出し	在地	江戸前期		100	
439	Ⅲ区	1E42	4	土師質	カワラケ	杯形	[6.0]	(1.7)	(21)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒多量、黒褐色粒少量、金雲母微量、黒褐色	口辺を欠く、底部突き出し	在地	江戸前期		10		
440	Ⅲ区	1E42	5	土師質	カワラケ	杯形	[5.2]	(2.1)	(2.4)	ロクロ 糸切	茶褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒少量、褐色	底部が厚く、突き出し、外縁する。	在地	江戸前期		5		
441	Ⅲ区	1E42	6	土師質	カワラケ	杯形	11.8	5.5	3.1	(123)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒少量、褐色粒微量、砂質、淡褐色	底部突き出しの底部から外反開く、油煙があり灯明皿として使用	在地	江戸前期		40	
442	Ⅲ区	1E42	7	瓦質	カワラケ	杯形	[11.4]	4.8	3.0	(79)	ロクロ 糸切	淡褐色	外面: 内面: 見込:	長石粒多量、長石粒微量、白色針状物質微量、砂質、淡褐色。	突き出しの底部から外反して開く。	在地	江戸前期		20	
443	Ⅲ区	1E42	8	瓦質	カワラケ	杯形	[12.0]		(2.8)	(40)	ロクロ	黒褐色	外面: 内面: 見込:	長石微砂粒中量、金雲母少量、白色針状物質微量	底部を欠く、器高が厚く反する。	在地	江戸前期		5	
444	Ⅲ区	1E42	9	土師質	カワラケ	杯形	[10.6]		(1.7)	(6)	ロクロ	淡褐色	外面: 内面: 見込:	黒色砂粒少量、砂質、淡褐色	口辺部片	在地	江戸前期		1	
445	Ⅲ区	1E42	10	陶器	皿	雙皿	[9.0]		(1.7)	(8)	ロクロ	鉄輪 茶色	外面: 内面: 見込:	長石粒少量、やや粘土質、灰白色	鉄輪雙皿でロクロ成形後外面から棒状のもので押圧している。	大津	1560~1590		1	
446	Ⅲ区	1E42	11	陶器	皿	丸皿	10.3	6.1	2.6	(63)	ロクロ 削り高台	灰釉 淡緑色	外面: 内面: 見込:	長石粒多量、黒色微砂粒微量、淡灰白色	削り出し高台で、底部に輪トチンの痕あり、縁輪小皿で大窯中期	瀬戸	1560~1590		60	
447	Ⅲ区	1E42	12	陶器	皿	楕円形	[14.0]		(2.1)	(7)	ロクロ	灰釉 鉄絵	外面: 内面: 見込:	長石粒中量、黒色微砂粒微量、褐色土	口辺部の小片、鉄輪絵	唐津	1594年~1610年代		1	
448	Ⅲ区	1E42	13	磁器	皿	中皿	[11.6]		(2.2)	(3)	ロクロ	染付 透明輪	外面: 草文 内面: 見込:	白色、黒色微砂粒微量	中皿の小片である。	豊後藩	江戸前期		1	
449	Ⅲ区	1E42	14	瓦質	丸瓦		[20.3]	(11.3)	(4.0)	(274)	型作り	黒灰色	外面: タケナデ 内面: 布目 見込:	布目が細かい。	長石砂粒多量、砂質	有段部と一体作り、段は短く両側面を削り台形にしている。広瀬部は内側から斜めにへラ削りしている。	在地	江戸前期		40

第6表 出土遺物集計表

時代		現 代 ~ 江 戸																											
種別		アルミ缶								スチール				プラスチック															
産地		ファンタ グレープ		ファンタ オレンジ		ヤクルト ピーチ ネクター		サンキス トレモンド ミルク		キリンレ モン		SAPPO RO		ミヨシ マーガリ ン		ミルク入 りコー ヒー		カルピス		コココー ラ		ファン タグレー プ		サッポロ ビール		赤褐色 皿		白色蓋	
器種		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後	
推定時期		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後	
遺構面		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ	
遺構名		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ		個数		重さ	
調査区	一括																												
	I区																												
	II区																												
	III区																												
	IV区																												
現代面	II区	1GHD			2	100												1	52	1	64	1	55	1	10	1	1		
	II区	2GHD																											
近代面	II区	II層	1	50							1	78	1	116															
	III区	II層																											
	IV区	II層																											
	I区	4KST																											
	II区	1KST																											
		3KST																											
		1KS																											
		2KS																											
		3KS																											
		1KDH																											
		1KRM																											
		1KHD																											
		2KHD																											
		3KHD																											
	1KMN																												
	2KMN																												
	1KHS																												
	III区	2KST																											
		1KS																											
		2KS																											
	IV区	1KHD																											
		1KKA																											
		6KST																											
	II区	1KS																											
		1KID				1	53	1	51	1	21				1	46	1	51											
幕未明治	II区	壁面																											
	III区	III層																											
	II区	1ABMD																											
		1BBMD																											
		2BMD																											
		3BMD																											
		4ABMD																											
		4BBMD																											
		4CBMD																											
		4DBMD																											
		5BMD																											
		6BMD																											
	7ABMD																												
	7BBMD																												
	7CBMD																												
	8BMD																												
	9BMD																												
	10BMD																												
	1BMM																												
	1BMMS																												
3BMKA																													
III区	1BMST																												
	1BMD																												
江戸一面	II区	IV層																											
	IV区	IV層																											
	II区	1EHR																											
		2EHR																											
		3EHR																											
	III区	2EM																											
		1ED																											
		3EHT																											
IV区	1EMS																												
	2EMS																												
江戸二面	IV区	IV層																											
	IV区	1E2KS																											
江戸四面	III区	1E4Z																											
計量	個数	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	重量		50	100	53	51	21	78	116	46	51	52	64	55	21	1													

戦 器																																			
磁 肥																																			
鉢		化粧土刷毛鉢		皿		盃		平酒盃		薄緑化粧土德利		蠟抜コバルト德利		紅葉プリント飯碗		プリント飯碗		緑袖筒湯呑		プリント赤彩湯呑		コバルト雨降文湯呑		プリント蓋付鉢		プリント絵井		鳳文ラーメン井							
戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後	戦中	戦後				
個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重		
数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ	数	さ		
点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g
5	83			1	9	1	2																												
		1	23					1	16	1	15	1	28	1	105			3	55	1	17			1	16							7	206		
																				1	29					1	15								
														1	11													4	155						
5	83	1	23	1	9	1	2	1	16	1	15	1	28	1	105	1	11	3	55	1	17	1	29	1	16	1	15	4	155	7	206				

戦後																															
瀬戸																															
飯碗		型紙青磁碗		緑釉鉄刷毛飯碗		コバルトプリント絵飯碗		蠟抜緑釉黒竹文飯碗		ナデンコプリント飯碗		皿		井		外縞井		井蓋		湯呑茶碗		コバルト線湯呑		菊文プリント鉢		蓋物鉢		コバルト抜蓋		徳利	
戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	戦後	
個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g		
1	41																														
2	114									6	122	10	465				2	73	3	48					1	11			1	30	
		1	16	1	60	2	17	1	50	3	16											1	42								
																				1	30										
															4	62						1	56			1	16				
																	1	42													
3	155	1	16	1	60	3	27	1	50	3	16	6	122	11	507	4	62	2	73	4	78	1	42	1	56	1	11	1	16	1	30

戦 後																															
瀬 戸						美 器																									
コバルト プリント 猪口		コーヒー カップ		火鉢		緑釉線 国民食 器碗		墨絵碗		碗		鉄釉飯 碗		湯呑茶 碗		色絵梅 文湯呑		プリント 筒形湯 呑		金結漿 湯呑		板縁皿		型紙絵 付輪花 皿		プリント 洋皿		コバルト 線井		型抜八 卦文井	
戦後		戦後		戦後		戦中		戦中		昭和		戦後		戦後		戦前		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		戦後		昭和	
個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g		
		1	9	1	54																										
														1	61	1	36			1	14							1	23		
												1	4				2	7										1	58		
						2	23	1	9					1	104							1	42			1	21	1	92		
														3	104																

大 正 磁 器 前																															
肥 前										瀬 戸																					
染付飯碗		線描濃絵飯碗		緑呉須線中鉢		蓋		湯呑茶碗		青磁割取酒杯		コバルト絵中皿		コバルト絵鉢		コバルト丸段重		コバルト扇文猪口		プリント絵猪口		青磁皿		長石釉大皿		端反碗		青磁コバルト染付湯		青磁白盛端反酒杯	
大正		大正戦前		明治大正		大正戦前		明治大正		明治大正		明治大正		明治大正		大正戦前		明治大正		大正昭和		大正昭和		大正昭和		大正		明治大正			
個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg		
1	41			1	43	1	30																								
																									1	23					
																		1	4												
																			1	18											
				1	23																										
2	44	2	64	1	23	1	43	1	30	1	10	2	8	1	21	2	7	2	22	3	32	1	6	1	23	4	8	2	36	1	3

明治																																
土師質土器									瓦質土器																							
在				地					瀬戸				美濃																			
竈		焜炉		焜炉火受		五徳		鉢		火消壺		焜炉		角型火鉢		管		灰釉丸碗		便器		銅版摺繪鉢		鉢		染付碗		型紙飯碗		銅板小碗		
明治		明治		明治		明治大正		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治大正		明治大正		
個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g			
																			13	19							1	20	5	12	4	43
5	406					3	287										1	330														
																										1	15					
5		1		6		3		4		1		3		2		1		14		1		3		1		1		5		4		
406		136		145		287		60		84		1468		120		330		26		3000		36		15		20		12		43		

明治																													
陶器										相馬		常滑		磁器															
益子		コバルト 絵土瓶蓋		山水土瓶		呉須絵 手水鉢		鉄釉糸 目土瓶		鉄釉鉢		鉄釉小 型甕		鉄釉播 鉢		湯飲		井戸杵		染付皿		染付小 碗		染付碗		染付小 鉢		染付瓶	
明治		明治		明治大正		明治大正		明治		明治大正		明治大正		明治大正		明治		明治		明治		明治		明治		明治		明治	
個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g		
																	1	36											
								1	5	2	90	1	74	2	108														
				1	25																								
		4	20																										
																									1	11			
																		2	635								1	7	
																			1	5									
1	50																												
						1	11														2	25	1	1					
						1	6													1	20				1	14			
1	3	1	3																										
		2	21			2	4	1	114				1	163															
2	7		1	4		1		1		2		2		2		1		2		2		2		1		2		1	
53	44		25	21		114		5		90		237		108		36		635		25		25		1		25		7	

江戸磁器																															
肥前																															
染付小碗	染付丸碗		色絵丸碗		青磁丸碗		青磁染付丸碗		染付碗蓋		染付筒丸碗		蒟蒻印版碗		染付小皿		染付中皿		染付角皿		染付中皿蒟蒻5弁		青磁染付中皿		青磁皿		染付大皿		染付八角小鉢		
江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期	江戸中期		
個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g	個 数 点	重 さ g		
			2	25																											
			2	8		2	6									3	131			1	50										
			1	5																											
			4	40		1	2									5	137														
1	7	1	38		1	11																									
			11	59																							1	9			
															1	34															
																										1	32				
			1	7																											
			1	5		1	13																								
			1	6																											
			4	30												2	4														
			1	2								1	5																		
			42	236							1	14					6	38									1	26			
			6	83													1	3							1	13					
			2	10		1	13									1	20														
			6	125		1	110																								
			5	65					7	40		4	62		54	256					1	33									
											1	36			2	6					1	12									
			23	286					2	22				1	83	1	92						3	33							
			1	43		6	99	2	35																		1	67	1	2	
			13	96		4	13			1	33	3	62																		
			28	107	1	2						5	16																		
			3	14																											
			9	64			1	1																							
			4	68																											
1	7	1	171	1422	1	2	18	268	11	97	1	33	14	190	2	88	61	26	749	1	12	1	50	4	66	2	45	3	102	1	2

江戸磁器																																	
紅皿・猪口		白磁型作水滴		染付小碗		透明釉丸碗		染付丸碗		染付碗蓋		色絵染付碗		染付筒丸碗		染付端反碗		瑠璃釉丸碗		青磁丸碗		染付広東碗		鉄絵皿		染付中皿		型紙描八角皿		青磁染付皿			
江戸中期		江戸中期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期		江戸後期			
個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ
								15	170	2	44																						
								5	16																								
								2	26																								
																					1	1											
				5	7			16	72	1	4				1	1				2	50												
		1	1					4	70																								
1	3							53	228			2	9			1	13																
								1	19	1	44			2	20							1	9										
				10	29																												
								6	19																								
								1	2																								
								1	17																								
								4	11																	1	14						
										1	64																						
								6	27																								
1	31																																
								2	18																								
								6	27						17	172																	
								23	117																								
1	9			1	29			34	280	1	10					1	12	3	15						5	42							
1	4					1	8	32	117									6	24						2	10							
								2	52	68	253															6	45	1	1.9				
								1	31	6	29	1	7																				
								60	139													1	65	1	10					1	24		
								12	90							1	3																
								6	24																								
								4	26																								
								32	131			1	3							1	3							127					
								1	4							1	2																
								1	1																								
4		1		17		4		401		7		3		2		21		1		13		2		1		143		1		1			
	47		1		69		91		1933		173		12		20		191		12		93		74		10		119		1.9		24		

江戸																															
磁器																															
色絵染付皿	染付大皿		白磁輪花鉢		染付中鉢		染付大鉢		染付段重蓋		染付急須		染付土瓶		染付爛德利		染付小坏		薄手酒杯		薄手端反酒杯		青磁蕎麥猪口		染付蕎麥猪口		染付広東蕎麥猪口		筒丸小杯		
	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	江戸後期	
個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg	個数点	重さg		
				1	11																			1	24						
																								14	23						
										1	5												2	2							
									1	43								3	3												
															2	26															
1	3									1	15																				
1		2		1		3		1		3		1		2		14		6		8		5		1		20		1		1	
	3		31		1	69		43		48		4		26		100		37		19		12		6		136		28		4	

近世								平安						古墳		總計	
肥前				染付				土師器平安		須恵器平安		土師器前期		個数	重量(g)		
青磁		青磁鉢		青磁鉢		染付皿		坏		高台付盤		蓋					
個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ	個数	重さ		
																28	26679.7
																176	64280
								1	4							42	21517
								1	8							54	3042
																20	601
																155	21932
																48	1403
																8	1468
														1	2	207	13874
										1	10					83	2617
																4	773
																1	55
								1	7							246	8814
																48	5122
																3	259
																34	1819
																15	3970
																13	45971
																5	46
																63	9399.1
																66	7026
																95	5757.1
																2	1084
																2	1077
																2	384
																51	2556
																4	19
																1	223
												2	15			71	2509.3
																5	450
																3	3577
																1	20
																152	103667
																16	816
																274	10065
																182	8149
																3	318
																24	1277
																28	1024
																299	13298.1
																207	13121
																6	916
																379	13774
																327	16603.2
																274	5383.1
																2	51
																211	10769
																114	7040
																5	727
																160	58595
																272	5258
																3	463
																2	203
																1	2300
																1	293
																4	210
																8	382
																5	2547
																3	8
																1	14
																12	156
																1	15
																1	159
																17	370
																2	13
																2	1362
																1	332
																4	90
																1	6
																3	76
																4	49
																52	1655
																53	1625
																1	
																15	
																3	
																1	
																3	
																19	
																1	
																10	
																2	
																15	
																1	
																2	
																4672	
																15	541503.6